

— 茨城県土浦市 —

神立遺跡（第2次調査）

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2022

土浦市教育委員会

— 茨城県土浦市 —

神立遺跡（第2次調査）

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2022

土浦市教育委員会

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川といった自然環境に恵まれた都市です。貝塚や古墳など数多くの遺跡が立地し、古くから人々の暮らしが営まれてきました。これらの遺跡は、昔の生活や文化を現代の私たちに伝えてくれる貴重な遺産といえます。このような貴重な文化遺産を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な任務であり、郷土の発展のためにも大切なことでもあります。

この度、市内神立町地内に所在する神立遺跡において宅地造成に伴う発掘調査が行われました。学術的な研究資料としてはもちろんのこと、土浦市の歴史・文化の究明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係者の皆様のご協力とご支援に対し心から厚く御礼を申し上げます。



令和4年3月

土浦市教育委員会
教育長 入野 浩美

例 言

1. 本書は、茨城県土浦市神立町字稲荷前 1273 番 1 外における、有限会社ネオポリスが計画する宅地造成に伴う神立遺跡第 2 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、事業者の委託を受け、有限会社日考研茨城(代表取締役小川和博)が発掘調査支援を行い、土浦市教育委員会が行った。調査期間は平成 30 年 4 月 2 日～8 月 17 日、調査面積は約 1511.44m²である。
3. 発掘調査は、主任調査員を比毛君男(上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員)が務め、大淵淳志(有限会社日考研茨城)が補佐した。整理作業・報告書作成は、亀井翼(同学芸員)・一木絵理(同学芸員)が担当し、比毛君男(同学芸員)・荒井美香(同会計年度任用職員)・小屋亮太(同会計年度任用職員)・浅野孝利(同会計年度任用職員)が補助した。
4. 整理作業は、調査終了後の平成 30 年 8 月から令和 4 年 3 月まで実施した。作業員は小林圭子、高梨智恵子、岡田博美の 3 名である。
5. 本書の執筆分担は次のとおりである。
一木絵理 第 1 章、第 2 章、第 3 章第 1・2 節、第 4 章
亀井翼 第 3 章第 3 節 1・2
浅野孝利 第 3 章第 3 節 3
6. 本遺跡調査に係る資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。なお遺物・記録図面には「KSK2」を遺跡記号として使用している。
7. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、次の諸機関からご助言・ご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略 五十音順)。
茨城県教育委員会文化課 有限会社ネオポリス

凡 例

1. 遺構の略称に使用した記号は以下の通りである。
竪穴建物：SI 土坑：SK 地下式坑：SX 溝：SD 井戸：SE 屋外炉：SL
攪乱：K ピット：SP
2. 遺構・遺物の実測図中の表記は以下の通りである。
炉・焼土範囲  スス 
3. 遺構・遺物の記述は以下を原則とした。
 - (1) 水系レベルは海拔高度 (m) を示す。
 - (2) 遺物番号は本文・挿図・写真図版とも一致する。
 - (3) 遺構全体図は 1/300、各遺構の実測図は 1/60、1/150、1/200、遺物実測図は 1/2、1/3、1/4、1/6、1/8 の縮尺で掲載してスケールで表示した。
 - (4) 遺構の「主軸」は原則カマドあるいは炉を通る軸線とし、主軸方向はその他の遺構の長軸(径)方向とともに、座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。
 - (5) 遺物の観察表の法量は、A：口径、B：底径、C：器高、() が残存値、[] が復元値を表す。胎土の表記は肉眼観察の結果確認できた鉱物を記した。
 - (6) 土層や遺物の色調は、『新版標準土色帖』(小川正忠・竹原秀雄編著 2002 日本色研事業株式会社)を使用した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次 挿図目次 表目次 写真図版目次	
第1章 調査経緯と経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 検出された遺構	10
1 竪穴建物	10
2 土坑	13
3 屋外炉	32
4 ピット	32
5 地下式坑	36
6 井戸	39
7 溝	42
8 不明遺構	45
第3節 出土遺物	
1 縄文土器	46
2 石製品	56
3 中世遺物	60
第4章 まとめ	62
写真図版	65
報告書抄録	89

挿図目次

第1図 土浦市周辺の地形	2	第10図 第7号竪穴建物	11
第2図 神立遺跡周辺遺跡分布図	4	第11図 第8号竪穴建物	12
第3図 調査区位置図	6	第12図 第9号竪穴建物	12
第4図 遺構全体図(東-1区)	6	第13図 第20-26号土坑	13
第5図 遺構全体図(東-2区)	7	第14図 第27-36,39号土坑	14
第6図 遺構全体図(中央区)	8	第15図 第37,38,40-42,44,45号土坑	15
第7図 遺構全体図(西区)	9	第16図 第43,46-54,56,57号土坑、第1号 ピット	16
第8図 第5号竪穴建物	10	第17図 第55,58-66,71,74,75号土坑、第3号	
第9図 第6号竪穴建物	11		

ピット……………	17	第31図	第6,8,10号地下式坑……………	38
第18図	第67-70,72,73,76,77号土坑、第2,4号 ピット……………	第32図	第9号地下式坑……………	39
第19図	第78-85号土坑、第7,8,12号 ピット……………	第33図	第1,3号井戸……………	39
第20図	第86-94号土坑、第9-11,20,34号 ピット……………	第34図	第4号井戸……………	40
第21図	第95-100,111,112号土坑、第3号屋外炉、 第39,40,94,95,105,122号ピット……………	第35図	第5,7,8,11,12号井戸、第3号不明 遺構……………	41
第22図	第101-109,114-116,118号土坑、第78-87, 92,98-100,103,104,107-116,118号 ピット……………	第36図	第2号溝……………	42
第23図	第110,113,117,119-123,127,130,131,139号 土坑、第88-91,93,96,97,106,118-120, 126-129,134号ピット……………	第37図	第1号溝……………	43
第24図	第124-126,128,129,132-136,140,142,143号 土坑、第121,123-125,130号ピット ……………	第38図	第3号溝……………	44
第25図	第137,138,141,144-152号土坑……………	第39図	第1,2号不明遺構……………	45
第26図	第1,2号屋外炉……………	第40図	縄文土器(1)……………	47
第27図	第6号ピット……………	第41図	縄文土器(2)……………	48
第28図	ピット群1……………	第42図	縄文土器(3)……………	49
第29図	ピット群2,3……………	第43図	縄文土器(4)……………	50
第30図	第5,7号地下式坑、第2号井戸…	第44図	縄文土器(5)……………	51
		第45図	縄文土器(6)……………	52
		第46図	縄文土器(7)……………	53
		第47図	縄文土器(8)……………	54
		第48図	縄文土器(9)……………	55
		第49図	石製品(1)……………	57
		第50図	石製品(2)……………	58
		第51図	石製品(3)……………	59
		第52図	中世遺物……………	60

表目次

第1表	神立遺跡周辺遺跡一覧……………	5	第4表	石製品観察表……………	56
第2表	土坑一覧……………	26	第5表	中世遺物(土器・陶磁器)観察表…	61
第3表	ピット一覧……………	34	第6表	中世遺物(石製品)観察表……………	61

写真図版目次

PL.1	東-1区全景 東-2区全景	坑	第32,38号土坑 第33号土坑
PL.2	中央区全景 西区全景	PL.5	第34号土坑 第35号土坑 第36号土坑 第37号土坑 第39号土坑 第40,42号土坑 第41号土坑 第43号土坑
PL.3	第5号竪穴建物 第6号竪穴建物 第7号 竪穴建物 第8号竪穴建物 第9号竪穴 建物 第20号土坑 第21号土坑 第22号 土坑、第1,3号井戸	PL.6	第44号土坑 第45号土坑 第46号土坑 第47号土坑 第48,49,50号土坑 第51号土 坑 第52号土坑 第53,56号土坑
PL.4	第23号土坑 第24号土坑 第25号土坑 第26号土坑 第27,28号土坑 第30,31号土	PL.7	第54号土坑 第55,59,61,62号土坑 第57号

- 土坑 第58号土坑 第60,64号土坑 第65号土坑 第66号土坑 第67号土坑
- PL.8 第68号土坑 第69号土坑 第70,72号土坑、第2号ピット 第71号土坑 第73号土坑 第74,75号土坑、第3号ピット 第76,77号土坑、第4号ピット 第78号土坑、第131号ピット
- PL.9 第79号土坑 第80号土坑 第81号土坑、第7,8号ピット 第82号土坑 第83号土坑、第12号ピット 第84号土坑 第85号土坑 第86号土坑
- PL.10 第87号土坑 第88,92号土坑 第89,90号土坑 第91号土坑 第93号土坑 第94号土坑、第20,21,33,34号ピット 第95号土坑、第44号ピット 第95号土坑、ピット群3北側
- PL.11 第96号土坑 第97号土坑、ピット群3北東側 第98号土坑、周辺ピット 第99号土坑、第3号屋外炉、第60号ピット 第100号土坑、ピット群1 第101,104,105,106号土坑、周辺ピット 第102,107,114号土坑、周辺ピット 第103,116号土坑、周辺ピット
- PL.12 第108,109,115,118号土坑、周辺ピット 第110号土坑、周辺ピット 第111,112号土坑、周辺ピット 第113,121,123,127,130号土坑、周辺ピット 第117号土坑、
- 周辺ピット 第119,120,122号土坑 第124,125,126,128号土坑、第121号ピット 第129,132,139号土坑、周辺ピット
- PL.13 第131号土坑、第7号井戸 第133号土坑 第134号土坑、周辺ピット 第135,140号土坑 第136号土坑 第137,138号土坑 第141,151,152号土坑 第142号土坑
- PL.14 第144号土坑 第145,146号土坑 第147号土坑 第148号土坑 第149号土坑 第150号土坑 第1号屋外炉 第2号屋外炉、ピット群2北側
- PL.15 第1号ピット 第5号ピット 第6号ピット 第13,41,132号ピット ピット群3西側 第37,45号ピット ピット群2南側 第5号地下式坑、第29号土坑
- PL.16 第6号地下式坑 第7号地下式坑 第8号地下式坑、第143号土坑 第9号地下式坑 第10号地下式坑 第2号井戸 第4号井戸 第5号井戸、第3号不明遺構
- PL.17 第8号井戸 第11号井戸 第12号井戸 第1号溝 第2号溝、第63号土坑 第3号溝 第1号不明遺構 第2号不明遺構
- PL.18 縄文土器(1)
- PL.19 縄文土器(2)
- PL.20 縄文土器(3)
- PL.21 石製品
- PL.22 中世遺物

第1章 調査経緯と経過

今回の調査は、事業者有限会社ネオポリス（代表取締役小津信太郎）が計画する宅地造成に伴う記録保存を目的とした発掘調査である。

この計画地は周知の遺跡である神立遺跡に該当し、数度にわたり埋蔵文化財の取扱についての照会文書が提出され、平成28年11月16～18日、平成29年1月24～26日、5月16・17日の3回にわたり試掘確認調査を実施した。調査の結果、計画地内には広範囲に縄文時代等の遺構が多数分布することが判明した。結果を受けて、事業者と土浦市教育委員会（以下市教委と略）との間で埋蔵文化財取扱の協議を重ね、宅地部分については盛土による地下保存、道路及び雨水浸透施設については事業者の費用負担協力による発掘調査を実施することで合意を得た。

調査体制については、市教委の学芸員が主任調査員となり、労務管理については発掘業務支援によって民間発掘調査組織に委託することとなった。市教委・事業者・民間発掘調査組織の三者による埋蔵文化財保存協定書を平成30年3月6日に締結し、事業者・民間発掘調査組織間で埋蔵文化財発掘調査支援委託契約を締結、市教委と民間発掘調査組織間で発掘調査支援業務に関する覚書を締結した。以下、行政上の手続等を記す。

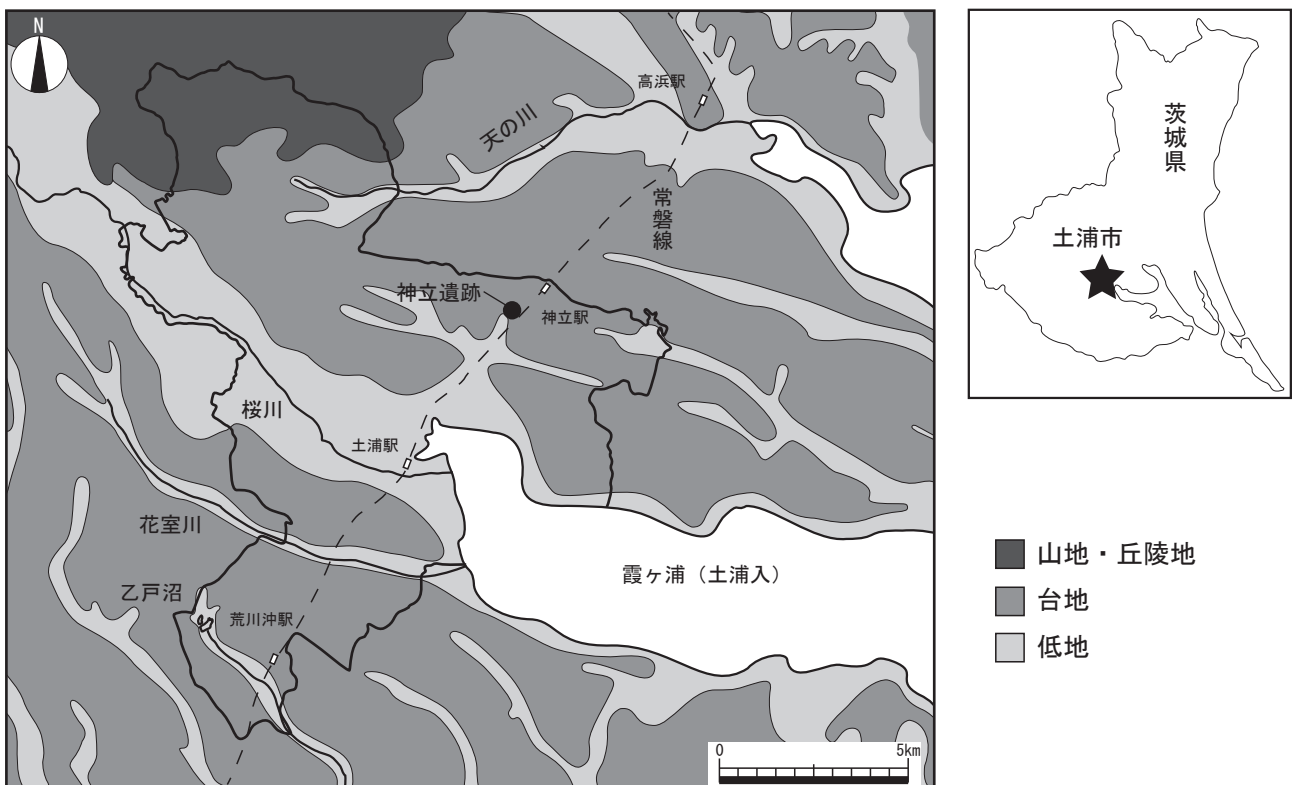
- 平成30年2月21日 土教委発第539号にて埋蔵文化財発掘の届出（第93条）を茨城県教育委員会（以下県教委と略）に進達する。
- 平成30年3月14日 文第3233号にて県教委教育長から事業者あてに周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について、道路及び雨水浸透施設工事について発掘調査を実施し、その他の工事については市教委が立ち会うよう通知がある。
- 平成30年4月2日 発掘調査を開始し、重機による表土除去作業を行う。
- 平成30年4月3日 市教委、土教委発第801号にて県教委に埋蔵文化財発掘調査報告（第99条）を提出する。
- 平成30年8月17日 発掘調査が終了する。
- 平成30年8月22日 市教委が土教委発第1395号にて発掘調査終了確認を県教委に依頼する。同日、市教委、市教委発第1394号にて、遺跡調査終了に伴う埋蔵物発見届を土浦警察署に提出する。
- 平成30年8月31日 県教委、文第1525号にて発掘調査終了を確認する。以後、令和4年3月まで整理作業を行う。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

神立遺跡は、土浦市神立町に所在する（第1図）。土浦市は茨城県南部に位置し、土浦入りで霞ヶ浦に接している。市域の地形は台地と低地に大きく分けられ、台地は市内中央を流れる桜川低地を境として、北に新治台地、南に筑波稲敷台地が分布している。神立遺跡は、境川に合流する支谷を西に臨む新治台地上に立地する。標高は25～26mである。

遺跡の立地する新治台地は、下総層群を基盤とし、その上に武蔵野ローム層、立川ローム層に相当する新期関東ローム層が堆積している（宇野沢ほか1988）。下総層群は下位から地蔵堂層、藪層、上岩橋層、木下層、常総層に区分されている。これらは、海と陸の環境を繰り返していたことを反映して、陸成の砂礫層と海成の砂や泥の繰り返しによって構成されている。そのうち最も新しい海成層である木下層は、主に浅海成の砂からなり、12～13万年前、関東平野が古東京湾と呼ばれる海域であったところに堆積した。海水準の低下に伴い淡水環境になると、氾濫原に常総層が堆積した。常総層では当時の堆積環境を反映して、河道には礫や砂が、後背湿地には泥が堆積している。新期関東ローム層は富士・箱根起源の降下火山灰が風化したものであり、約6万年前から1万年前に、陸地化した台地に堆積した。現在の地表には黒褐色の土壌が発達しているが、これは風成塵などの堆積と土壌生成作用が同時に起こって形成された堆積土壌である。



第1図 土浦市周辺の地形（20万分の1土地分類基本調査『茨城』トレース、改変）

第2節 歴史的環境

南に霞ヶ浦を望む新治台地には、多くの遺跡が残されている（第2図）。とくに、神立遺跡（1）から中貫都市下水路と呼ばれる小河川を挟んで南側の木田余台地区と手野地区では、これまでいくつかの遺跡が発掘調査されている。本節では、これらの遺跡について時代別に概観する。

旧石器時代

木田余東台地区の宝積遺跡（24）、東台遺跡（26）、御霊遺跡（27）、初買場遺跡（28）において、旧石器が発見されている。特に宝積遺跡では石器集中地点が検出されており、硬質頁岩や黒色安山岩製の削器や搔器が出土している。

縄文時代

手野町地区のゴリン山遺跡（45）で草創期・早期の土器群が出土している。このほか、原ノ内遺跡（43）で早期の炉穴が発見されている。前期には、本地域では集落跡が希薄であるものの、第2図図示範囲外ではあるが、南東部の田村地区に所在する下郷遺跡では、前期前葉から末葉に及ぶ竪穴建物が発見されている。中期になると、木田余東台地区の東台遺跡（26）、御霊遺跡（27）において、竪穴建物と多数の土坑が検出されている。

神立遺跡（1）は、木田余東台地区に匹敵する中期の集落である。これまでに数度に渡る試掘確認調査と本調査（上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2018）が行われ、本報告は第2次調査の成果である。第1次調査では、縄文時代中期加曽利 E2 式を中心とする竪穴建物、土坑が検出された。土坑内からは小規模な貝集中地点が1か所確認されており、ハマグリ・サルボウが見つまっている。道路の拡幅に伴い立ち合いを行った際にも、ハマグリを主体とした土坑内貝層が確認されている。これまでの成果から、中央窪地を取り巻くような環状集落を呈すると考えられる。

後晩期には、神立平遺跡において後期前葉を中心とする集落が形成される。同遺跡は、市内でも上高津貝塚と並ぶ後晩期の拠点集落と考えられ、土偶や土製品、石棒などの祭祀遺物も多数出土している。また、完形の製塩土器をはじめ製塩土器がある程度出土しているほか、住居内にはハマグリやシオフキを主体とする小貝塚が形成されており、上高津貝塚よりも海に近い環境での生活が想起される。

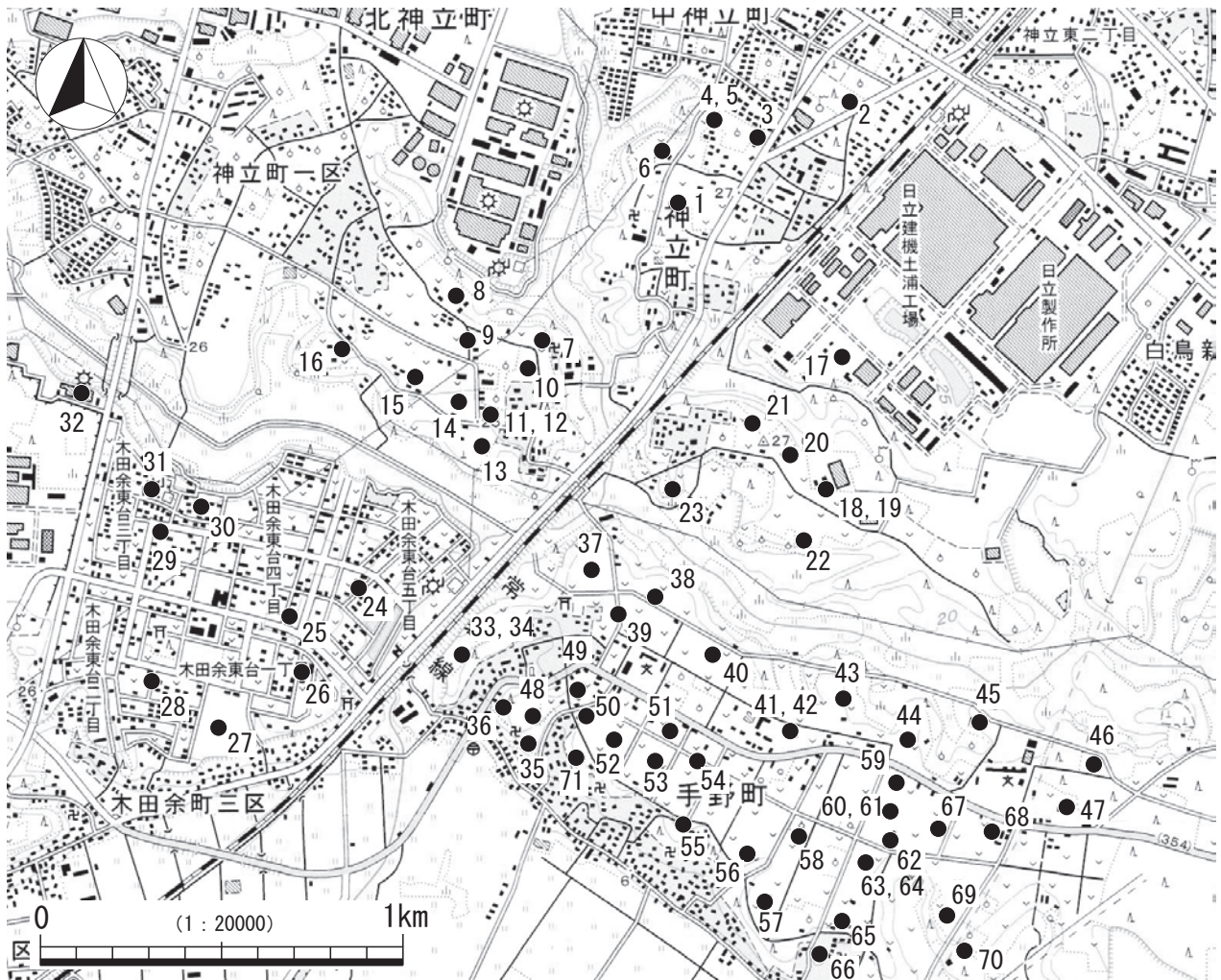
弥生時代

市内では弥生時代後期から集落が認められるようになる。木田余東台地区の東台遺跡（26）、宝積遺跡（24）において後期の竪穴建物が検出されているほか、紡錘車が多数出土している。

古墳時代

木田余東台地区、手野町地区は集落、古墳とも多数発見されている。木田余東台地区では、竪穴建物の時期をみると前・中期は東台遺跡（26）、宝積遺跡（24）が中心、後期は初買場遺跡（28）、御霊遺跡（27）が中心となる。特に初買場遺跡では100軒を超える竪穴建物が検出されており、市内でも有数の大集落である。東台古墳群（25）には19の古墳が存在し、帆立貝形を含む前方後円墳が多く、雲母片岩でつくった箱式石棺をもつ。13号墳の石室からは、成人人骨3体分、直刀5点、短刀1点、刀子2点、鉄鏃46点、土製丸玉130点などが出土している。

手野町地区では、集落遺跡の発掘例はなく詳細は不明であるが、市内最大の前方後円墳である王塚古墳（35）および后塚古墳（36）が特筆される。近年、両古墳の調査が土浦市教育委員会と筑波大学考古学研究室によって行われた。詳細な測量調査により、王塚古墳（35）は全長約83m、狭く長い前方部をもち、後円部と前方部の比高差が大きいという特徴をもつことがわかった。また、后塚古墳（36）は



第2図 神立遺跡周辺遺跡分布図

全長約 56m の前方後方墳とされ、隣接する王塚古墳に先行して築造されたと考えられる。いずれも古墳時代前期後半（4 世紀後半ごろ）に築造されたと考えられている。

奈良・平安時代

木田余東台地区では、古墳時代同様に御霊遺跡（27）や初買場遺跡（28）を中心として集落が形成されている。初買場遺跡では、青銅製の帯金具（丸軋）が出土しており、類例は市内常名の弁才天遺跡でも出土している。手野町地区では、五斗落遺跡（37）、大儘遺跡（38）、弁ノ内遺跡（40）において竪穴建物が検出されている。

中・近世

手野城跡（34）は、戦国時代に小田氏の家臣、中根氏の居城といわれており、土塁や堀が残されている。また、井戸山遺跡は 16 世紀後半から 17 世紀の井戸跡であり、東京都西部から埼玉県に分布する、「まいまいず井戸」と呼ばれる、地面をすりばち状に掘りくぼめた大型井戸と類似している。県内に類例がなく、特異な遺構である。このほか、手野町地区には八坂東貝塚（62）、宿後貝塚（64）、天王場貝塚（67）といった中世のヤマトシジミ主体の貝塚が残されている。

神立遺跡(1)は、縄文時代中期の集落を中心とするが、中世の地下式坑や井戸跡なども発見されている。本遺跡の範囲は、小田氏の部将菅谷氏の菩提寺である神龍寺の前身、神立寺があったといわれており（土浦市史編さん委員会編 1975）、本調査で発見された遺構も、神立寺や神立館跡と関係する可能性がある。

第1表 神立遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡番号*	遺跡名	時代	番号	遺跡番号*	遺跡名	時代
1	185	神立遺跡	縄文・古墳・奈良平安・中世	37	300	五斗落遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良平安
2	247	不動塚	近世	38	301	大儘遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良平安
3	182	原口遺跡	縄文	39	302	羽田亦遺跡	古墳・奈良平安
4	183	神田遺跡	縄文	40	303	弁ノ内遺跡	縄文・弥生・奈良平安・中世
5	290	アタゴ所在塚群	近世	41	304	薬師遺跡	縄文・奈良平安・中世
6	184	セイベイ山遺跡	縄文	42	305	薬師塚	近世
7	186	青木遺跡	縄文・奈良平安	43	306	原ノ内遺跡	縄文・奈良平安
8	187	松山遺跡	縄文・古墳・中世	44	307	富士塚遺跡	縄文・古墳・奈良平安
9	188	神立八幡遺跡	縄文・奈良平安	45	308	ゴリン山遺跡	縄文・近世
10	189	天神平遺跡	縄文・古墳・奈良平安	46	431	真木ノ内遺跡	縄文・古墳・中世
11	190	坪内遺跡	縄文	47	309	戌開供養塚	近世
12	283	坪内貝塚	縄文	48	310	姫塚遺跡	弥生・古墳
13	191	花輪遺跡	縄文	49	311	手野宮脇遺跡	古墳・奈良平安
14	192	蟹久保遺跡	縄文	50	312	手野ドンドン塚古墳	古墳
15	193	中道遺跡	縄文・奈良平安・中世	51	314	平外遺跡	古墳
16	194	前神田遺跡	奈良平安	52	313	上大津西小学校前遺跡	古墳・奈良平安
17	446	神立平遺跡	縄文	53	315	久保上遺跡	縄文・古墳
18	423	前原北遺跡	縄文・奈良平安	54	316	長堀遺跡	奈良平安
19	424	前原不動塚	近世	55	317	馬坂古墳	古墳
20	425	根本東遺跡	縄文	56	318	手野坂上遺跡	古墳
21	426	根本西遺跡	縄文・奈良平安	57	319	手野天神遺跡	縄文・古墳・奈良平安・中世
22	422	前原遺跡	縄文・奈良平安	58	320	天王前遺跡	縄文・古墳・奈良平安
23	427	榎下遺跡	縄文	59	327	天王後遺跡	縄文
24	195	宝積遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良平安・近世	60	326	八坂東遺跡	奈良平安
25	262	東台古墳群	古墳	61	328	井戸山遺跡	中世・近世
26	292	東台遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	61	460	八坂東貝塚	中世
27	199	御霊遺跡	旧石器・縄文・古墳	63	325	宿後遺跡	奈良平安・中世
28	200	初買場遺跡	旧石器・縄文・古墳・奈良平安	64	465	宿後貝塚	中世
29	197	宮崎遺跡	奈良平安	65	321	平遺跡	古墳・奈良平安
30	196	宮脇遺跡	奈良平安	66	432	正東院一字一石経塚	近世
31	248	一丁田台東遺跡	縄文・奈良平安	67	329	天王場貝塚	中世
32	198	一丁田台遺跡	古墳	68	330	手野原口遺跡	縄文・奈良平安・中世
33	299	立遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良平安	69	324	吉池遺跡	古墳
34	434	手野城跡	中世	70	331	田村向原遺跡	縄文
35	297	王塚古墳	古墳	71	479	新地古墳	古墳
36	298	后塚古墳	古墳				

※土浦市遺跡地図での番号

参考文献

茨城県教育財団編 1987『霞ヶ浦用水建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第43集 茨城県教育財団

宇野沢 昭・磯部一洋・遠藤秀典・田口雄作・永井 茂・石井武政・相原輝雄・岡 重文 1988『2万5千分の1筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図説明書』特殊地質図(23-2)、地質調査所、139p

上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2007「神立遺跡」『土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報』第12号—2005(平成17)年度 43-53頁

上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2016『初買場遺跡(第2次調査)』土浦市教育委員会

上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2018『神立遺跡』土浦市教育委員会

神立平遺跡調査会編 2009『神立平遺跡』土浦市教育委員会

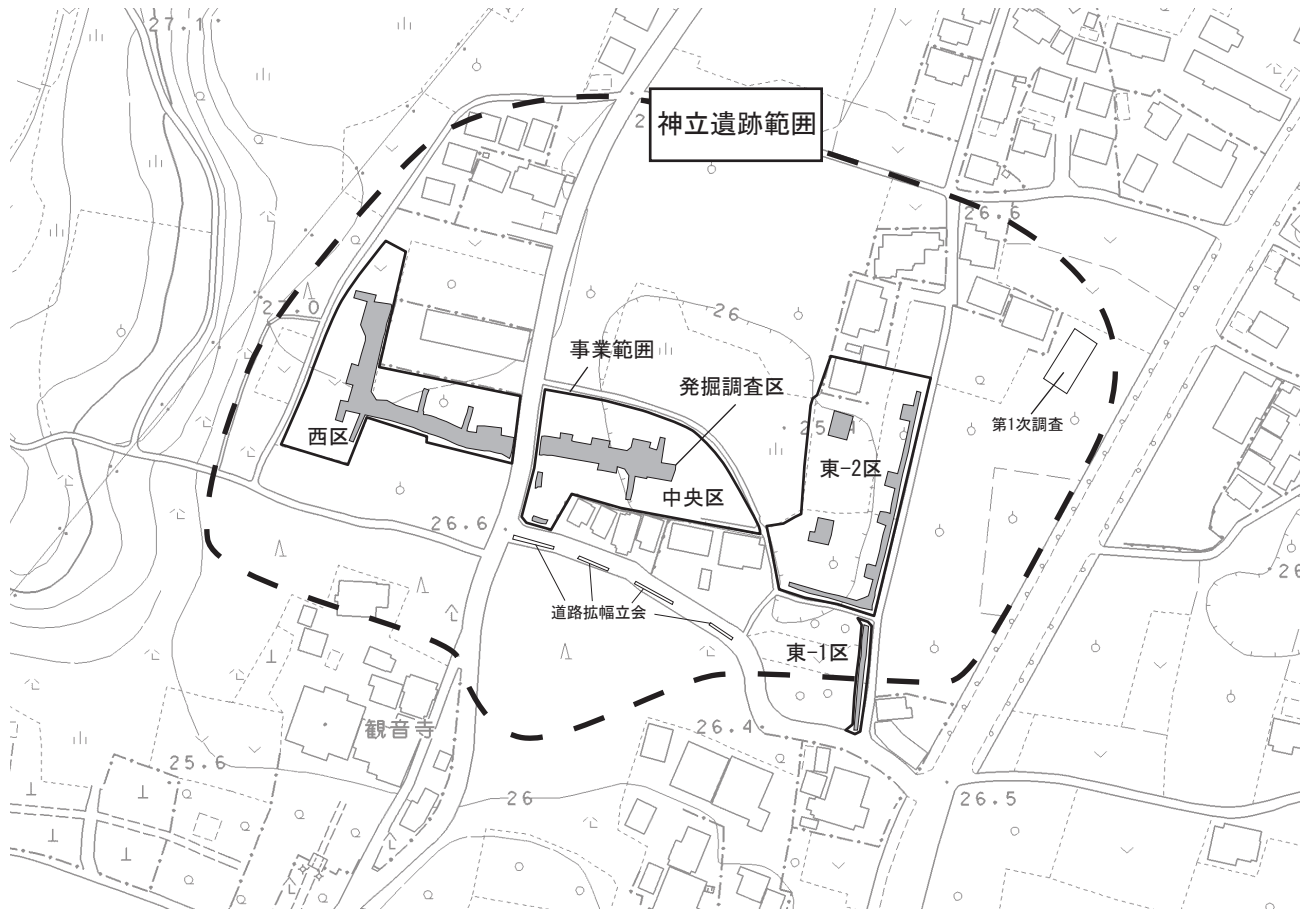
滝沢 誠 2017「霞ヶ浦沿岸の前期前方後円墳—土浦市王塚古墳の測量調査—」『筑波大学先史学・考古学研究』第28号 77-94頁

土浦市遺跡調査会編 1991『井戸山遺跡確認調査報告書』土浦市教育委員会

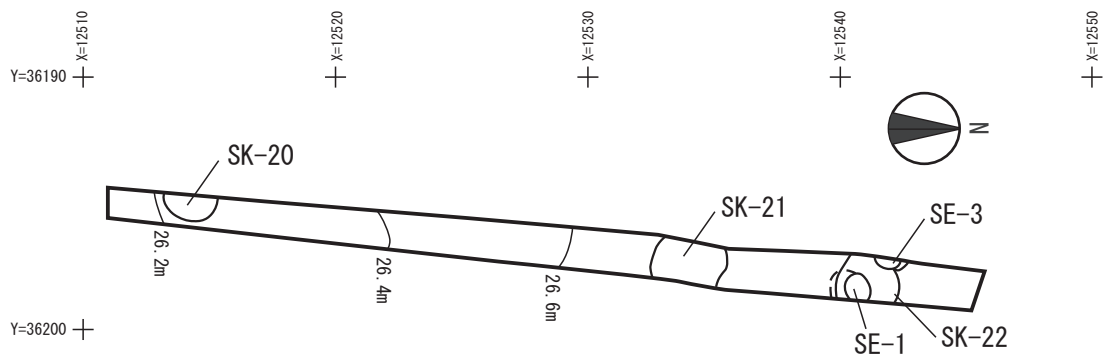
土浦市遺跡調査会編 1991『木田余台 I』土浦市教育委員会

土浦市遺跡調査会編 2002『木田余台 II』土浦市教育委員会

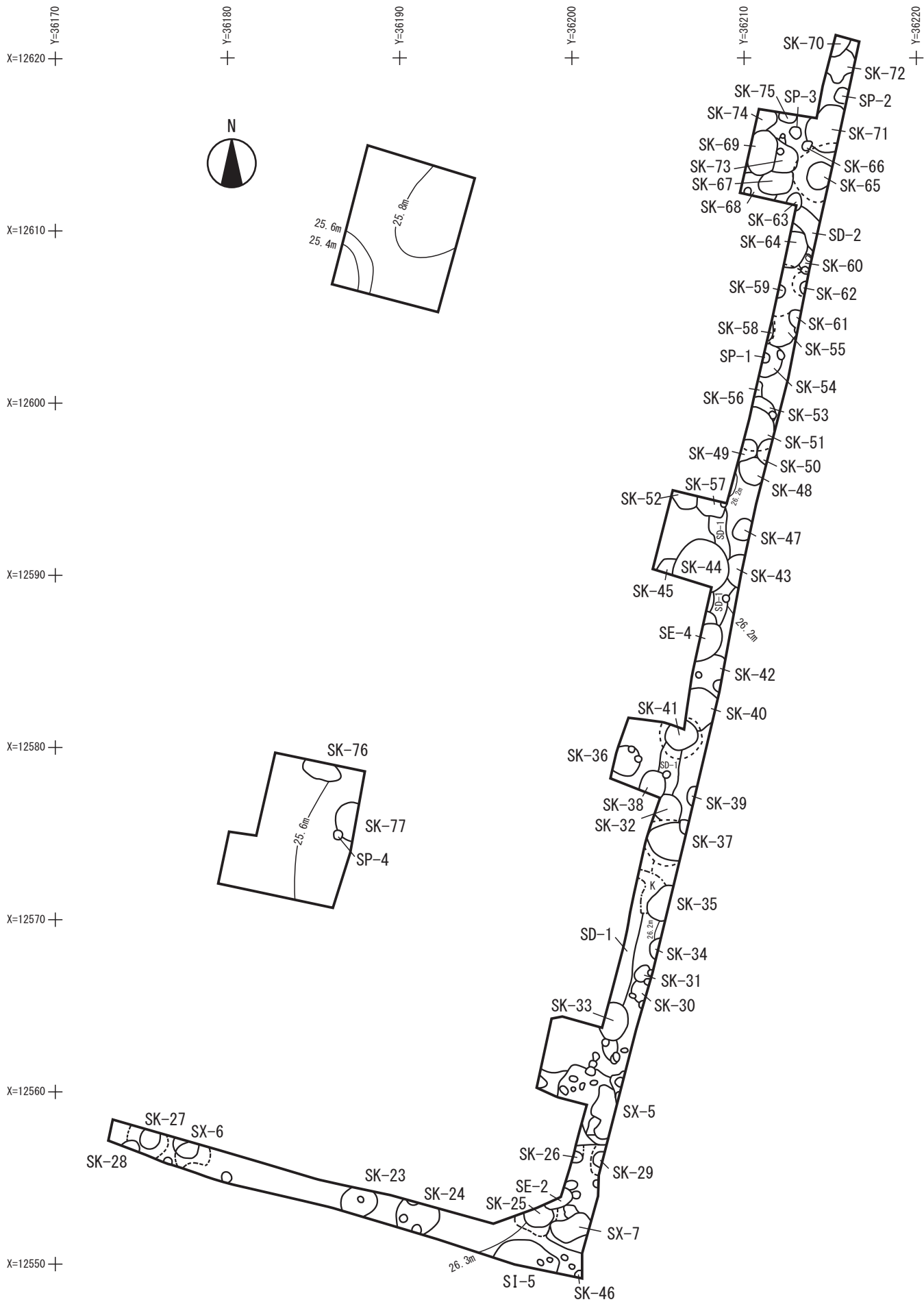
土浦市史編さん委員会編 1975『土浦市史』土浦市



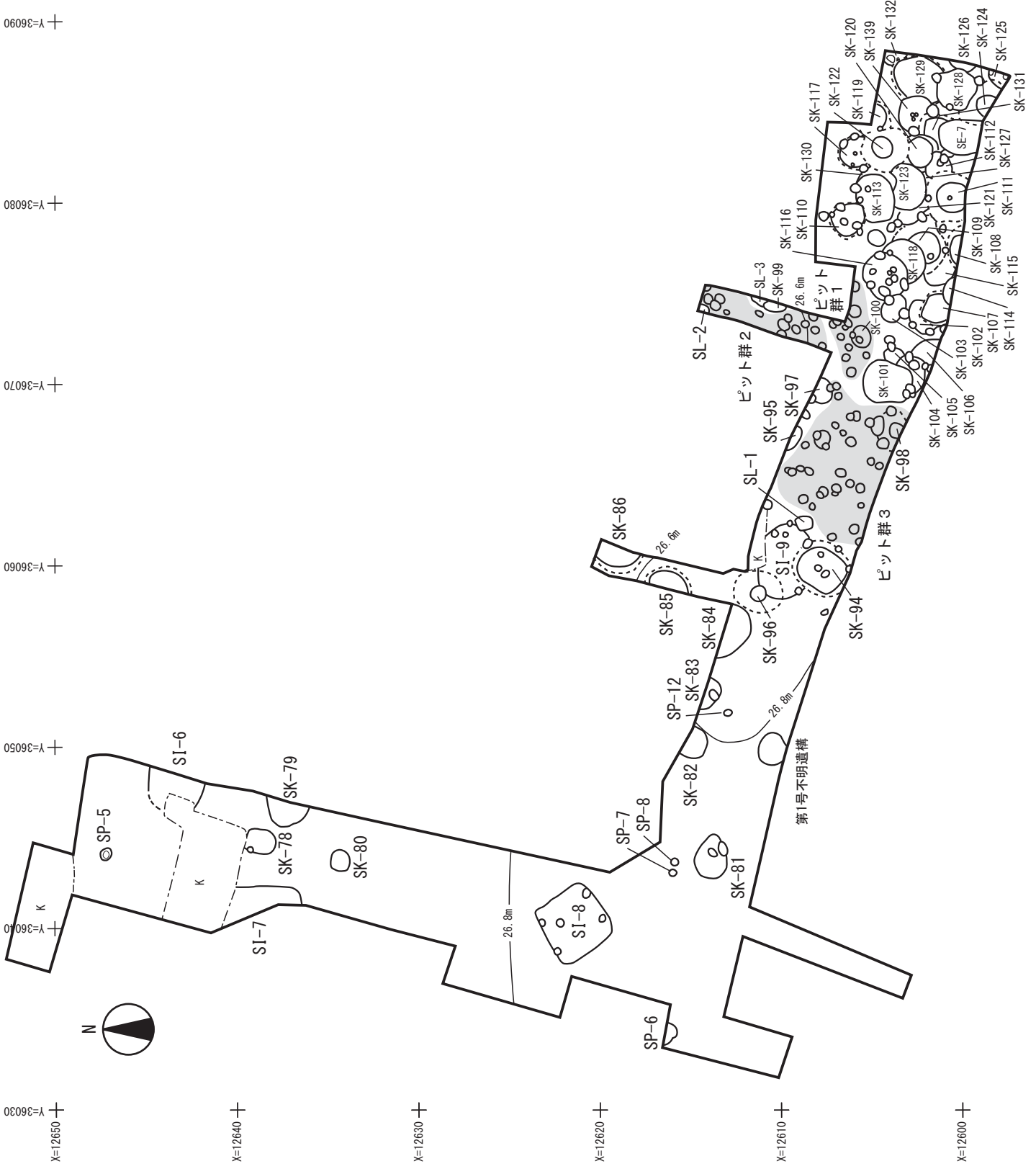
第3図 調査区位置図 (土浦市都市計画図 1/2500)



第4図 遺構全体図 (東-1区) (1/300)



第5図 遺構全体図（東-2区）(1/300)



第7図 遺構全体図 (西区) (1/300)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査の結果、縄文時代の竪穴建物5軒、土坑114基、屋外炉3基、ピット134基、中世の土坑19基、ピット3基、地下式坑6基、井戸跡9基、溝3条、不明遺構3基を発見した。

東-1区は、最も面積が小さく、縄文時代の土坑3基、中世の井戸跡2基が見つかった。

東-2区は、遺構の重複が激しい。縄文時代の竪穴建物1軒、土坑53基、ピット4基、中世の土坑2基、ピット1基、地下式坑3基、井戸跡2基、溝2条が見つかった。

中央区は、縄文時代の土坑9基、ピット3基、中世の土坑17基、ピット5基、地下式坑3基、井戸跡4基、溝1条、不明遺構2基が見つかった。中世の遺構が集中している。

西区は、東側の遺構の重複が激しい。縄文時代の竪穴建物4軒、土坑49基、屋外炉3基、ピット125基、中世の井戸跡1基、不明遺構1基が見つかった。縄文時代のピットが集中している。

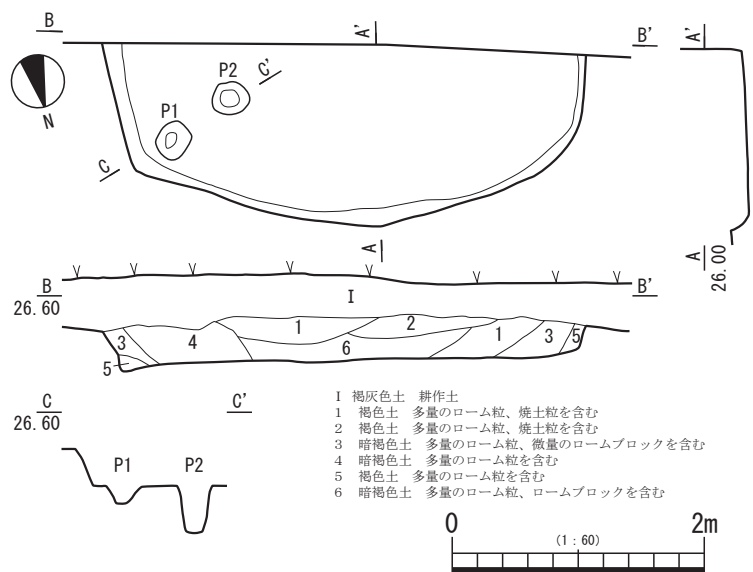
検出された遺構については第2節、出土遺物については第3節にて記載する。なお、遺構番号は平成27年の第1次調査から引き続いて連番とし、竪穴建物は第5号、土坑は第20号、地下式坑は第5号から付している。

第2節 検出された遺構

1 竪穴建物

第5号竪穴建物 (S1-5)

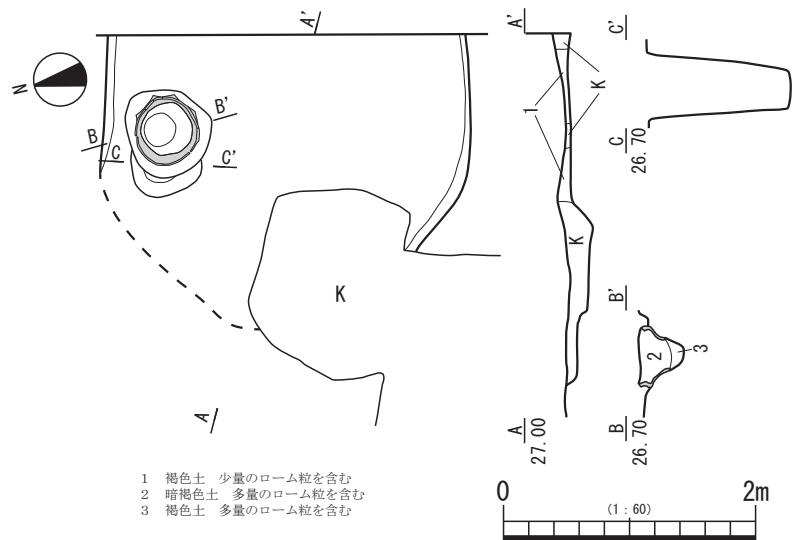
位置 東-2区の南側、南壁にかかって検出された。**規模** 約3.8m×1.4mの範囲で、全体の1/3程度が検出された。**壁** 残存高は約35cm、外傾して立ち上がる。**床** ほぼ平坦。床面は直床でさほど硬くない。**ピット** 全部で2ヶ所確認された。いずれも径30cm程度、P1は深さ14cm、P2は深さ37cmを測る。配置と規模からP2は支柱穴に相当すると思われる。**炉** 検出されなかった。**覆土** 6層に分層された。自然堆積と考えられる。**出土遺物** 縄文時代中期の土器片が出土している。数は少なく図示できるものがないが、阿玉台I・II式、阿玉台IV式あるいは勝坂式(井戸尻式)が出土している。**所見** 阿玉台I・II式の土器片がより多く見られることから、本遺構の時期は、縄文時代中期前半と考えられる。



第8図 第5号竪穴建物

第6号竪穴建物 (S I - 6)

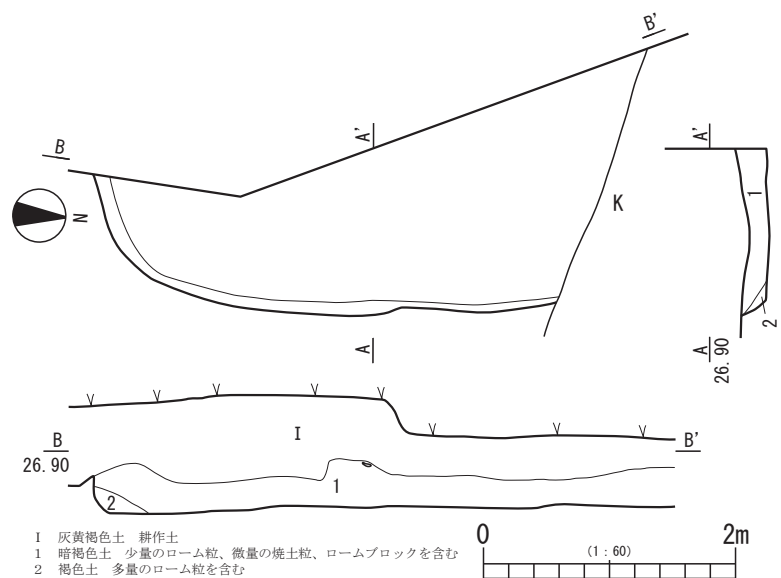
位置 西区の北側、東壁にかかって検出された。西側は攪乱により不明瞭である。**規模** 直径約3m程度の円形を呈すると思われる。**壁** ゆるやかに立ち上がる。**床** ほぼ平坦。**ピット** 2つ確認された。1つは径約55cm、深さ約110cmの円形のピットで、柱穴と考えられる。もう1つは、径約70cmの円形のピットで、柱を抜き取ったあと、すぐそばに設置されたもので、縄文土器深鉢が埋納されていた。**炉** 検出されなかった。**覆土** 住居覆土1層、土器内覆土2層が確認された。土器内の覆土はローム粒が多量に認められた。**出土遺物** 埋納された土器は、縄文時代中期後半、中峠式(阿玉台IV式~加曾利E1式古段階並行)であろう。(第45図27)。**所見** 本遺構の時期は、縄文時代中期後半と考えられる。



第9図 第6号竪穴建物

第7号竪穴建物 (S I - 7)

位置 西区の北側、西壁にかかって検出された。北側は攪乱により不明瞭である。**規模** 約4m×1.5mの範囲で、全体の1/4程度が検出された。**壁** 残存高は20~30cm程度で、急角度で立ち上がる。**床** ほぼ平坦。**ピット** 検出されなかった。



第10図 第7号竪穴建物

炉 検出されなかった。**覆土** 2層に分層された。自然堆積と考えられる。**出土遺物** 縄文時代中期の土器片が出土している。数が少なく図示できるものがないが、阿玉台I~II式であろう。**所見** 本遺構の時期は、縄文時代中期前半と考えられる。

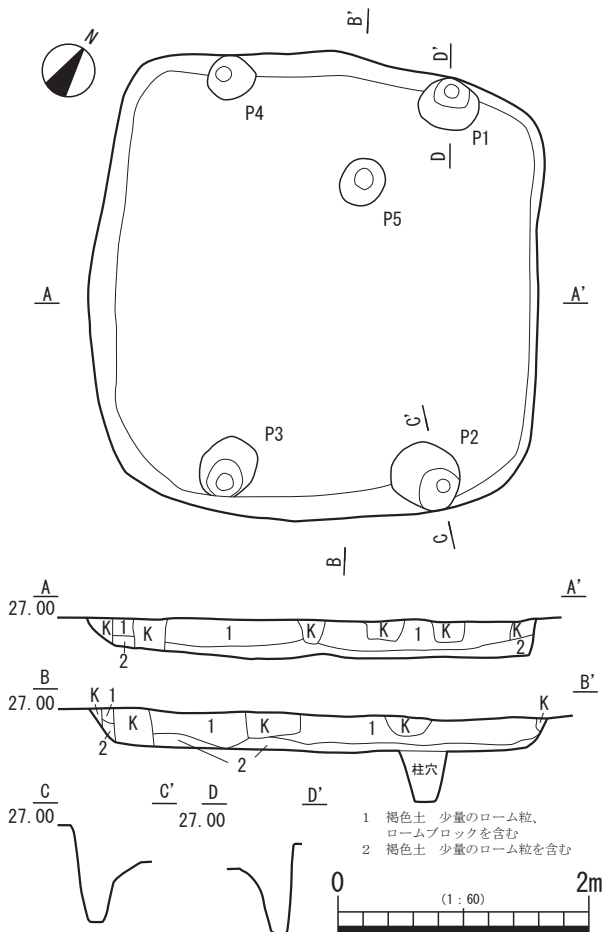
第8号竪穴建物 (S I - 8)

位置 西区の西側に位置する。**規模** 長軸3.7m、短軸3.5mの隅丸方形を呈している。**主軸方向** N-17°-W **壁** 残存高は約30cm程度で、急角度で立ち上がる。**床** ほぼ平坦。**ピット** 全部で5ヶ所確認された。径は35~55cm、深さは40~50cmを測る。P1~P4は壁際に沿っており、配置と規模から主柱穴と考えられる。P5も柱穴であろう。**炉** 検出されなかった。**覆土** 2層に分層された。自

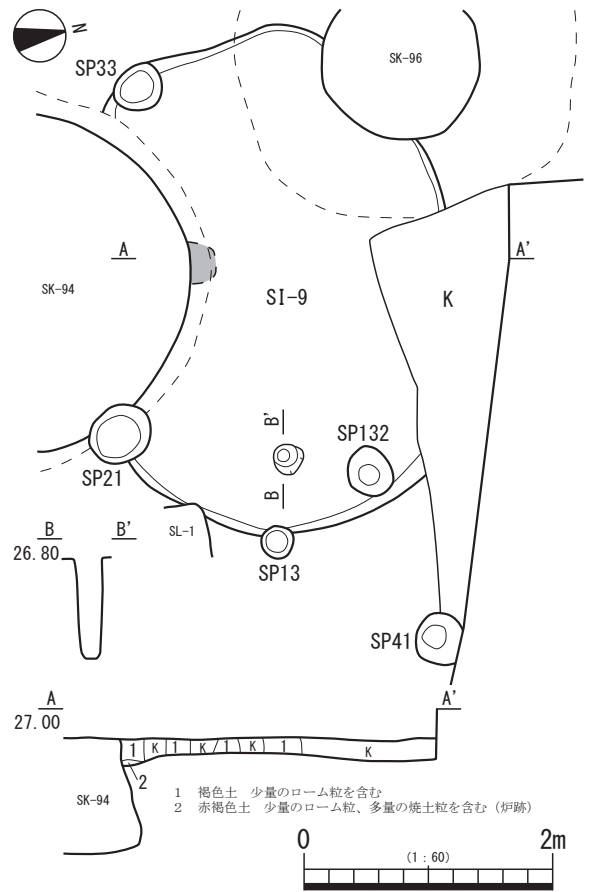
然堆積と考えられる。攪乱が多くみられた。**出土遺物** 縄文時代中期の土器片が出土している。数が少なく図示できるものがないが、阿玉台Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（勝坂）式であろう。**所見** 床面直上から出土した土器（底部）が阿玉台Ⅳ（井戸尻）式であることから、本遺構の時期は、縄文時代中期後半と考えられる。

第9号竪穴建物（S I - 9）

位置 西区中央に位置する。第94, 96号土坑、第1号屋外炉、第13, 21, 33, 132号ピットと重複しており、本遺構が最も古い。北側は攪乱により不明瞭である。**規模** 長径4mの不整円形を呈している。**壁** 不明。**床** おおむね平坦。**ピット** 1ヶ所確認された。径25cm、深さ80cmを測る。**炉** 長径35cm程度、深さ5cmの地床炉が検出されたが、第94号土坑と重複しており、範囲は不明瞭である。**覆土** 2層に分層された。2層は多量の焼土粒を含む炉の覆土である。攪乱が多くみられた。**出土遺物** 縄文時代中期の土器片が出土している。数が少なく図示できるものがないが、加曾利E1～E2式と考えられる。**所見** 本遺構の時期は、縄文時代中期後半と考えられる。



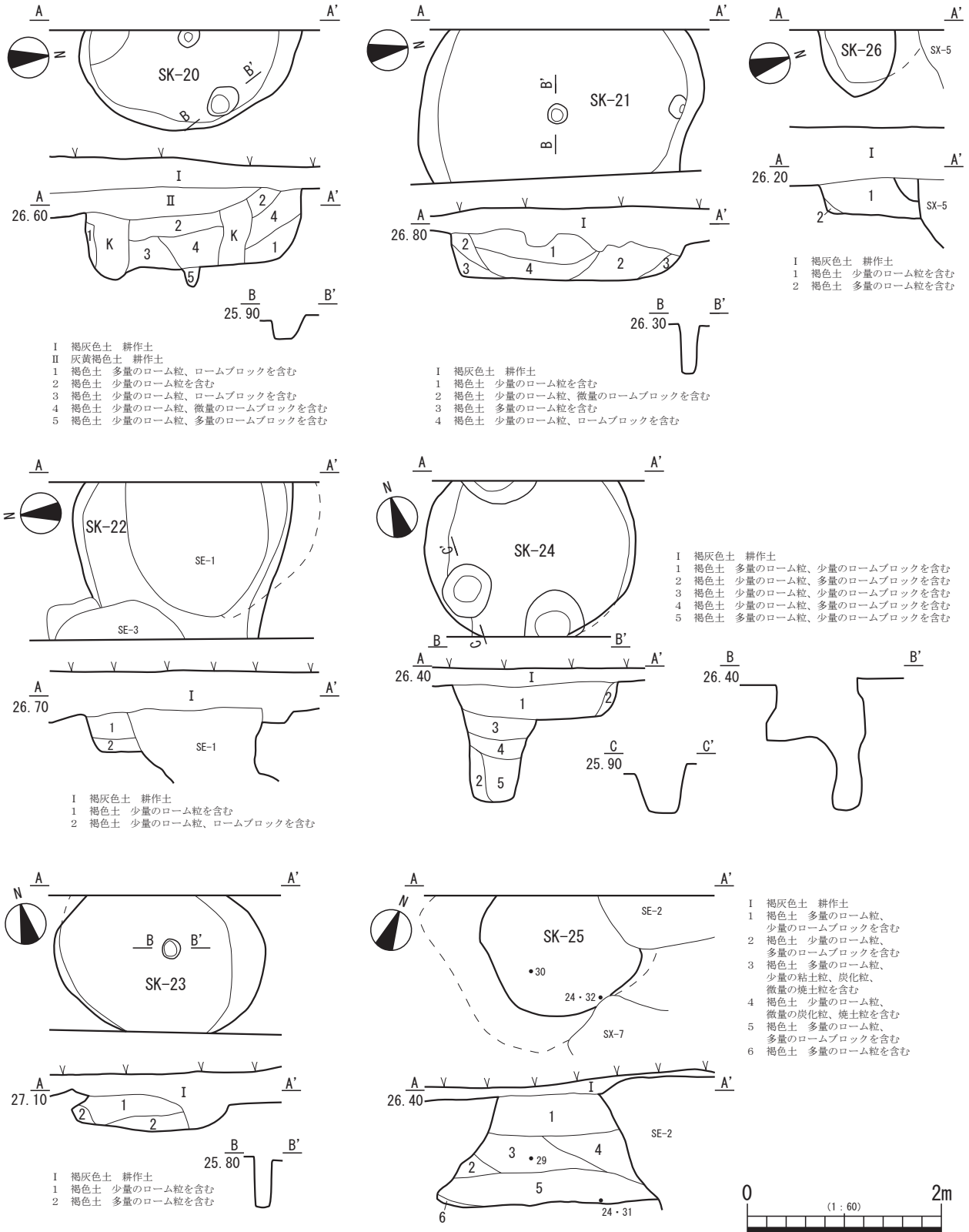
第11図 第8号竪穴建物



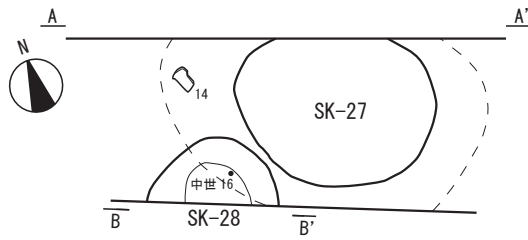
第12図 第9号竪穴建物、第13・21・33・41・132号ピット

2 土坑

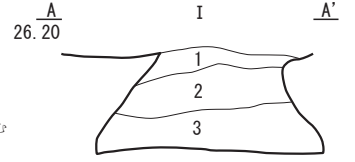
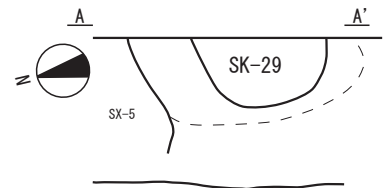
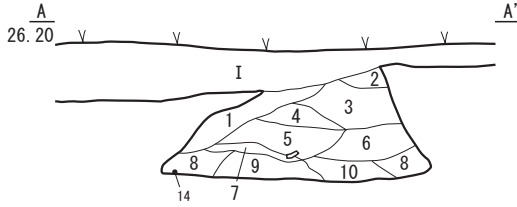
縄文時代の土坑 114 基、中世の土坑 19 基が見つかった。それぞれ表にて記載する。



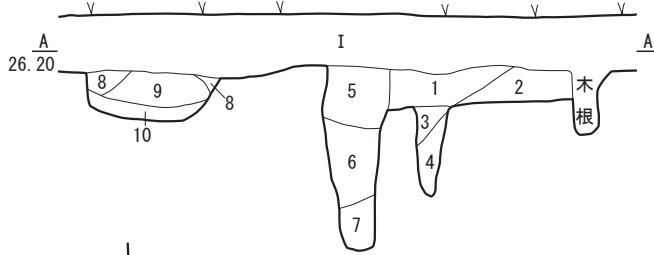
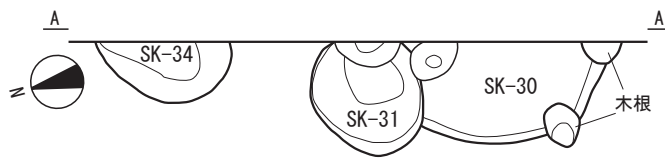
第13図 第20-26号土坑



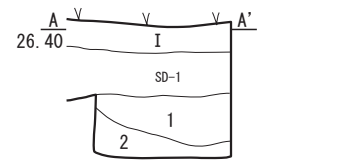
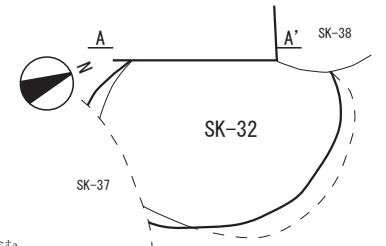
- A-A' SK-27
 I 褐灰色土 耕作土
 1 にぶい黄褐色土 多量のローム粒、微量の焼土粒を含む
 2 にぶい黄褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 3 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 4 暗赤褐色土 少量のローム粒、多量の焼土粒を含む
 5 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
 6 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 7 褐色土 少量のローム粒を含む
 8 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
 9 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 10 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 B-B' SK-28
 I 褐灰色土 耕作土
 1 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含み、しまりが無い
 2 褐色土 多量のローム粒を含み、しまりが無い



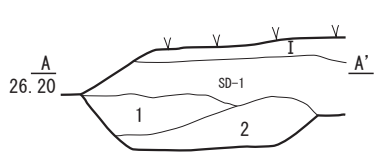
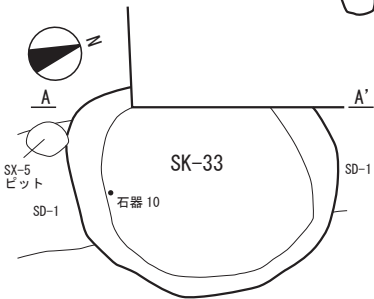
- I 褐灰色土 耕作土
 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 3 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



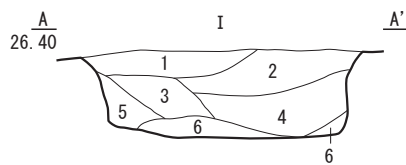
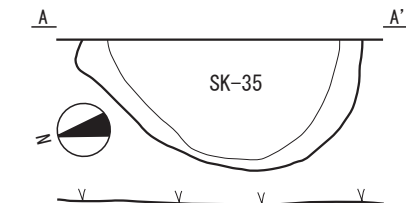
- I 褐灰色土 耕作土
 SK-30
 1 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 2 褐色土 少量のローム粒を含む
 3 褐色土 少量のローム粒を含む
 4 褐色土 少量のロームブロックを含む
 5 褐色土 多量のローム粒を含む
 SK-31
 5 褐色土 少量のローム粒を含む
 6 褐色土 多量のローム粒を含む
 7 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 SK-34
 8 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 9 褐色土 少量のローム粒を含む
 10 褐色土 少量のローム粒を含む



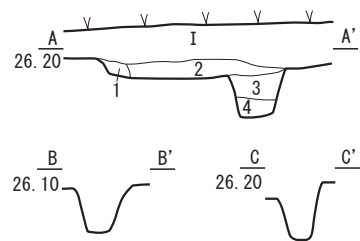
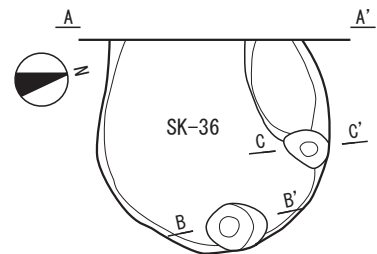
- I 褐灰色土 耕作土
 1 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 2 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む



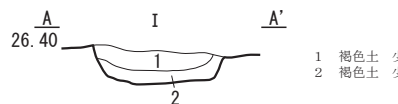
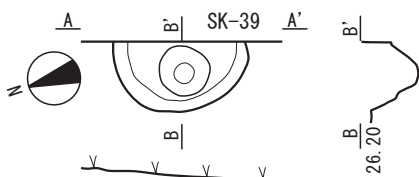
- I 褐灰色土 耕作土
 1 褐色土 少量のローム粒を含む
 2 褐色土 少量のローム粒を含む



- I 褐灰色土 耕作土
 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 3 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 4 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 5 褐色土 多量のローム粒を含む
 6 褐色土 多量のローム粒を含む



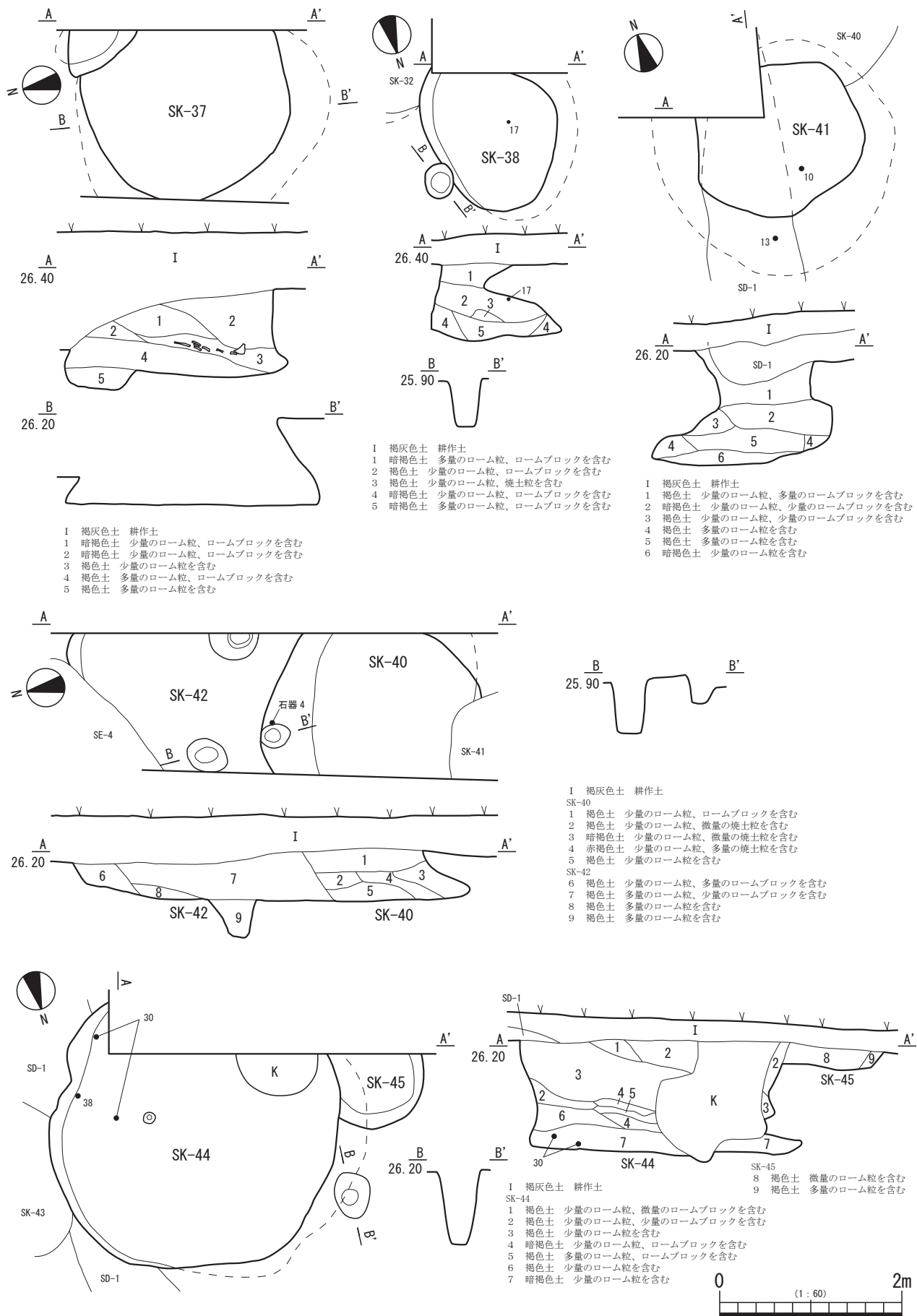
- I 褐灰色土 耕作土
 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 2 褐色土 少量のローム粒を含む
 3 褐色土 多量のローム粒を含む
 4 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む



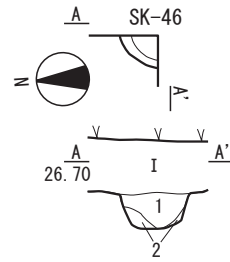
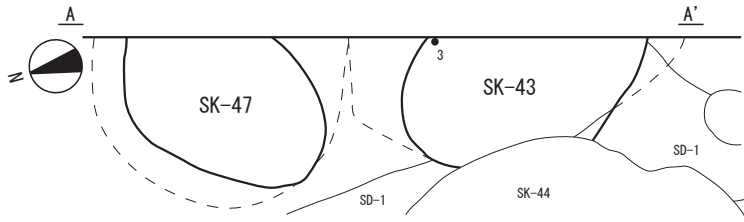
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
 2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



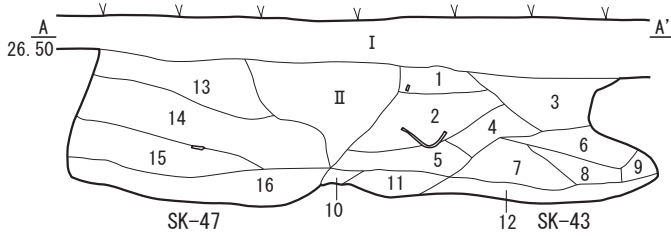
第14図 第27-36,39号土坑



第15図 第37,38,40-42,44,45号土坑

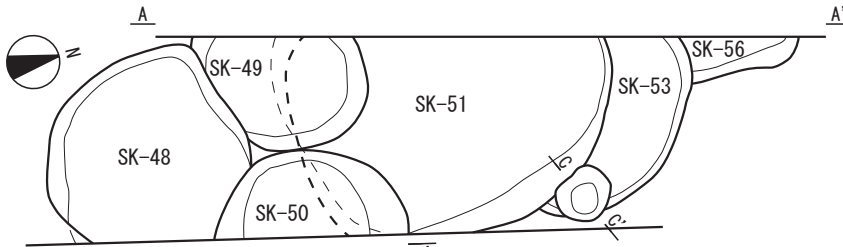


- I 褐灰色土 耕作土
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
- 2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む

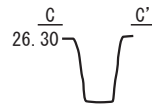
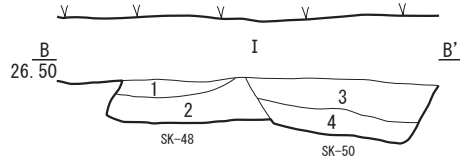
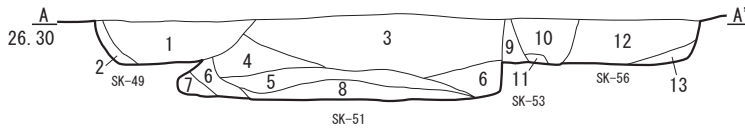


- SK-47
- 13 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
- 14 暗褐色土 少量のローム粒、少量の焼土粒を含む
- 15 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 16 褐色土 多量のローム粒を含む

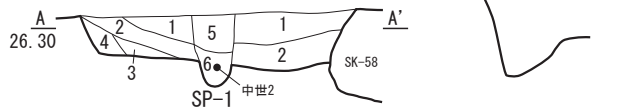
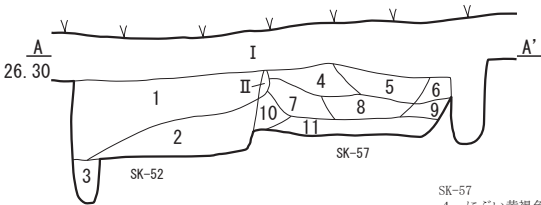
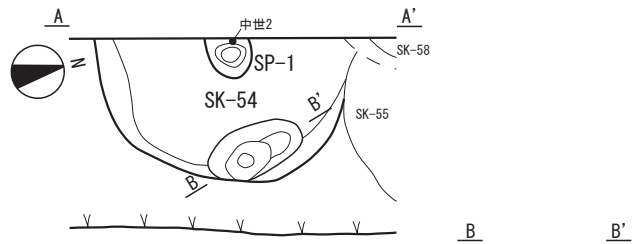
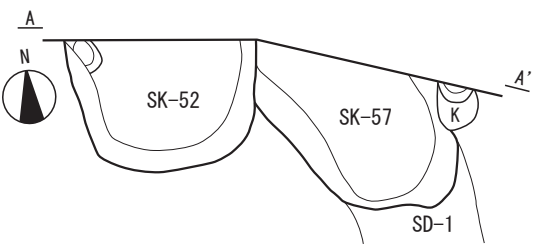
- I 褐灰色土 耕作土
- II 黄褐色土 ローム土
- SK-43
- 1 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
- 3 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
- 4 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 5 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 6 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 7 褐色土 多量のローム粒を含む
- 8 褐色土 多量のローム粒を含む
- 9 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 10 暗褐色土 微量のローム粒を含む
- 11 暗褐色土 少量のローム粒、焼土粒を含む
- 12 暗褐色土 少量のローム粒を含む



- A-A'
- I 褐灰色土 耕作土
- SK-49
- 1 褐色土 多量のローム粒を含む
- 2 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- SK-51
- 3 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
- 4 暗褐色土 少量のローム粒、少量の焼土粒を含む
- 5 にぶい赤褐色土 少量のローム粒、多量の焼土粒を含む
- 6 褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
- 7 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 8 褐色土 多量のローム粒、少量の焼土粒を含む
- SK-53
- 9 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 10 褐色土 多量のローム粒を含む
- 11 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SK-56
- 12 褐色土 多量のローム粒を含む
- 13 褐色土 多量のローム粒を含む



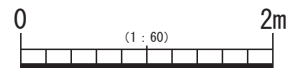
- B-B'
- I 褐灰色土 耕作土
- SK-48
- 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- SK-50
- 3 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 4 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



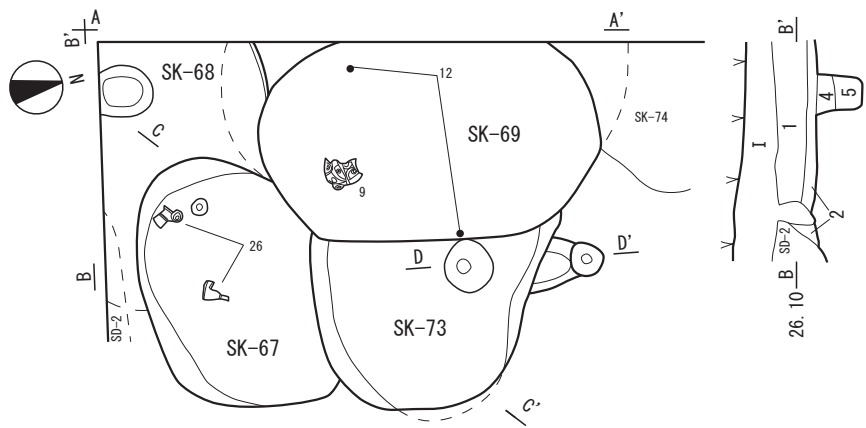
- I 褐灰色土 耕作土
- II 黄褐色土 ローム土
- SK-52
- 1 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを斑状に含む
- 2 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを斑状に含む
- 3 褐色土 多量のローム粒を斑状に含む

- SK-57
- 4 にぶい黄褐色土 少量のローム粒、粘土粒を含む
- 5 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 6 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 7 暗褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 8 暗褐色土 多量のローム粒を含む
- 9 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 10 褐色土 多量のローム粒を含む
- 11 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む

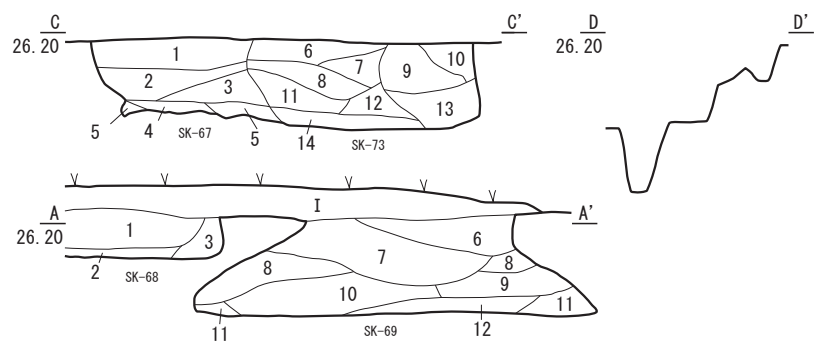
- I 褐灰色土 耕作土
- SK-54
- 1 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
- 2 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 3 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 4 褐色土 多量のローム粒を含む
- SK-58
- 5 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 6 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



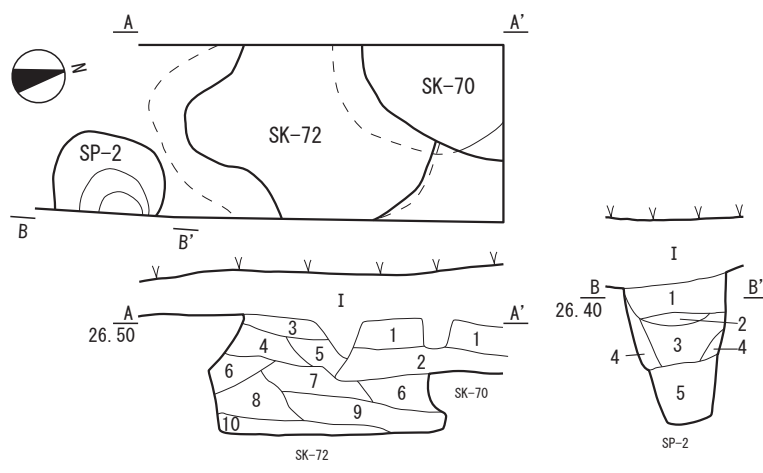
第16図 第43,46-54,56,57号土坑、第1号ピット



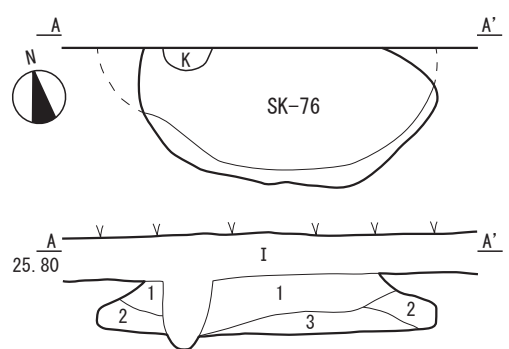
- A-A' B-B'
- I 褐灰色土 耕作土
- SK-68
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
- 2 褐色土 少量のローム粒を含む
- 3 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 4 褐色土 多量のローム粒を含む
- 5 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- SK-69
- 6 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 7 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 8 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 9 褐色土 少量のローム粒を含む
- 10 褐色土 多量のローム粒を含む
- 11 褐色土 多量のローム粒を含む
- 12 暗褐色土 多量のローム粒を含む



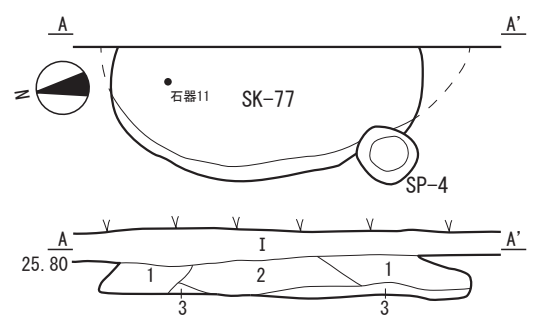
- C-C'
- SK-67
- 1 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
- 2 褐色土 少量のローム粒を含む
- 3 褐色土 多量のローム粒を含む
- 4 暗褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 5 暗褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- SK-73
- 6 にぶい黄褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 7 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- 8 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 9 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- 10 褐色土 多量のローム粒を含む
- 11 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 12 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 13 褐色土 少量のローム粒を含む
- 14 暗褐色土 少量のローム粒を含む



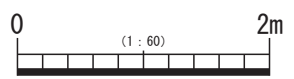
- I 褐灰色土 耕作土
- A-A'
- SK-70
- 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 2 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- SK-72
- 3 赤褐色土 少量のローム粒、多量の焼土粒を含む
- 4 暗赤褐色土 少量のローム粒、少量の焼土粒を含む
- 5 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 6 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 7 褐色土 少量のローム粒を含む
- 8 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 9 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- 10 褐色土 多量のローム粒を含む
- B-B'
- SP-2
- 1 褐灰色土 耕作土
- 2 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 3 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
- 4 褐色土 少量のローム粒を含む
- 5 褐色土 多量のローム粒を含む



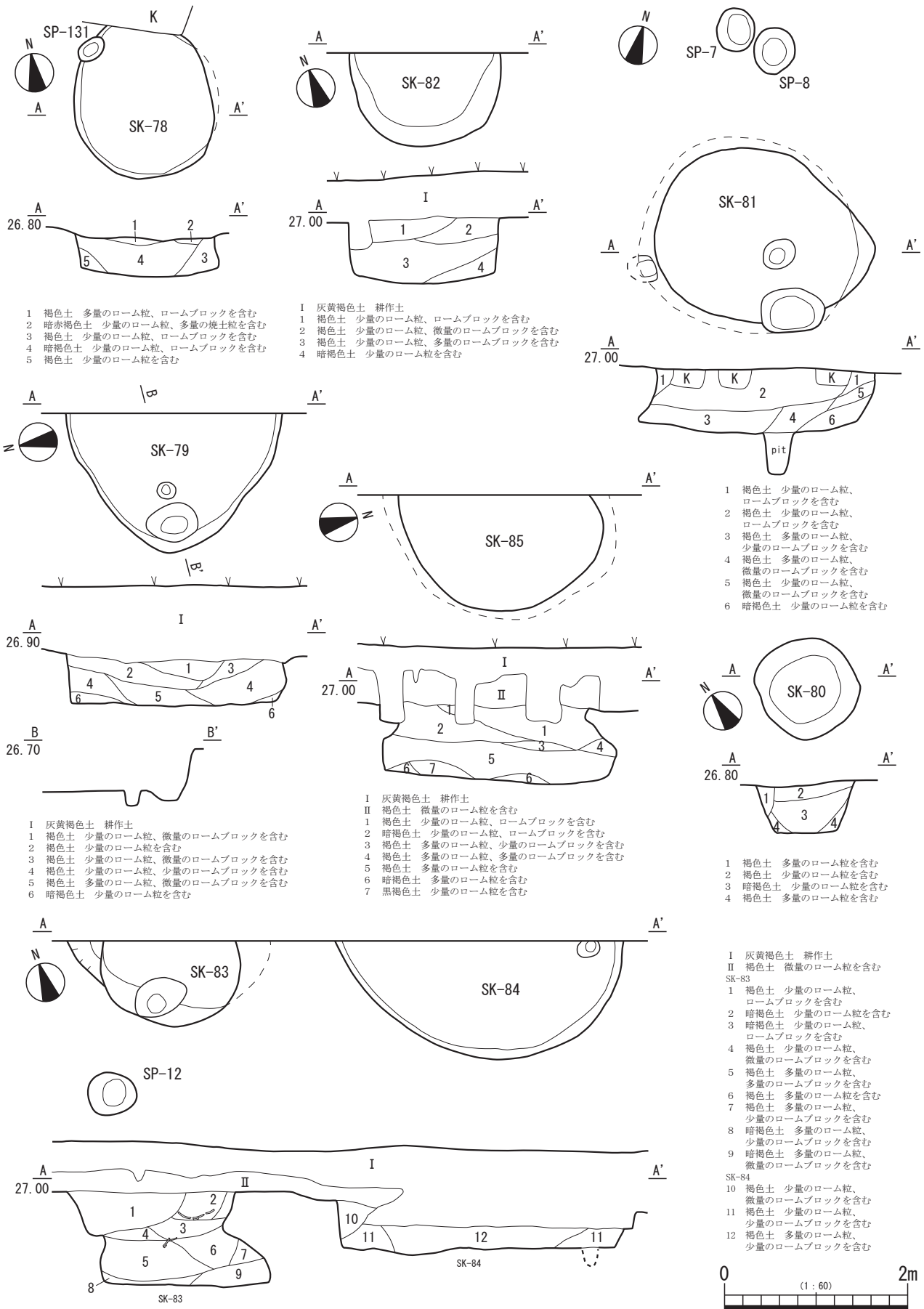
- I 褐灰色土 耕作土
- 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 2 褐色土 多量のローム粒を含む
- 3 褐色土 多量のローム粒を含む



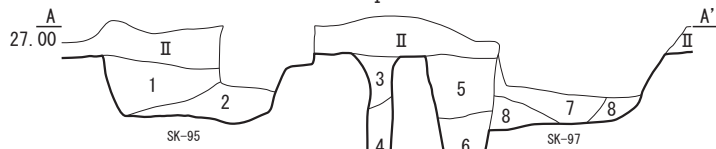
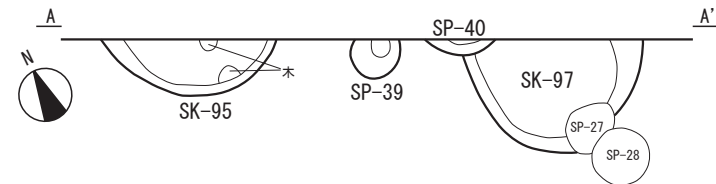
- I 褐灰色土 耕作土
- 1 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 2 褐色土 少量のローム粒を含む
- 3 暗褐色土 少量のローム粒を含む



第18図 第67-70,72,73,76,77号土坑、第2,4号ピット

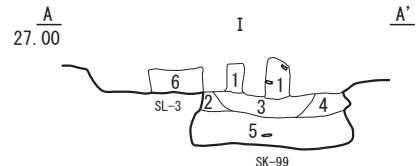
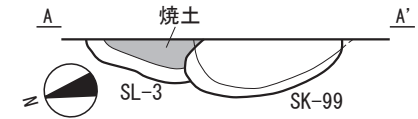


第19図 第78-85号土坑、第7,8,12号ピット

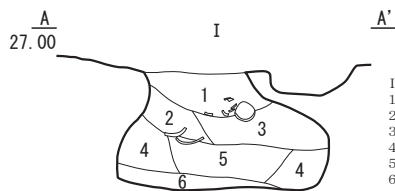
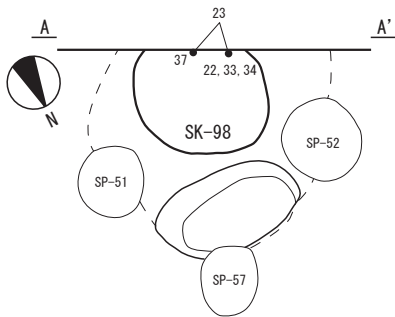


- I 灰黄褐色土 耕作土
II にぶい黄褐色土 微量のローム粒を含む
- SK-95
1 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
2 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SP-39
3 褐色土 多量のローム粒を含む
4 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む

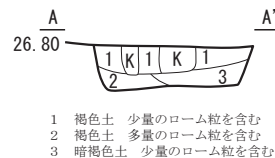
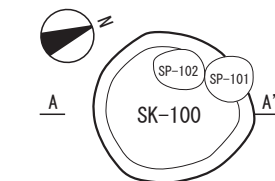
- SK-97
5 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
6 褐色土 多量のローム粒を含む
- SK-97
7 暗褐色土 少量のローム粒を含む
8 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む



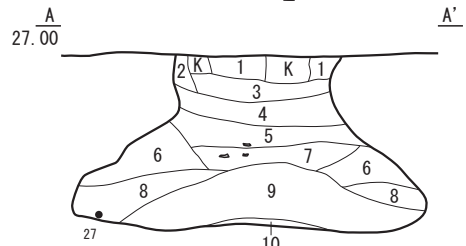
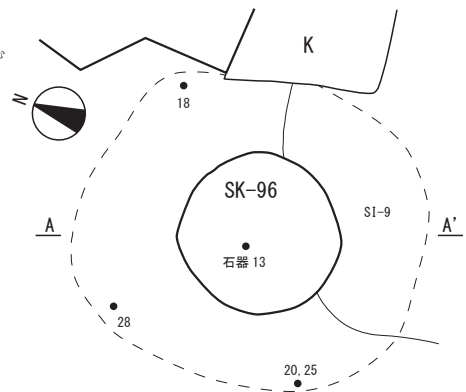
- I 灰黄褐色土 耕作土
SK-99
1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
2 暗褐色土 少量のローム粒、焼土粒を含む
3 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
4 褐色土 少量のローム粒を含む
5 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
6 暗褐色土 少量のローム粒、焼土粒を含む



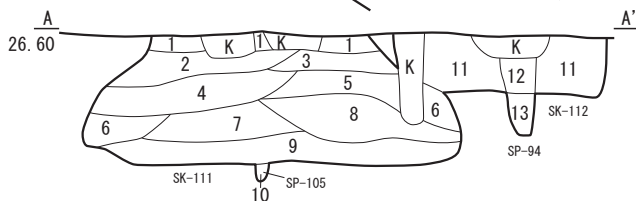
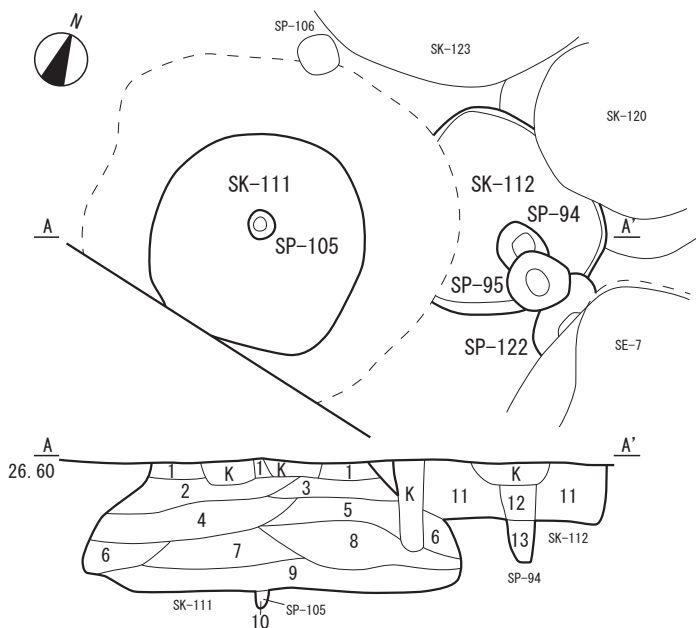
- I 灰黄褐色土 耕作土
1 褐色土 少量のローム粒、多量の焼土粒を含む
2 褐色土 少量のローム粒を含む
3 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
4 暗褐色土 少量のローム粒を含む
5 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
6 褐色土 多量のローム粒を含む



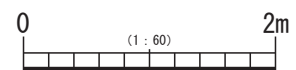
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
2 褐色土 多量のローム粒を含む
3 暗褐色土 少量のローム粒を含む



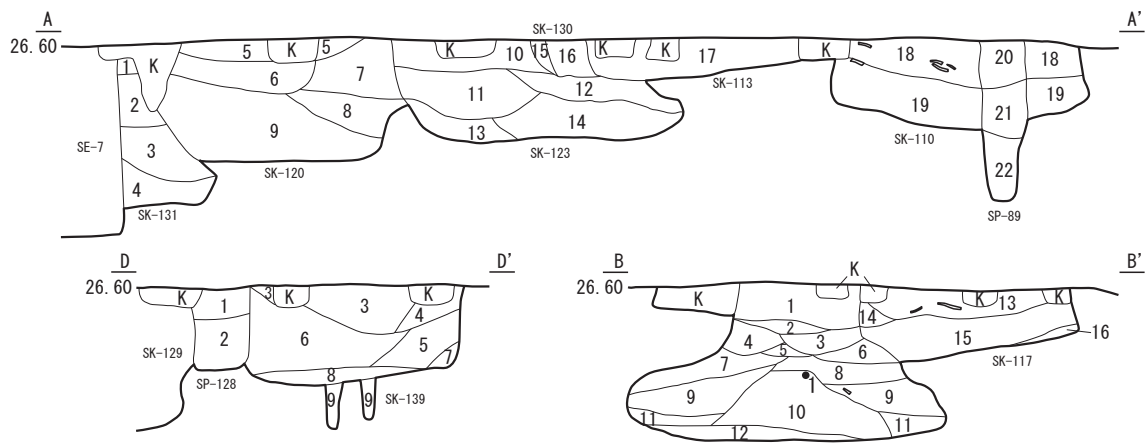
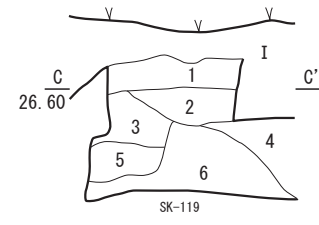
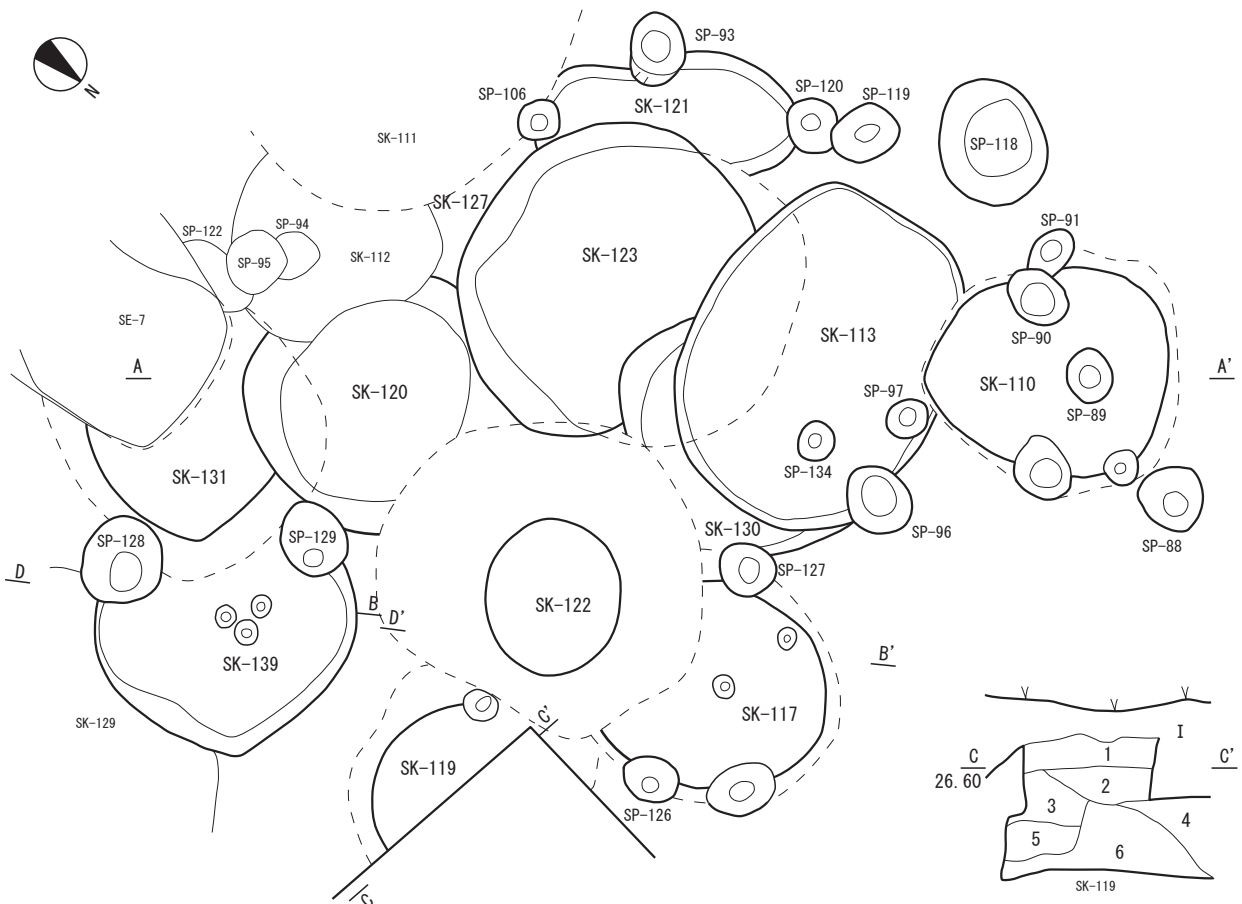
- 1 褐色土 微量のローム粒を含む
2 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
3 褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
4 褐色土 少量のローム粒、少量の焼土粒を含む
5 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロック・焼土粒を含む
6 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
7 暗褐色土 少量のローム粒を含む
8 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
9 褐色土 多量のローム粒を含む
10 褐色土 多量のローム粒を含む



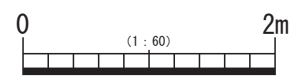
- SK-111
1 褐色土 多量のローム粒を含む
2 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
3 褐色土 少量のローム粒を含む
4 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
5 褐色土 多量のローム粒、微量のロームブロックを含む
6 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
7 褐色土 多量のローム粒を含む
8 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
9 暗褐色土 多量のローム粒を含む
- SP-105
10 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- SK-112
11 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- SP-94
12 褐色土 少量のローム粒を含む
13 暗褐色土 多量のローム粒を含む



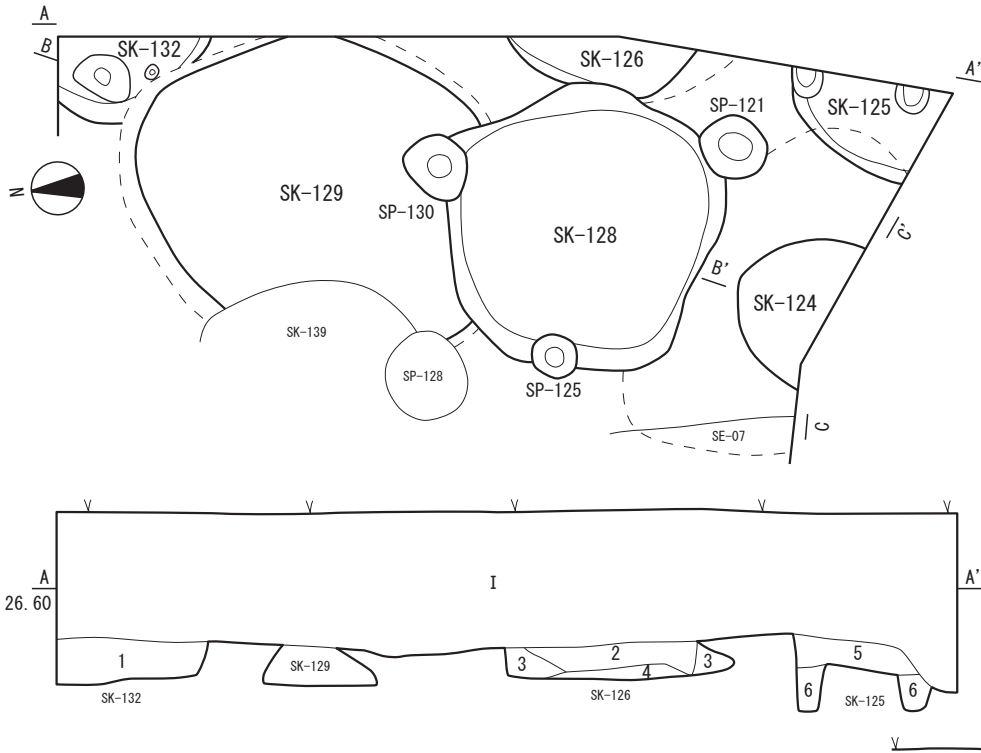
第21図 第95-100,111,112号土坑、第3号屋外炉、第39,40,94,95,105,122号ピット



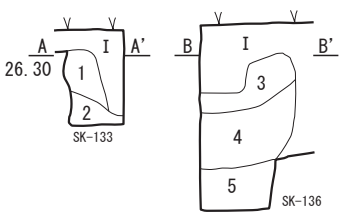
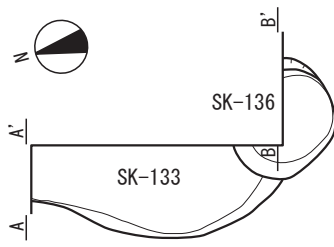
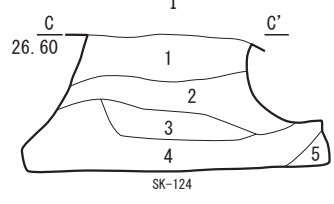
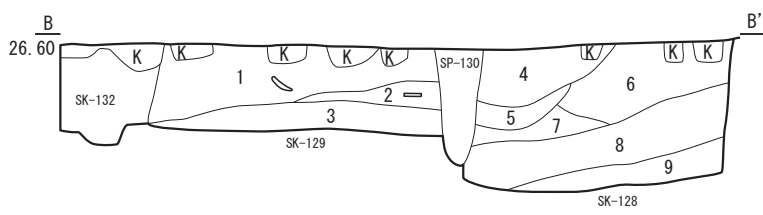
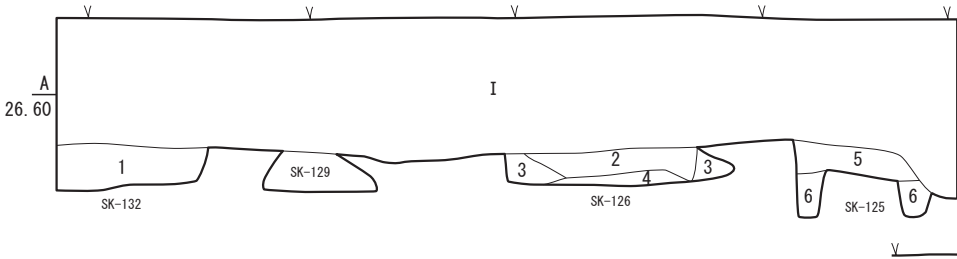
- A-A'
SK-131
- 1 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 2 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
 - 3 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
 - 4 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- SK-120
- 5 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 6 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 7 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 8 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 9 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SK-123
- 10 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 11 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 12 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 13 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 14 褐色土 多量のローム粒を含む
- SK-130
- 15 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 16 褐色土 少量のローム粒、多量のロームブロックを含む
- SK-113
- 17 褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SK-110
- 18 暗褐色土 多量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 19 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SP-89
- 20 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 21 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 22 褐色土 多量のローム粒を含む
- B-B'
SK-122
- 1 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒を含む
 - 2 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 3 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 4 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 5 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 6 褐色土 多量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 7 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 8 暗褐色土 少量のローム粒、微量の焼土粒・炭化粒を含む
 - 9 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 10 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 11 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 12 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 13 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- D-D'
SK-128
- 1 褐色土 多量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 2 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- SK-139
- 3 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 4 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 5 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 6 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 7 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 8 暗褐色土 多量のローム粒を含む
 - 9 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- C-C'
SK-119
- 1 褐灰色土 耕作土
 - 2 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 3 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 4 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 5 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 6 褐色土 多量のローム粒を含む



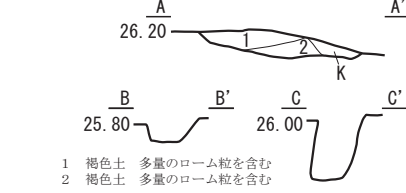
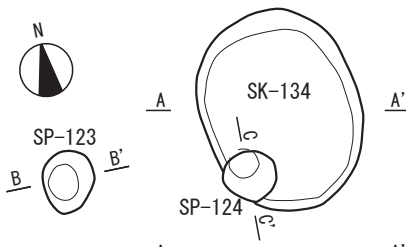
第23図 第110,113,117,119-123,127,130,131,139号土坑、第88-91,93,96,97,106,118-120,126-129,134号ピット



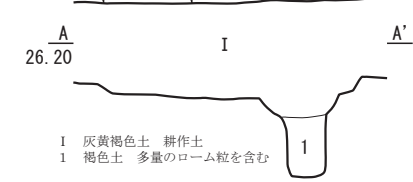
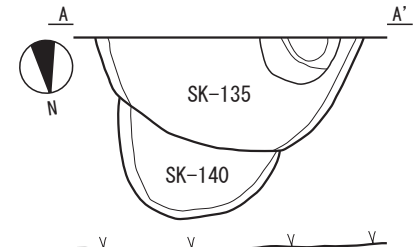
- A-A'
- I 褐灰色土 耕作土
 - SK-132
 - 1 褐色土 多量のローム粒を含む
 - SK-126
 - 2 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 3 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 4 褐色土 少量のローム粒を含む
 - SK-125
 - 5 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 6 褐色土 多量のローム粒を含む
 - B-B'
 - SK-129
 - 1 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 2 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 3 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - SK-128
 - 4 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 5 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 6 暗褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロック・粘土粒を含む
 - 7 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 8 褐色土 多量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 9 褐色土 多量のローム粒を含む
 - C-C'
 - SK-124
 - I 褐灰色土 耕作土
 - 1 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 - 2 暗褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 3 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 4 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
 - 5 褐色土 多量のローム粒を含む



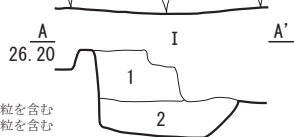
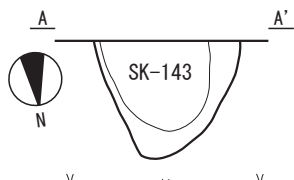
- I 灰黄褐色土 耕作土
- SK-133
 - 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 2 褐色土 多量のローム粒を含む
 - SK-136
 - 3 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 4 褐色土 多量のローム粒を含む
 - 5 暗褐色土 多量のローム粒を含む



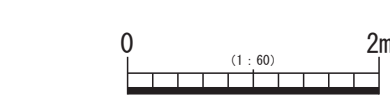
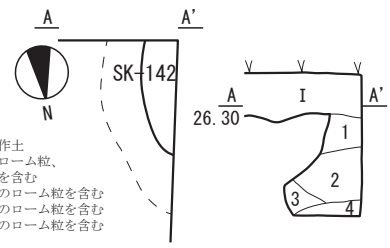
- 1 褐色土 多量のローム粒を含む
- 2 褐色土 多量のローム粒を含む



- I 灰黄褐色土 耕作土
- 1 褐色土 多量のローム粒を含む



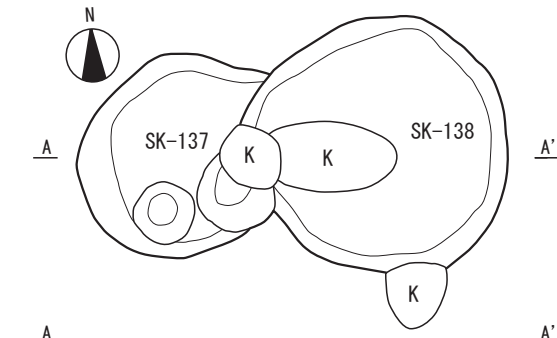
- I 灰黄褐色土 耕作土
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
 - 2 褐色土 多量のローム粒を含む



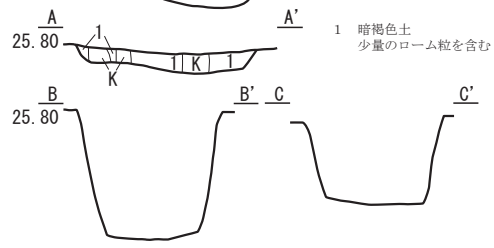
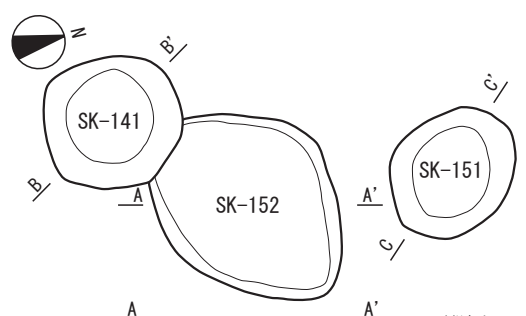
- I 灰黄褐色土 耕作土
- 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 2 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 3 暗褐色土 多量のローム粒を含む
 - 4 暗褐色土 少量のローム粒を含む



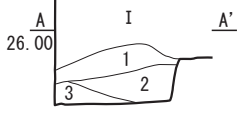
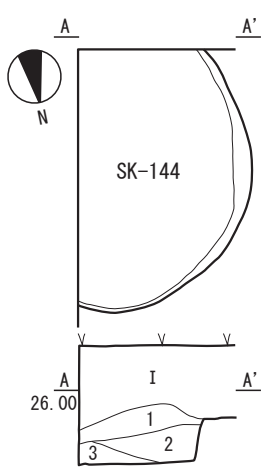
第24図 第124-126,128,129,132-136,140,142,143号土坑、第121,123-125,130号ピット



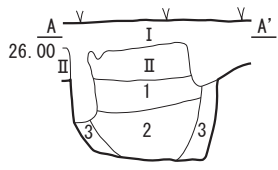
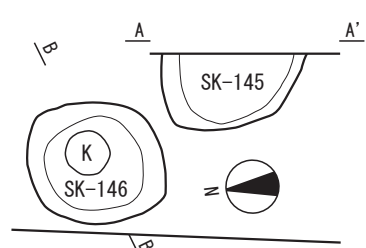
- SK-137
 1 褐色土 多量のローム粒を含む
 2 褐色土 多量のローム粒を含む
 SK-138
 3 褐色土 多量のローム粒を含む
 4 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む



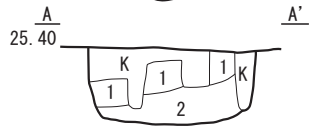
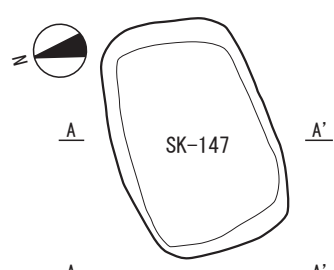
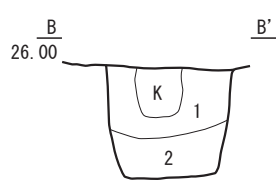
- 1 暗褐色土
 少量のローム粒を含む



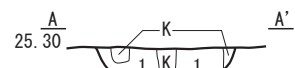
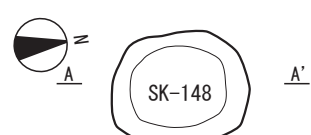
- I 灰黄褐色土 耕作土
 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 2 褐色土 多量のローム粒を含む
 3 暗褐色土 多量のローム粒を含む



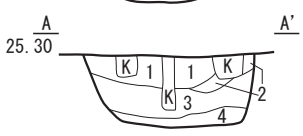
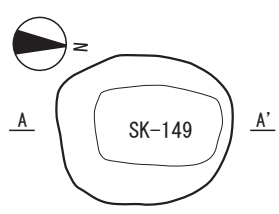
- SK-145
 I 灰黄褐色土 耕作土
 II 褐色土 微量のローム粒を含む
 1 褐色土 少量のローム粒を含む
 2 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 3 褐色土 多量のローム粒を含む
 SK-146
 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 2 暗褐色土 多量のローム粒を含む



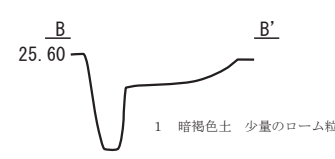
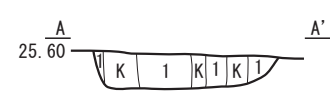
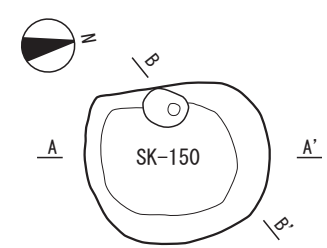
- 1 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 2 灰黄褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



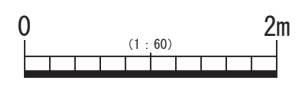
- 1 にぶい黄褐色土 少量のローム粒・ロームブロックを含む



- 1 褐色土 少量のローム粒、微量のロームブロックを含む
 2 褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む
 3 暗褐色土 少量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 4 黒褐色土 少量のローム粒を含む



- 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む



第25図 第137,138,141,144-152号土坑

第2表 土坑一覧表

No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
20	東-1	円形	225	-	76	縄文土器片	縄文中期後半。
21	東-1	円形	300	-	50	縄文土器片	縄文中期後半。
22	東-1	不整円形	230	220	40	縄文土器片	第1・3号井戸に切られる。縄文中期後半。
23	東-2	円形	218	180	37	縄文土器片	縄文中期後半。
24	東-2	円形	218	210	120	縄文土器片、石器	縄文中期後半。
25	東-2	不整円形	170	160	112	縄文土器(第44図24、第45図30,32)、土師質土器片、石器	フラスコ状。第2号井戸、第7号地下式坑に切られる。縄文中期後半。
26	東-2	不整円形	-	78	21	なし	第5号地下式坑に切られる。縄文。
27	東-2	円形	160	133	88	縄文土器(第42図14)	フラスコ状。第28号土坑に切られる。縄文中期後半。
28	東-2	円形	52	-	38	石造五輪塔火輪(第52図16)	第27号土坑を切る。中世。
29	東-2	円形	107	-	80	縄文土器片	フラスコ状。第5号地下式坑に切られる。縄文中期後半。
30	東-2	不整円形	(150)	-	29	縄文土器片	第31号土坑に切られる。縄文中期後半。
31	東-2	円形	100	85	81	縄文土器片	第30号土坑を切る。縄文中期後半。
32	東-2	円形	198	185	50	縄文土器片	第37・38号土坑、第1号溝に切られる。縄文中期後半。
33	東-2	円形	220	200	45	縄文土器片、土師質土器片、石製品(第50図10)	第5号地下式坑、第1号溝に切られる。縄文中期後半。
34	東-2	円形	96	-	37	なし	縄文。
35	東-2	円形	223	-	70	縄文土器片	縄文中期後半。
36	東-2	円形	200	182	45	縄文土器(第48図40)	縄文中期後半。
37	東-2	円形	260	220	90	縄文土器(第47図36)	第32号土坑を切る。縄文中期後半。
38	東-2	不整円形	180	140	85	縄文土器(第43図17)	第32号土坑を切る。縄文中期後半。
39	東-2	円形	105	-	25	なし	縄文。
40	東-2	円形	246	236	59	縄文土器片、磨製石斧(第49図4)	第42号土坑を切る。第41号土坑に切られる。縄文中期後半。
41	東-2	不整円形	190	165	128	縄文土器(第42図10,13)、石器	フラスコ状。第40号土坑を切り、第1号溝に切られる。縄文中期後半。
42	東-2	-	-	-	53	縄文土器片	第4号井戸に切られる。縄文中期後半。
43	東-2	楕円形	204	-	102	縄文土器(第40図3)	フラスコ状。第47号土坑を切り、第44号土坑、第1号溝に切られる。縄文中期後半。

No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
44	東-2	円形	330	315	122	縄文土器(第45図31、第47図38)、土師質土器片	第43・45号土坑を切り、第1号溝に切られる。縄文中期後半。
45	東-2	円形	-	115	23	縄文土器片	第44号土坑に切られる。縄文中期後半。
46	東-2	円形	-	-	29	縄文土器片	縄文中期後半。
47	東-2	楕円形	178	123	115	縄文土器片	フラスコ状。第43号土坑に切られる。縄文中期後半。
48	東-2	円形	170	160	35	縄文土器片	縄文中期後半。
49	東-2	円形	145	-	35	縄文土器片	第51号土坑を切り、第48号土坑に切られる。縄文中期後半。
50	東-2	円形	152	-	48	縄文土器片	第48・51号土坑を切る。縄文中期後半。
51	東-2	円形	256	245	69	縄文土器片	第53号土坑を切り、第49号土坑に切られる。縄文中期後半。
52	東-2	円形	150	-	63	なし	第57号土坑を切る。縄文。
53	東-2	円形	-	-	36	縄文土器(第43図21)	第56号土坑を切り、第51号土坑に切られる。縄文中期後半。
54	東-2	円形	205	-	46	縄文土器片	第55・58号土坑、第1号ピットに切られる。縄文中期後半。
55	東-2	円形	-	-	62	縄文土器片	第54号土坑を切り、第58・59号土坑に切られる。縄文中期後半。
56	東-2	不明	-	-	35	なし	第53号土坑に切られる。縄文中期後半。
57	東-2	楕円形	-	120	56	縄文土器片	第52号土坑、第1号溝に切られる。縄文中期後半。
58	東-2	-	-	-	75	なし	フラスコ状。第54・55号土坑を切る。縄文。
59	東-2	円形	76	-	103	縄文土器片	フラスコ状。第55号土坑を切る。縄文中期後半。
60	東-2	円形	-	83	67	縄文土器片	ピット2基。第62号土坑に切られる。縄文中期後半。
61	東-2	円形	-	95	83	縄文土器片	ピット1基。第55・62号土坑を切る。縄文中期後半。
62	東-2	円形	-	75	89	なし	フラスコ状。第60号土坑を切り、第61号土坑に切られる。縄文中期後半。
63	東-2	楕円形		82	66	なし	第2号溝を切る。中世。
64	東-2	円形	155	-	50	縄文土器片、磨石・敲石(第50図7)	第2号溝に切られる。縄文中期後半。
65	東-2	円形	155	138	117	縄文土器(第40図1,2,第41図5,6,8)	フラスコ状。縄文中期後半。
66	東-2	円形	70	58	30	縄文土器片	第71号土坑を切る。縄文中期。
67	東-2	不整円形	220	-	63	縄文土器(第44図26)	第68号土坑を切り、第69・73号土坑に切られる。縄文中期後半。

No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
68	東-2	-	-	-	39	なし	第67・69号土坑に切られる。縄文中期後半。
69	東-2	楕円形	270	-165	76	縄文土器(第42図9,12)	フラスコ状。第67・68・73・74号土坑を切る。縄文中期後半。
70	東-2	-	-	-	46	なし	第72号土坑を切る。縄文。
71	東-2	円形	250	235	61	縄文土器片、土師質土器片	第66号土坑に切られる。縄文中期後半。
72	東-2	不整円形	200	175	95	縄文土器片	第70号土坑に切られる。縄文中期後半。
73	東-2	楕円形	-	180	70	縄文土器片	第67号土坑を切り、第69号土坑に切られる。縄文中期後半。
74	東-2	-	-	-	67	縄文土器片	フラスコ状。第75号土坑を切り、第69号土坑に切られる。縄文中期後半。
75	東-2	円形	80	-	113	縄文土器(第42図11)	フラスコ状。第74号土坑に切られる。縄文中期後半。
76	東-2	楕円形	235	(125)	45	縄文土器片	フラスコ状。縄文中期後半。
77	東-2	楕円形	245	(150)	33	縄文土器片、磨石・敲石(第50図11)	フラスコ状。第4号ピットに切られる。縄文中期後半。
78	西	円形	175	147	43	縄文土器片	第131号ピットに切られる。縄文中期後半。
79	西	円形	-	235	52	縄文土器片	縄文中期後半。
80	西	円形	115	105	55	縄文土器片	縄文中期後半。
81	西	不整円形	240	190	70	縄文土器片	深さ10～126cmのピット3基。縄文中期後半。
82	西	円形	-	165	74	縄文土器片	縄文中期後半。
83	西	円形	150	-	105	縄文土器片	深さ148cmのピット1基。縄文中期後半。
84	西	円形	314	-	51	縄文土器片	ピット1基。縄文中期後半。
85	西	円形	225	-	87	縄文土器片	フラスコ状。縄文中期後半。
86	西	円形	-	-	92	縄文土器(第43図16、第46図35)	ピット1基。縄文中期後半。
87	中央	円形	102	-	92	縄文土器(第41図7)	第88号土坑、第3号溝に切られる。縄文中期後半。
88	中央	円形	80	-	80	縄文土器片	フラスコ状。ピット1基。第87・92号土坑を切り、第9・10号ピット、第3号溝に切られる。縄文中期後半。
89	中央	円形	-	-	87	縄文土器片	ピット1基。第11号ピットに切られる。縄文中期後半。
90	中央	円形	-	-	83	なし	縄文。
91	中央	円形	-	-	47	縄文土器片	フラスコ状。第3号溝に切られる。縄文中期後半。

No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
92	中央	円形	-	-	-	なし	第11号ピットを切り、第88号土坑、第10号ピットに切られる。覆土は褐色土で多量のローム粒を含む。固くしまっている。縄文中期後半。
93	中央	円形	-	-	50	縄文土器(第40図4)、磨製石斧(第49図5)	フラスコ状。第3号溝に切られる。縄文中期後半。
94	西	円形	276	265	97	縄文土器(第48図39,41)、敲石(第50図6)、磨石・敲石(第51図12)	フラスコ状。第9号竪穴建物を切る。ピット4基。縄文中期後半。
95	西	円形	-	-	46	縄文土器片	縄文中期後半。
96	西	円形	130	120	139	縄文土器(第43図18,20、第44図25、第45図28)、石棒(第51図13)	フラスコ状。第9号竪穴建物を切る。縄文中期後半。
97	西	円形	140	-	60	縄文土器片	第27・40号ピットに切られる。縄文中期後半。
98	西	円形	115	99	93	縄文土器(第44図22,23、第46図33,34,37)	フラスコ状。第51・52・57号ピットに切られる。一部掘り込みを伴う。縄文中期後半。
99	西	楕円形	125	-	70	縄文土器片	第3号屋外炉を切る。縄文中期後半。
100	西	円形	127	120	36	縄文土器片	第101・102号ピットに切られる。縄文中期後半。
101	西	隅丸方形	265	198	64	縄文土器片	第104・105号土坑を切り、第78・79号ピットに切られる。縄文中期後半。
102	西	不整円形	177	-	67	縄文土器片	第107号土坑、第82・87・92号ピットに切られる。縄文中期後半。
103	西	円形	139	125	43	なし	第116号土坑、第87・104号ピットに切られる。小ピット1基。縄文中期後半。
104	西	円形	210	-	55	縄文土器片	第105・106号土坑を切り、第101号土坑、第79・83・84・85号ピットに切られる。縄文中期後半。
105	西	円形	106	-	55	縄文土器片	第101・104号土坑、第99号ピットに切られる。縄文中期後半。
106	西	円形	-	132	45	縄文土器片	第104号土坑、第83・85号ピットに切られる。縄文中期後半。
107	西	不整円形	175	170	133	縄文土器片	フラスコ状。第102号土坑を切り、第114号土坑、第81号ピットに切られる。縄文中期後半。
108	西	円形	-	-	132	縄文土器片	フラスコ状。第115号土坑を切り、第109号ピットに切られる。縄文中期後半。
109	西	円形	200	185	123	縄文土器(第43図15)、磨石・敲石(第50図9)	フラスコ状。第115号土坑を切り、第118号土坑、第93・107号ピットに切られる。縄文中期後半。
110	西	不整円形	192	170	70	縄文土器(第43図19)	フラスコ状。第113号土坑を切り、第89・90・91号ピットに切られる。ピット2基。縄文中期後半。

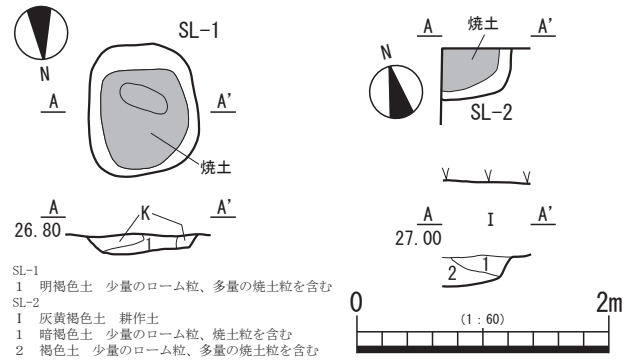
No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
111	西	円形	180	170	105	縄文土器片	フラスコ状。第112号土坑、第105号ピット切る。縄文中期後半。
112	西	円形	165	-	47	縄文土器片	第111・120号土坑、第94・95・122号ピットに切られる。縄文中期。
113	西	楕円形	265	205	34	縄文土器片	第123・130号土坑を切り、第96・97・134号ピットに切られる。縄文中期後半。
114	西	円形	-	-	67	なし	第107号土坑を切り、第115号土坑に切られる。縄文中期後半。
115	西	円形	-	-	36	なし	第114号土坑を切り、第108・109号土坑、第109号ピットに切られる。覆土は褐色土で多量のローム粒を含み、固くしまっている。縄文中期後半。
116	西	円形	255	245	44	縄文土器片	第118号土坑を切り、第116号土坑、第104,108,110-116号ピットに切られる。ピット2基。縄文中期後半。
117	西	円形	-	160	59	縄文土器片	フラスコ状。第130号土坑を切り、第122号土坑、第126・127号ピットに切られる。ピット3基。縄文中期後半。
118	西	円形	-	240	57	なし	第109号土坑を切り、第116号土坑、第108・115号ピットに切られる。縄文中期後半。
119	西	円形	-	-	108	縄文土器片	フラスコ状。第122号土坑に切られる。小ピット1基。縄文中期後半。
120	西	円形	168	145	97	縄文土器片	第112・127・131号土坑を切り、第122・123号土坑、第129号ピットに切られる。縄文中期。
121	西	楕円形	188	73	-	縄文土器片	第123号土坑、第93・106・120号ピットに切られる。覆土は褐色土で多量のローム粒を含み、固くしまっている。縄文中期後半。
122	西	円形	125	107	126	縄文土器片	フラスコ状。第117・119・120・130号土坑を切る。縄文中期後半。
123	西	円形	260	245	82	縄文土器片	第120・121・127号土坑を切り、第113・130号土坑に切られる。縄文中期後半。
124	西	円形	124	-	108	縄文土器片	フラスコ状。第128号土坑、第121号ピット、第7号井戸に切られる。縄文中期後半。
125	西	円形	-	-	22	縄文土器片	ピット2基。縄文中期後半。
126	西	円形	-	-	30	なし	第128号土坑に切られる。縄文中期後半。
127	西	-	-	-	-	なし	覆土は褐色土で多量のローム粒を含み、固くしまっている。縄文。
128	西	不整円形	230	225	116	縄文土器片	第124・126号土坑を切り、第121・125・130号ピットに切られる。縄文中期後半。
129	西	楕円形	305	240	70	縄文土器(第45図29)	第132号土坑を切り、第128・139号土坑、第130号ピットに切られる。縄文中期後半。

No.	調査区	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	所見
130	西	円形	-	-	30	なし	第123号土坑を切り、第113・117・122号土坑、第127号ピットに切られる。縄文中期後半。
131	西	円形	-	-	119	縄文土器片	フラスコ状。第139号土坑を切り、第120号土坑、第122・128・129号ピット、第7号井戸に切られる。縄文中期後半。
132	西	円形	-	-	36	なし	第129号土坑に切られる。ピット2基。縄文中期後半。
133	中央	-	-	-	61	縄文土器片	第136号土坑に切られる。中世。
134	中央	円形	160	125	20	なし	第124号ピットに切られる。中世。
135	中央	円形	213	-	-	なし	ピット1基。第140号土坑を切る。中世。
136	中央	円形	96	85	121	縄文土器片	第133号土坑を切る。中世。
137	中央	円形	180	150	48	縄文土器片	深さ約45cmのピット1基。第138号土坑に切られる。中世。
138	中央	円形	215	205	36	縄文土器片	深さ約43cmのピット1基。第137号土坑を切る。中世。
139	西	円形	206	203	79	縄文土器片	小ピット3基。第129号土坑を切り、第131号土坑、第128・129号ピットに切られる。縄文中期後半。
140	中央	円形	85	-	-	縄文土器片	第135号土坑に切られる。覆土は褐色土で多量のローム粒、ロームブロックを含む。中世。
141	中央	円形	116	103	101	縄文土器片	第152号土坑を切る。覆土はにぶい黄褐色土、多量のローム粒を含む。中世。
142	中央	-	-	-	81	縄文土器片	フラスコ状。縄文中期後半。
143	中央	円形	-	116	66	なし	中世。
144	中央	円形	-	-	47	縄文土器片	縄文中期後半。
145	中央	円形	-	115	67	縄文土器片	中世。
146	中央	円形	119	96	88	縄文土器片	中世。
147	中央	隅丸方形	188	125	57	縄文土器片、土師質土器片、古瀬戸灰釉平碗(第52図6)	中世。
148	中央	円形	108	91	28	なし	中世。
149	中央	隅丸方形	136	118	55	土師質土器片	中世。
150	中央	円形	146	125	28	なし	小ピット1基。中世。
151	中央	円形	111	92	70	なし	覆土は褐色土で多量のローム粒を含む。中世。
152	中央	楕円形	178	138	15	なし	第141号土坑に切られる。中世。

3 屋外炉

第1号屋外炉 (SL-1)

位置 西区の中央部に位置する。第9号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が新しい。**規模** 長軸100cm、短軸85cmの隅丸方形を呈している。**覆土** 1層確認され、多量の焼土粒を含む。一部攪乱が見られる。**出土遺物** なし。**所見** 遺物は確認されていないが縄文時代と考えられる。



第26図 第1,2号屋外炉

第2号屋外炉 (SL-2)

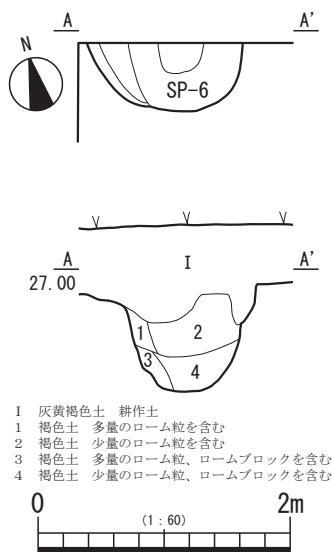
位置 西区の東側に位置する。北側に張り出した細いトレンチの北および西壁にかかって検出された。**規模** 約55cm×40cmの範囲で、全体の1/4程度が検出された。隅丸方形を呈すると思われる。**覆土** 2層に分層された。多量の焼土粒を含む。**出土遺物** 縄文土器片。**所見** 本遺構の時期は、縄文時代中期後半と考えられる。

第3号屋外炉 (SL-3) (第21図)

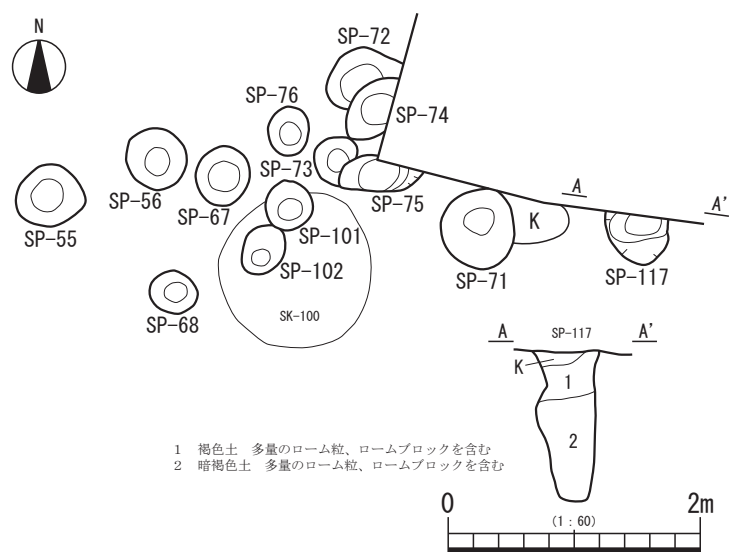
位置 西区の東側に位置する。北側に張り出した細いトレンチの東壁にかかって検出された。第99号土坑と重複しており、本遺構の方が古い。**規模** 約80cm×30cmの範囲で検出された。平面形は不明である。**覆土** 1層確認された。焼土粒を含む。**出土遺物** なし。**所見** 遺物は確認されていないが縄文時代と考えられる。

4 ピット

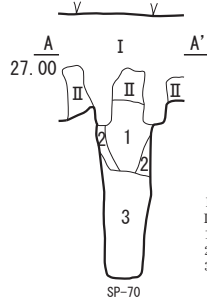
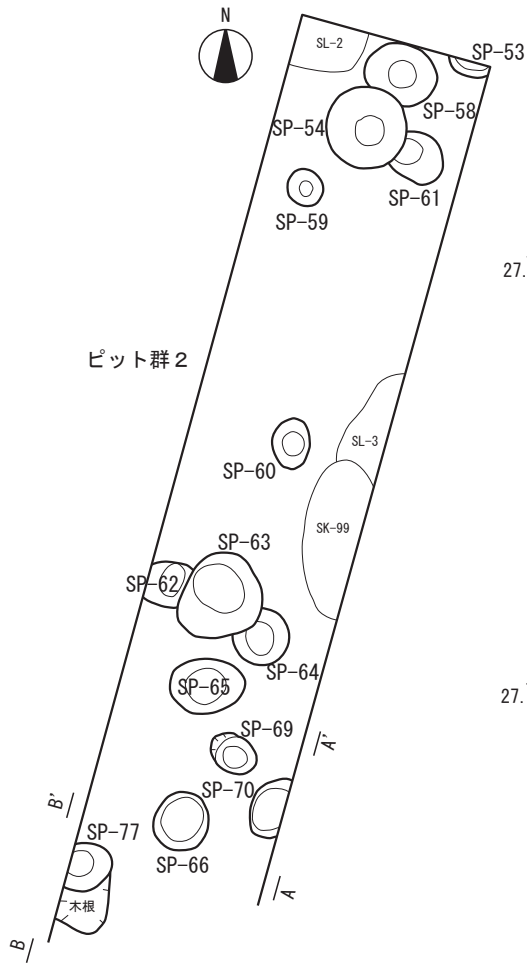
縄文時代のピット131基、中近世のピット3基が見つかった。西区中央～東側にピットが集中している。それぞれ表にて記載する。



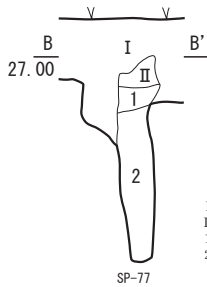
第27図 第6号ピット



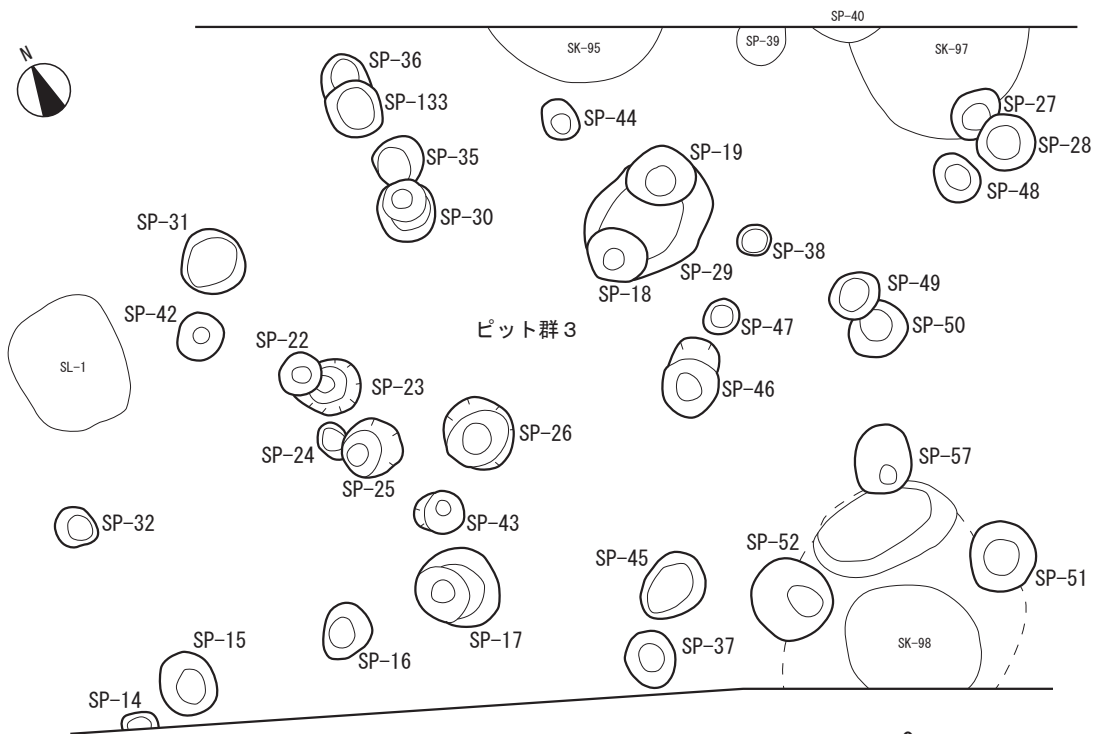
第28図 ピット群1



- I 灰黄褐色土 耕作土
- II 褐色土 微量のローム粒を含む
- 1 褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 2 褐色土 多量のローム粒を含む
- 3 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む



- I 灰黄褐色土 耕作土
- II 褐色土 微量のローム粒を含む
- 1 褐色土 少量のローム粒を含む
- 2 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む



第29図 ピット群2,3

第3表 ピット一覧

No.	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	平面形	出土遺物	所見	No.	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	平面形	出土遺物	所見
1	東-2	43	35	30	円形	土師質土器 (第52図2)	中世	34	西	35	30	37	円形	なし	縄文
2	東-2	92	87	120	円形	縄文土器片	縄文	35	西	40	38	43	円形	なし	縄文
3	東-2	56	52	64	円形	なし	縄文	36	西	40	35	87	円形	縄文土器片	縄文
4	東-2	47	42	102	円形	なし	縄文	37	西	46	39	42	円形	縄文土器片	縄文
5	西	68	55	140	円形	なし	縄文	38	西	27	25	52	円形	なし	縄文
6	西	12	-	76	円形	なし	縄文	39	西	40	37	115	円形	縄文土器片	縄文
7	西	48	46	110	円形	なし	縄文	40	西	-	55	95	円形	なし	縄文
8	西	50	45	133	円形	なし	縄文	41	西	43	40	120	円形	なし	縄文
9	中央	50	38	65	円形	なし	縄文	42	西	38	36	144	円形	なし	縄文
10	中央	-	32	150	楕円形	なし	縄文	43	西	39	32	80	円形	なし	縄文
11	中央	52	50	115	円形	なし	縄文	44	西	33	28	39	円形	なし	縄文
12	西	54	45	108	円形	なし	縄文	45	西	59	45	54	円形	なし	縄文
13	西	27	25	34	円形	なし	縄文	46	西	63	45	139	楕円形	なし	縄文
14	西	29	-	48	円形	なし	縄文	47	西	30	27	65	円形	なし	縄文
15	西	51	44	58	円形	縄文土器片	縄文	48	西	40	33	100	円形	なし	縄文
16	西	46	36	100	円形	なし	縄文	49	西	42	37	125	円形	なし	縄文
17	西	66	63	88	円形	なし	縄文	50	西	48	45	86	円形	なし	縄文
18	西	49	44	131	円形	なし	縄文	51	西	56	54	135	円形	なし	縄文
19	西	56	46	91	円形	なし	縄文	52	西	66	61	181	円形	なし	縄文
20	西	40	37	160	円形	なし	縄文	53	西	-	35	-	円形	なし	縄文
21	西	52	44	147	円形	なし	縄文	54	西	65	64	102	円形	縄文土器片 石器(第49図3)	縄文
22	西	35	32	122	円形	縄文土器片	縄文	55	西	55	49	72	円形	なし	縄文
23	西	52	42	84	円形	なし	縄文	56	西	50	46	33	円形	なし	縄文
24	西	31	24	64	円形	なし	縄文	57	西	54	45	62	円形	なし	縄文
25	西	48	44	95	円形	縄文土器片	縄文	58	西	58	50	117	円形	なし	縄文
26	西	59	57	151	円形	縄文土器片	縄文	59	西	30	29	60	円形	なし	縄文
27	西	45	38	75	円形	なし	縄文	60	西	40	30	107	円形	なし	縄文
28	西	47	45	149	円形	なし	縄文	61	西	42	35	62	円形	なし	縄文
29	西	118	86	64	楕円形	なし	縄文	62	西	45	36	112	円形	なし	縄文
30	西	50	45	145	円形	なし	縄文	63	西	72	65	145	円形	縄文土器片	縄文
31	西	53	51	176	円形	縄文土器片	縄文	64	西	45	44	56	円形	なし	縄文
32	西	35	30	47	円形	縄文土器片	縄文	65	西	60	43	123	楕円形	縄文土器片	縄文
33	西	40	35	64	円形	縄文土器片	縄文	66	西	46	42	97	円形	なし	縄文

No.	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	平面形	出土遺物	所見	No.	調査区	長径 (cm)	短径 (cm)	深度 (cm)	平面形	出土遺物	所見
67	西	47	44	183	円形	なし	縄文	101	西	40	37	138	円形	なし	縄文
68	西	38	33	62	円形	縄文土器片	縄文	102	西	43	30	49	円形	なし	縄文
69	西	39	29	68	円形	なし	縄文	103	西	40	37	131	円形	なし	縄文
70	西	50	43	142	円形	なし	縄文	104	西	57	53	70	円形	なし	縄文
71	西	62	55	51	円形	なし	縄文	105	西	24	21	16	円形	なし	縄文
72	西	60	50	156	楕円形	なし	縄文	106	西	36	30	131	円形	なし	縄文
73	西	39	35	96	円形	なし	縄文	107	西	32	24	9	円形	なし	縄文
74	西	61	42	96	楕円形	なし	縄文	108	西	35	33	-	円形	なし	縄文
75	西	68	29	122	楕円形	なし	縄文	109	西	32	24	32	円形	なし	縄文
76	西	38	32	28	円形	なし	縄文	110	西	32	27	21	円形	なし	縄文
77	西	43	38	138	円形	なし	縄文	111	西	40	37	39	円形	なし	縄文
78	西	50	39	141	円形	なし	縄文	112	西	38	35	23	円形	なし	縄文
79	西	55	50	14	円形	なし	縄文	113	西	65	46	21	円形	なし	縄文
80	西	-	35	56	円形	なし	縄文	114	西	25	20	35	円形	なし	縄文
81	西	-	45	13	円形	なし	縄文	115	西	54	37	143	円形	なし	縄文
82	西	45	37	73	円形	なし	縄文	116	西	30	26	40	円形	なし	縄文
83	西	48	38	100	円形	なし	縄文	117	西	51	50	118	円形	なし	縄文
84	西	51	47	66	円形	なし	縄文	118	西	102	84	54	円形	なし	縄文
85	西	41	37	86	円形	縄文土器片	縄文	119	西	55	42	114	円形	なし	縄文
86	西	-	28	-	円形	なし	縄文	120	西	44	40	30	円形	なし	縄文
87	西	64	50	119	円形	なし	縄文	121	西	55	50	102	円形	縄文土器片	縄文
88	西	52	50	66	円形	なし	縄文	122	西	72	50	43	楕円形	なし	縄文
89	西	43	36	128	円形	なし	縄文	123	中央	50	41	18	円形	なし	中世
90	西	50	40	43	円形	なし	縄文	124	中央	43	40	51	円形	なし	中世
91	西	45	30	105	円形	なし	縄文	125	西	37	33	44	円形	なし	縄文
92	西	40	36	99	円形	なし	縄文	126	西	45	35	88	円形	なし	縄文
93	西	58	43	36	円形	なし	縄文	127	西	46	41	84	円形	なし	縄文
94	西	40	35	43	円形	なし	縄文	128	西	70	63	66	円形	縄文土器片	縄文
95	西	50	45	131	円形	なし	縄文	129	西	61	50	55	円形	なし	縄文
96	西	59	49	82	円形	なし	縄文	130	西	52	44	93	円形	なし	縄文
97	西	35	30	93	円形	なし	縄文	131	西	32	22	117	円形	なし	縄文
98	西	36	30	19	円形	なし	縄文	132	西	40	35	105	円形	なし	縄文
99	西	53	37	94	円形	なし	縄文	133	西	46	43	148	円形	なし	縄文
100	西	52	47	123	円形	縄文土器片	縄文	134	西	31	29	73	円形	なし	縄文

5 地下式坑

第5号地下式坑（S X-5）（第30図）

位置 東-2区の南側、東・西・南壁にかかって検出された。北側に第33号土坑と第1号溝、南側に第26・29号土坑が位置する。付属する pit が第33号土坑・第1号溝と重複しており、本遺構が最も新しい。**規模** 東西約4.6m、南北約6.3mの範囲で検出された。南北方向のB-B'断面の深さが約1.5mと最も深く、遺構中心部と考えられるが、多数の掘り込みが複雑にからみ、詳細は不明である。深さ約30～130cmのpitが15基確認された。**主軸方向** 不明。**覆土** 1・7層はローム粒が少なく、本遺構埋没後の堆積物と考えられる。2～6層はpit内の堆積物である。8～12層はローム粒を多量に含み、天井崩落土と考えられる。**出土遺物** 縄文土器片。土師質土器片。他に上層から土師質土器（内耳鍋）（第52図5）、遺構中心部から宝篋印塔塔身部1点が見つかった（第52図14）。**所見** 出土遺物から、本遺構の時期は15～16世紀と考えられる。

第6号地下式坑（S X-6）（第31図）

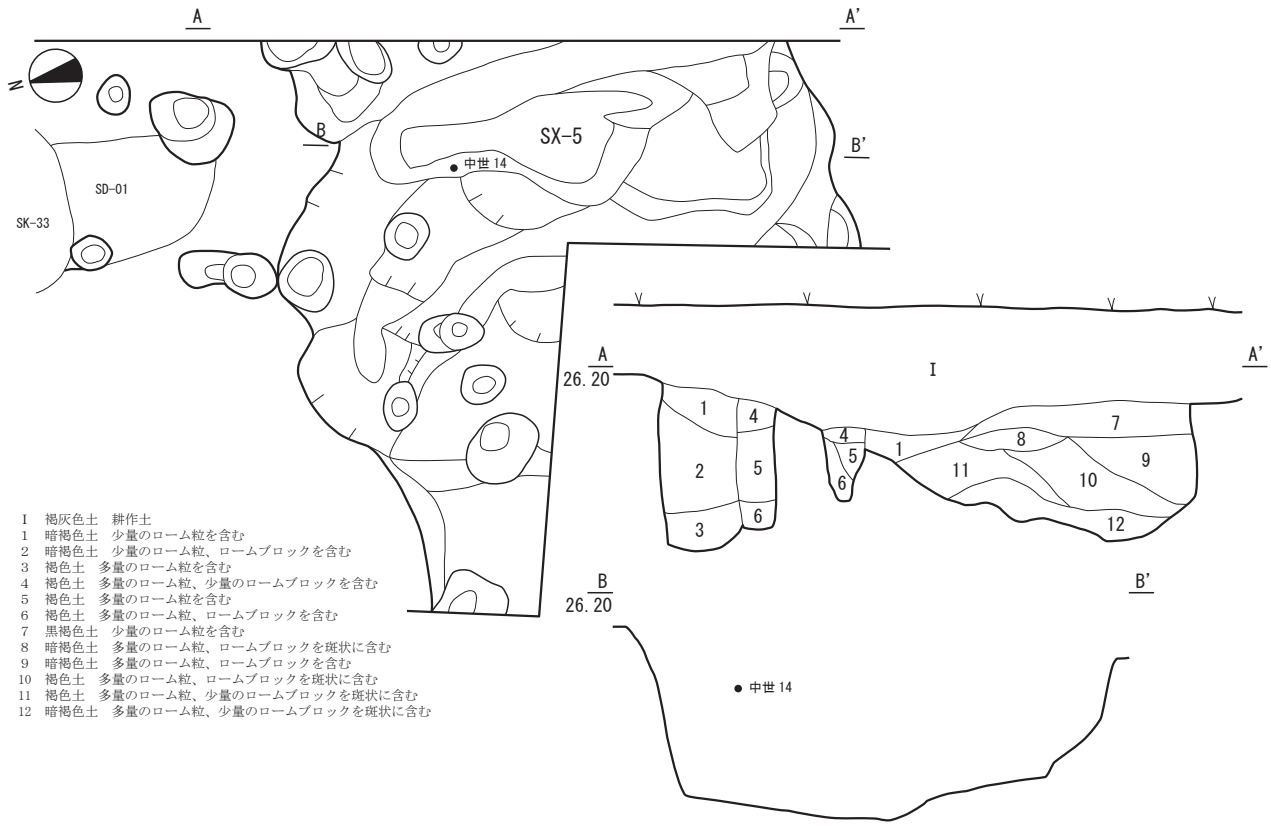
位置 東-2区の西側、北壁にかかって検出された。付属する pit 2基は南壁に一部かかっている。**規模** 約2.4m×約1.4mの範囲で検出された。平面は不整形円形を呈すると考えられる。深さは約1.7mあり、深さ約50cmあたりでくびれ、南東方向に掘りこまれる。底面の平面は不整形丸方形を呈する。pit1は直径約50cm、深さ約80cm、pit2は直径45cm、深さ約95cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 詳細は不明であるが、付属する pit は多量のローム粒を含む。**出土遺物** 縄文土器片。骨片。石造五輪塔水輪1点（第52図15）。**所見** 出土遺物から、本遺構の時期は中世と考えられる。

第7号地下式坑（S X-7）（第30図）

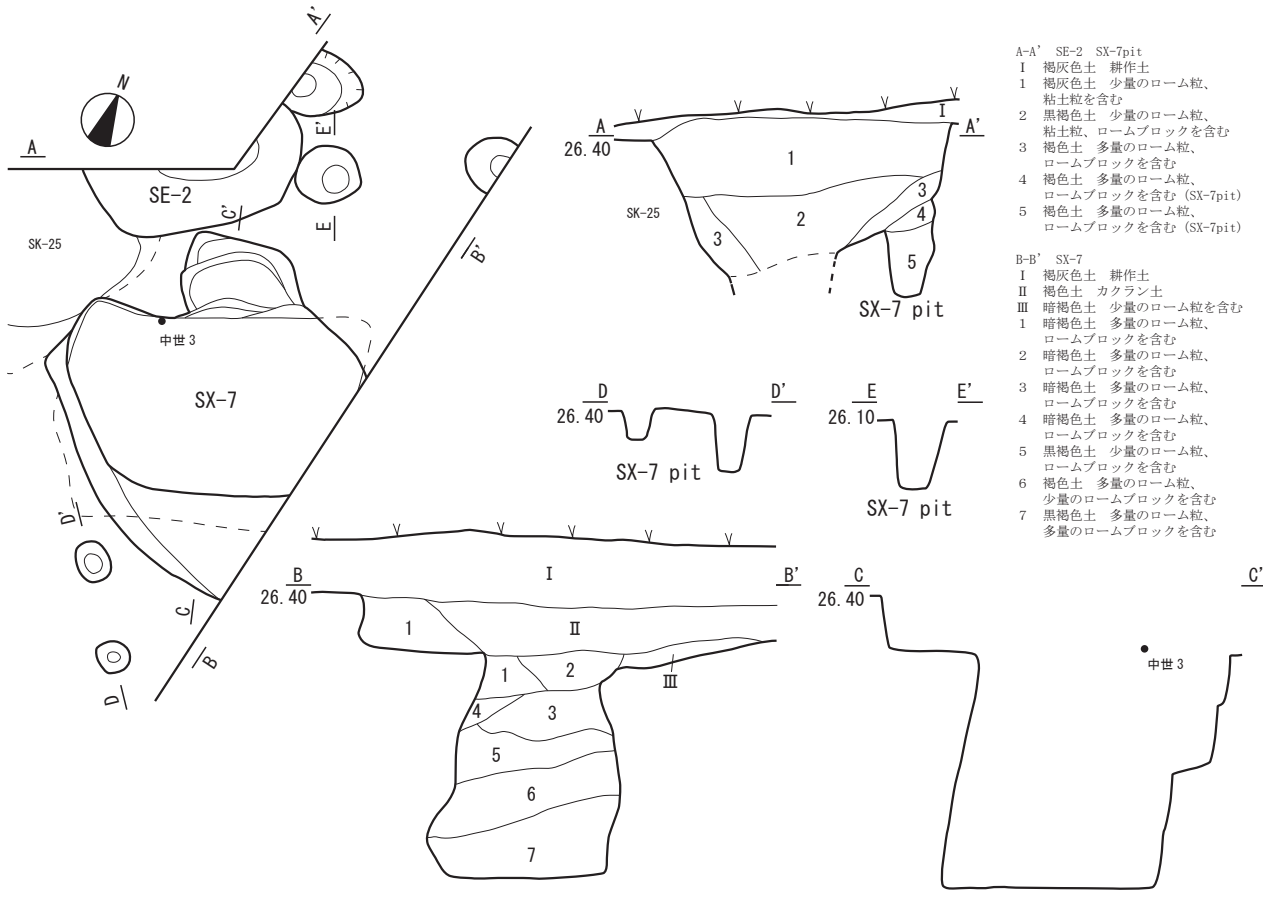
位置 東-2区の南側、東壁にかかって検出された。第25号土坑、第2号井戸と重複しており、第25号土坑より新しく、第2号井戸より古い。**規模** 約2.5m×約2.9mの範囲で検出された。主室の平面は不整形であるが、底面は約2.2m×約1.6mの不整形丸長方形を呈するようである。底面は平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。南側の一部が浅い平場となっているが、主室の深さは約2.2mを測る。竪坑は主室の北壁から突出する形で構築され、平面は隅丸長方形を呈する。深さは約90cmである。竪坑と主室には段が存在し、主室が低く、その高低差は90cmである。付属する pit が5基確認され、直径28～50cm、深さ24～75cmであった。**主軸方向** N-23°-W **覆土** 天井崩落土と思われる。**出土遺物** 主室の最上層から土師質土器皿1点（第52図3）、上層から土師質土器（内耳鍋）が出土した（第52図11）。他に縄文土器片が出土している。**所見** 出土遺物から、本遺構の時期は15～16世紀と考えられる。

第8号地下式坑（S X-8）（第31図）

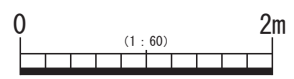
位置 中央区の中央、南壁にかかって検出された。第143号土坑と近接する。**規模** 主室は約1.5×2.5mの隅丸長方形を呈し、深さは約1.45mを測る。底面はほぼ平らで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。東と西側の隅2ヵ所に掘り込みが確認され、竪坑と考えられる。どちらも主室とは段が存在し、東側の竪坑と主室の高低差は約75cm、西側の竪坑との高低差は約70cmである。**主軸方向** 不明。**覆土** 天井崩落土および竪坑からの流れ込み土と思われる。**出土遺物** 主室底面から土師質土器皿1点が出土した（第52図4）。他に縄文土器片も出土している。**所見** 土師質土器皿が底面から出土しており、地下式坑使用時のものと考えられる。本遺構の時期は出土遺物から15世紀代と考えられる。



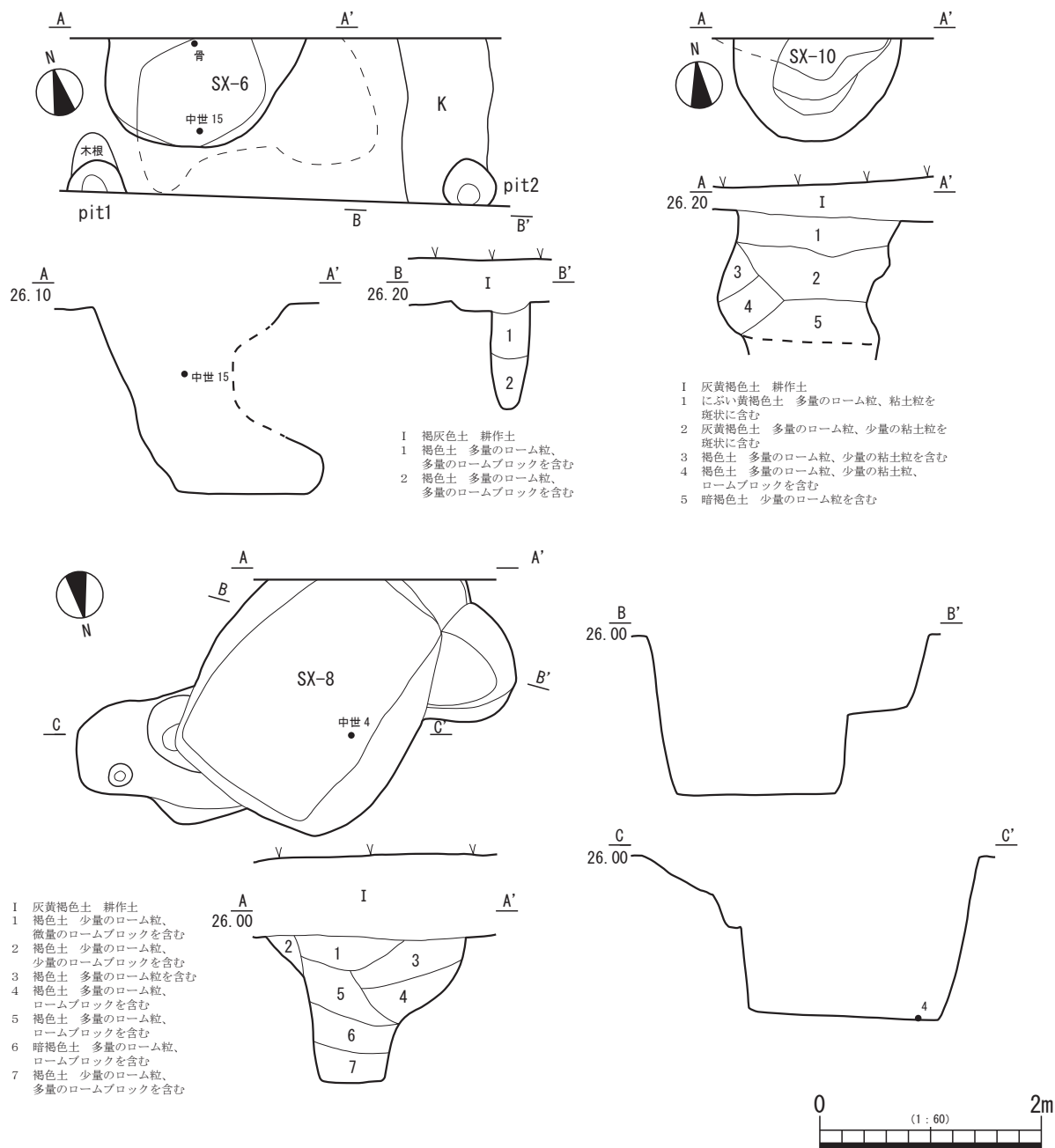
- 1 褐灰色土 耕作土
- 1 暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 2 暗褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
- 3 褐色土 多量のローム粒を含む
- 4 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
- 5 褐色土 多量のローム粒を含む
- 6 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- 7 黒褐色土 少量のローム粒を含む
- 8 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを斑状に含む
- 9 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
- 10 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを斑状に含む
- 11 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを斑状に含む
- 12 暗褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを斑状に含む



- A-A' SE-2 SX-7pit
- I 褐灰色土 耕作土
 - 1 褐灰色土 少量のローム粒、粘土粒を含む
 - 2 黒褐色土 少量のローム粒、粘土粒、ロームブロックを含む
 - 3 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 4 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む (SX-7pit)
 - 5 褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む (SX-7pit)
- B-B' SX-7
- I 褐灰色土 耕作土
 - II 褐色土 カクラン土
 - III 暗褐色土 少量のローム粒を含む
 - 1 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 2 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 3 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 4 暗褐色土 多量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 5 黒褐色土 少量のローム粒、ロームブロックを含む
 - 6 褐色土 多量のローム粒、少量のロームブロックを含む
 - 7 黒褐色土 多量のローム粒、多量のロームブロックを含む



第30図 第5,7号地下式坑、第2号井戸



第31図 第6,8,10号地下式坑

第10号地下式坑 (SX-10) (第31図)

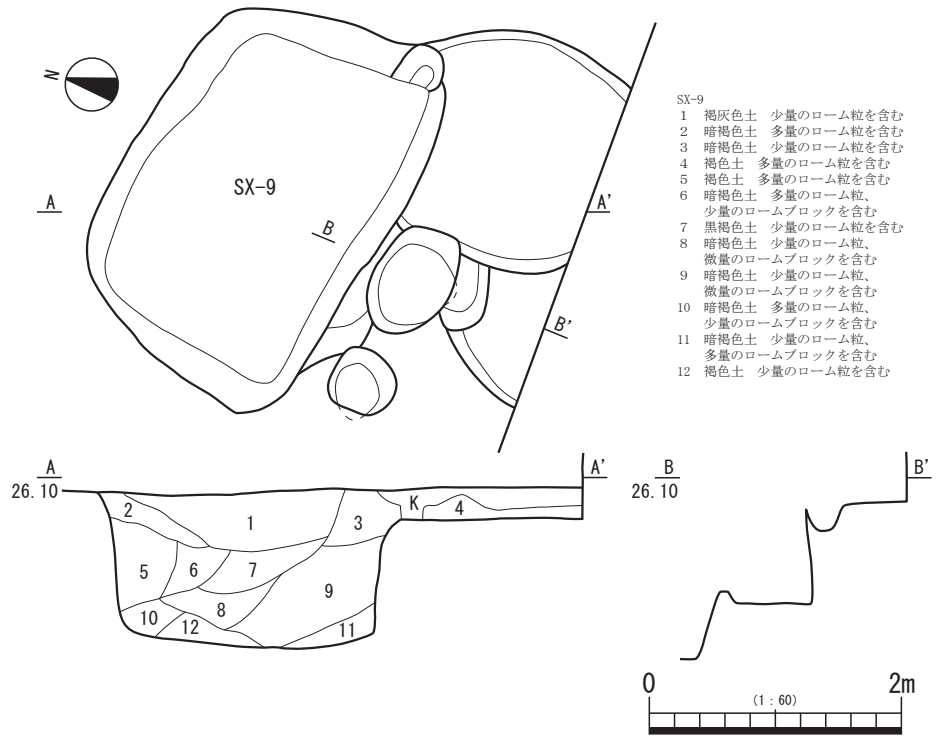
位置 中央区の中央、北壁にかかって検出された。**規模** 約1.5×0.9mの範囲で検出された。平面は円形を呈するようである。壁の立ち上がりはいびつである。深さは約1.1mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 天井崩落土と思われる。**出土遺物** 土器片。**所見** 詳細は不明であるが、他の地下式坑と同様に、本遺構の時期は中世と考えられる。

第9号地下式坑 (SX-9) (第32図)

位置 中央区の西側、南壁にかけて検出された。**規模** 主室の平面は約2.1×3.2mの隅丸長方形を呈し、深さは1.25mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。竪坑は不明瞭である。付属すると考えられる土坑が南側に多数掘り込まれている。土坑はおおよそ円形を呈し、大きいもので直径約2m、小さいもので約55cmであった。これらの掘り込みは調査区南壁に近づくほど浅い。**主軸方向** 不明。**覆土** 天井崩落土および自然堆積と思われる。

出土遺物 上層から陶器片(常滑)甕、鉢が出土した(第52図7、8、10、12)。

所見 出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。



第32図 第9号地下式坑

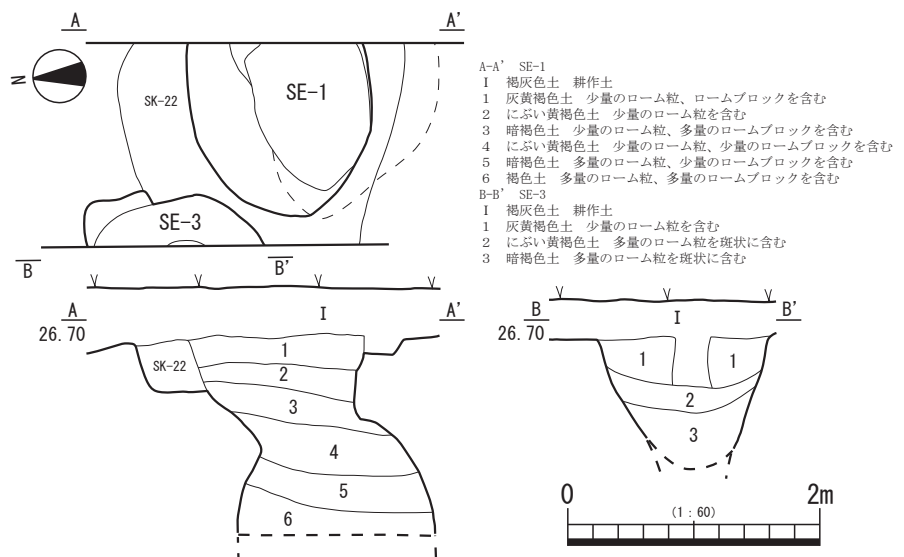
6 井戸

第1号井戸 (SE-1) (第33図)

位置 東-1区の北側、東壁にかけて検出された。第22号土坑と重複しており、本遺構の方が新しい。

規模 平面形は、短径約1.5m程度の不整形円形を呈すると思われ、3/4程度が検出された。開口部から65～90cm付近でくびれ、多少ふくらみながら底面に向かって掘られるようである。深さは約1.6mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。

覆土 自然堆積か。**出土遺**

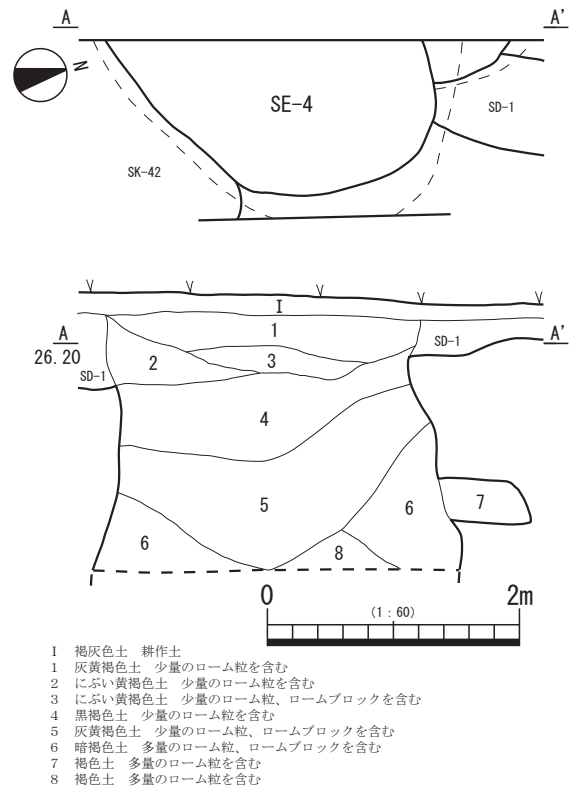


第33図 第1,3号井戸

物 土師質土器片 2点。所見 出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。

第2号井戸 (SE-2) (第30図)

位置 東-2区の最も南側、トレンチが直角に曲がる箇所で、北・西壁にかかって検出された。第25号土坑、第7号地下式坑と重複しており、本遺構が最も新しい。**規模** 平面形は、長径約2.1mの不整形円形を呈すると思われ、1/3程度が検出された。開口部から約1m付近でくびれ、80cm程度の幅で掘られるようである。深さは約1mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 3層は多量のローム粒を含む崩落土と見られ、1・2層は粘土粒が含まれ、埋め戻し土と思われる。**出土遺物** なし。**所見** 他の事例と同様中世と考えられる。



第34図 第4号井戸

第3号井戸 (SE-3) (第33図)

位置 東-1区の北側、西壁にかかって検出された。第22号土坑と重複しており、本遺構の方が新しい。**規模** 約140cm×40cmの範囲で検出された。平面形は不明である。深さは約1mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 2・3層は多量のローム粒を含む。**出土遺物** 土器片。**所見** 他の事例と同様中世と考えられる。

第4号井戸 (SE-4) (第34図)

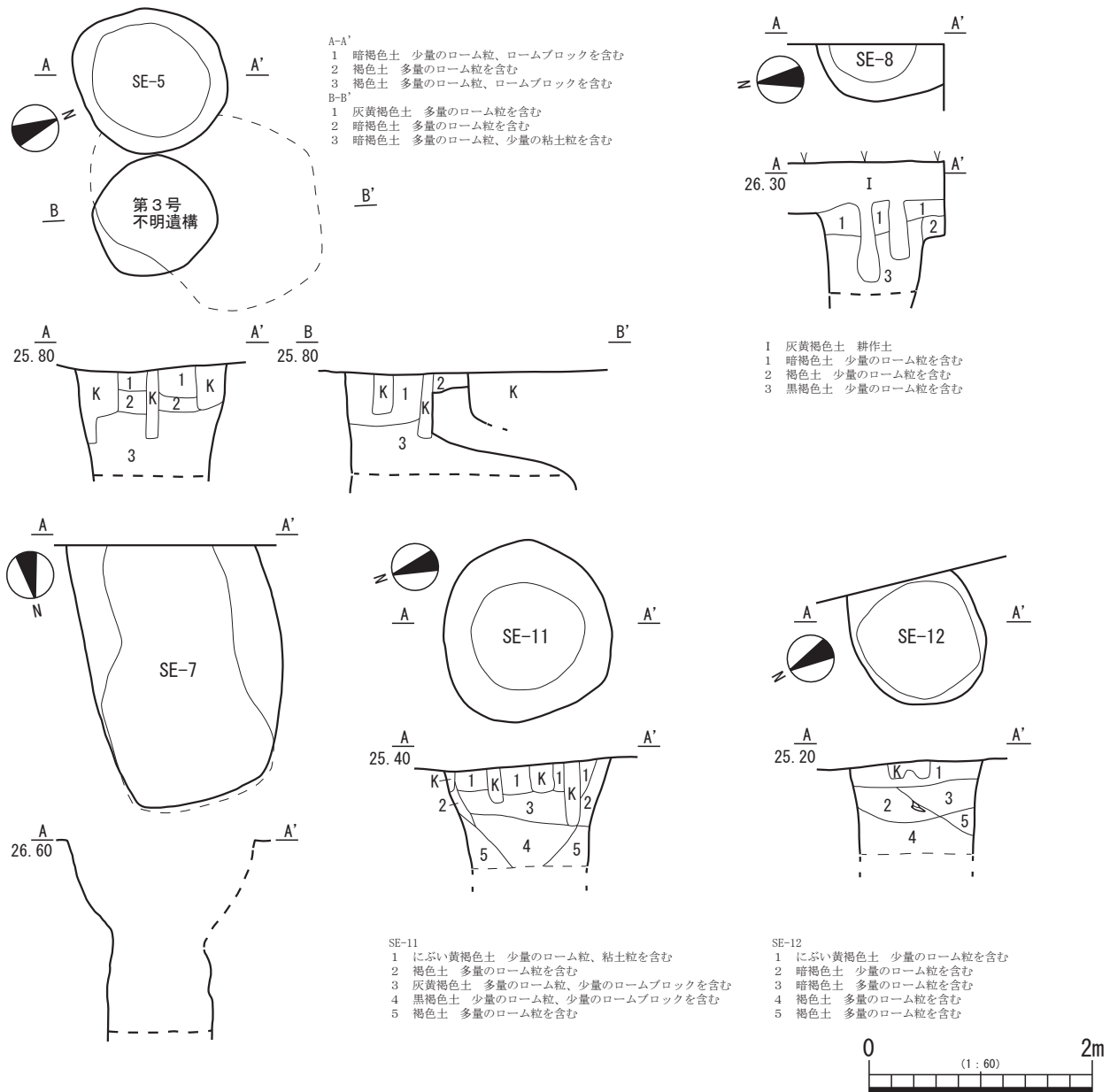
位置 東-2区の中央部、西壁にかかって検出された。第42号土坑、第1号溝と重複しており、本遺構の方が新しい。**規模** 平面形は、短径約1.8mの楕円形を呈すると思われ、1/2程度が検出された。開口部から深さ1.2m付近、北側に張り出し部分が見られる。深さは約2mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 6層以下は多量のローム粒を含む。**出土遺物** 縄文土器片。土師質土器片。骨片。**所見** 出土遺物から中世と考えられる。

第5号井戸 (SE-5) (第35図)

位置 中央区の東側、標高25.6m付近に位置する。第10号井戸と重複しており、本遺構の方が新しい。**規模** 平面形は、直径約1.3mの円形を呈する。深さは約1mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 3層は多量のローム粒、ロームブロックを含み、一度に埋め戻されたと思われる。**出土遺物** なし。**所見** 他の事例と同様中世と考えられる。

第7号井戸 (SE-7) (第35図)

位置 西区の東側、南壁にかかって検出された。第124号、131号土坑、第122号ピットと重複し、本遺構が最も新しい。**規模** 約2.4m×1.7mの範囲で検出された。平面形は、短径約1.7mの楕円形を呈



第35図 第5,7,8,11,12号井戸、第3号不明遺構

すると思われる。開口部から深さ80cm付近でくびれ、底面に向かい垂直に掘られるようである。深さは約1.7mまで確認したが、それ以下は未完掘である。主軸方向 ほぼ北。覆土 詳細不明。出土遺物 土師質土器片1点。所見 出土遺物から中世と考えられる。

第8号井戸 (SE-8) (第35図)

位置 中央区の中央、南・東壁にかかって検出された。**規模** 115cm × 50cmの範囲で、1/2程度が検出された。平面形は、不整円形を呈すると思われる。開口部から深さ35cm付近でくびれ、底面に向かい垂直に掘られるようである。深さは約85cmまで確認したが、それ以下は未完掘である。主軸方向 不明。覆土 少量のローム粒を含む。出土遺物 なし。所見 他の事例と同様中世と考えられる。

第11号井戸 (SE-11) (第35図)

位置 中央区の東側に位置する。**規模** 平面形は、長径約165cm、短径約150cmの円形を呈している。壁はゆるやかに立ち上がる。深さは約100cmまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 崩落による自然堆積と人為的な埋め戻しと思われる。**出土遺物** なし。**所見** 他の事例と同様中世と考えられる。

第12号井戸 (SE-12) (第35図)

位置 中央区の東側、東壁に少しかかって検出された。**規模** 平面形は、短径約115cmの円形を呈すると考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さは約85cmまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 多量のローム粒を含み、人為的な埋め戻しと思われる。**出土遺物** なし。**所見** 他の事例と同様中世と考えられる。

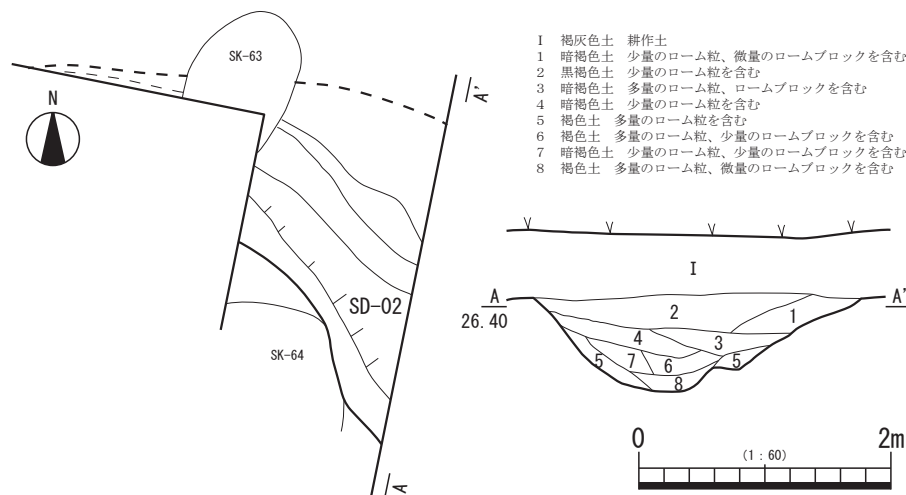
7 溝

第1号溝 (SD-1) (第37図)

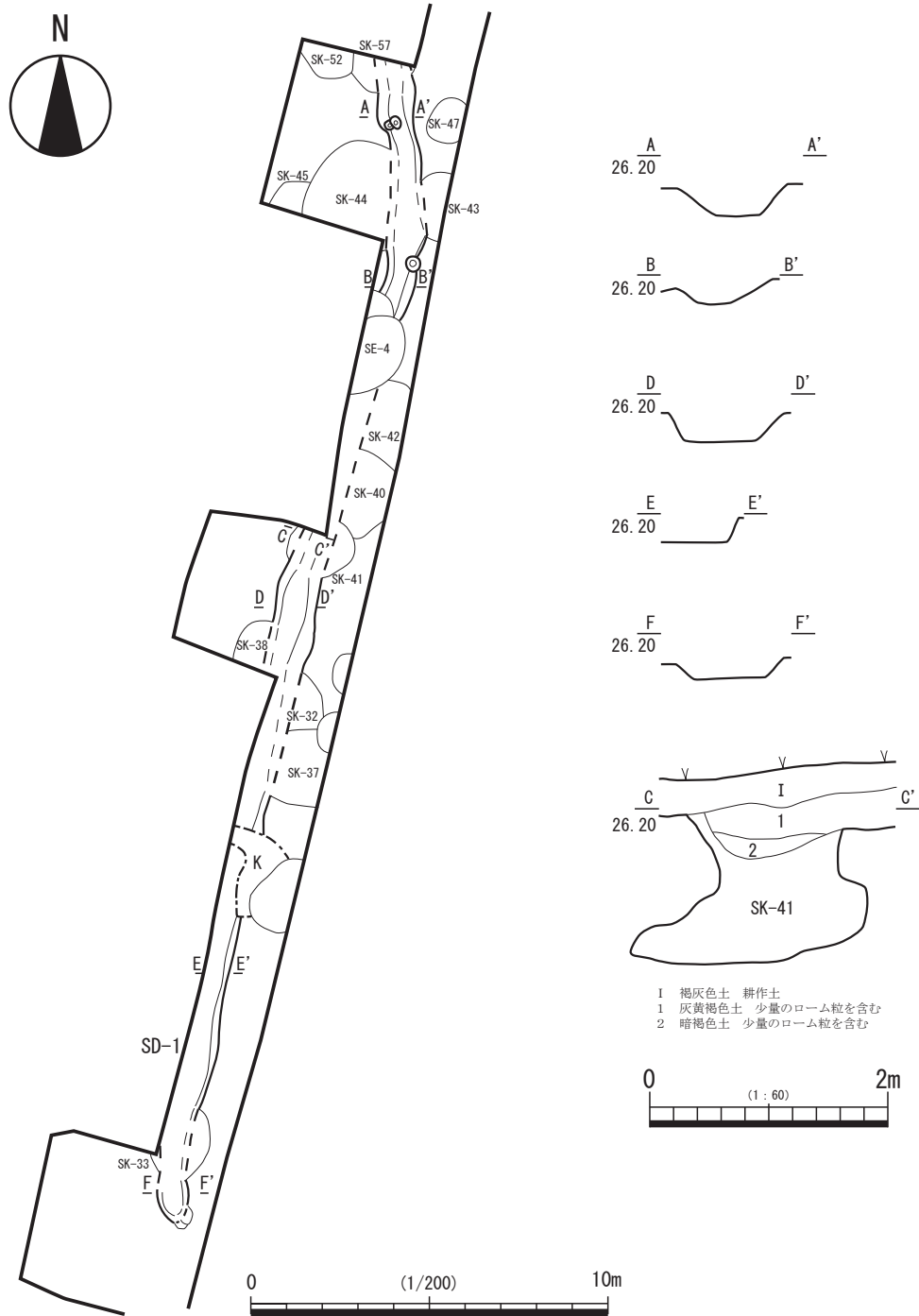
位置 東-2区の南~中央部、トレンチと平行するようやや蛇行しながら延びる。北端は調査区外に延びる。第32・33・37・38・40・41・42・43・44・57号土坑、第5号地下式坑、第4号井戸と重複しており、本遺構は全ての土坑、地下式坑より新しく、第4号井戸より古い。**規模** 全長約32.5m、幅約85~95cm、およそ南北方向に伸びる直線的な溝である。深さは約18~25cmを測る。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。**長軸方向** N-14°-E **覆土** 自然堆積か。**出土遺物** 土師質土器片1点。**所見** 出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。

第2号溝 (SD-2) (第36図)

位置 東-2区の北側、トレンチを斜めに横断するように一部検出された。東端・西端とも調査区外に延びる。第63、64号土坑と重複し、第64号土坑より新しく第63号土坑より古い。**規模** 全長約1.5m、幅約1.3~2.6m、およそ東西方向に伸びる。深さは約80cmを測る。底面は丸底状で、一段を有する。壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。**長軸方向** N-61°-W **覆土** 自然堆積か。**出土遺物** 土師質土器片1点。宝篋印塔相輪部1点(第52図13)。**所見** 出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。



第36図 第2号溝

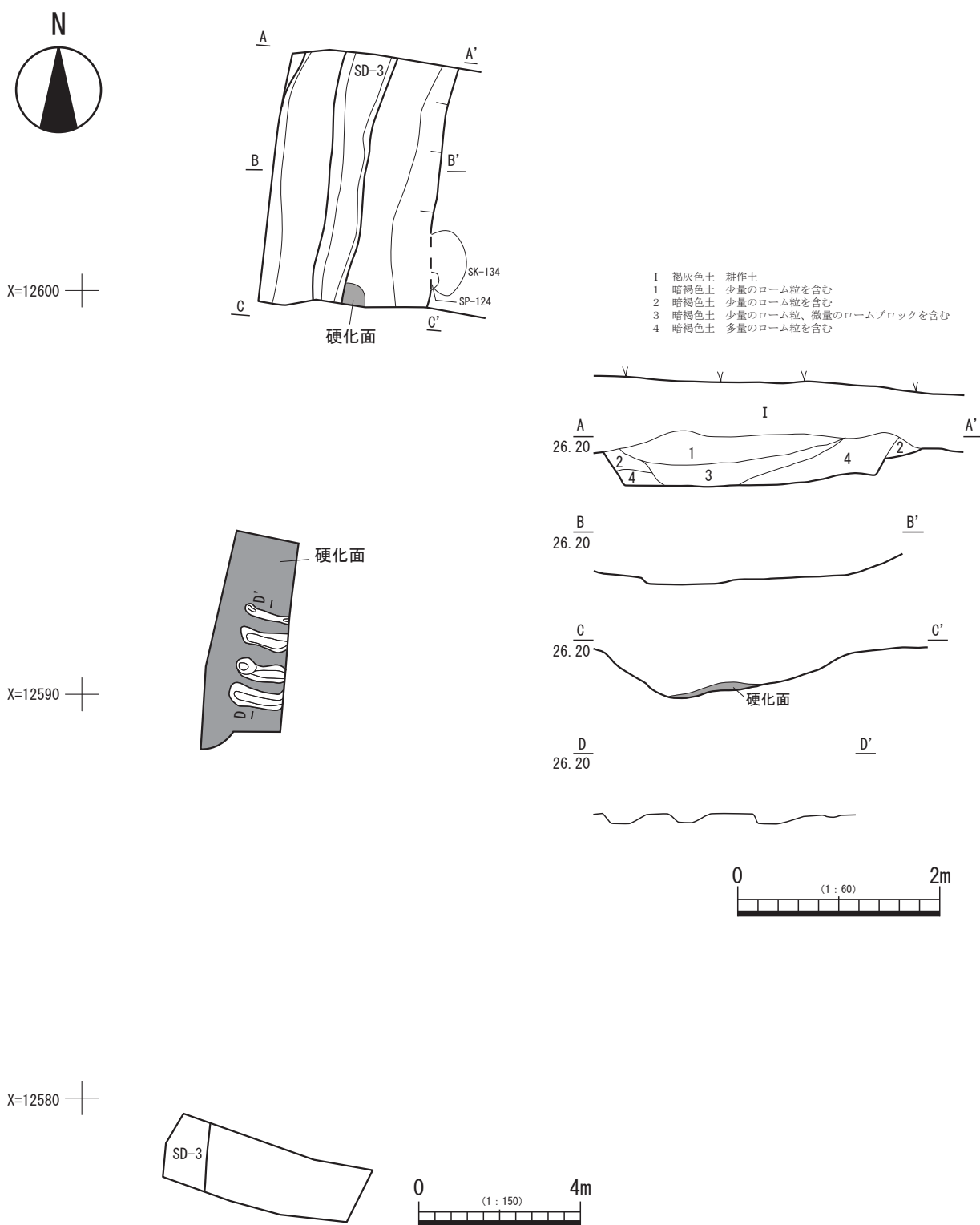


第37図 第1号溝

第3号溝 (SD-3) (第38図)

位置 中央区西側、3ヶ所のトレンチにまたがる。南端・北端とも調査区外に延びる。第87・88・91・93・134号土坑、第9・123・124号ピットと重複し、本遺構が最も新しい。**規模** 推定全長約28m、幅約4m、南北方向に伸びる。深さは約35～55cmを測る。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。硬化面が北側のトレンチ南端の一部と中央のトレンチ全面から確認された。中央のトレンチからは道と直交する方向に細い溝が4条掘られており、長さ1.35～1.15m、幅11～55cm、深さ3～10cmを測

る。長軸方向 N - 10° - E 覆土 4層は多量のローム粒を含み、埋め戻し土と思われる。出土遺物 土器片。所見 硬化面および波板状圧痕が確認されたことから、道路遺構と考えられる。当初幅約4mの溝として利用され、後に幅約2mほど道路として再利用されたと考えられる。本遺構の時期は中世と考えられる。



第38図 第3号溝

8 不明遺構

井戸として検出されたものの、大きな掘り込みを伴うもの3基については、不明遺構とした。

第1号不明遺構 (旧S E - 6) (第39図)

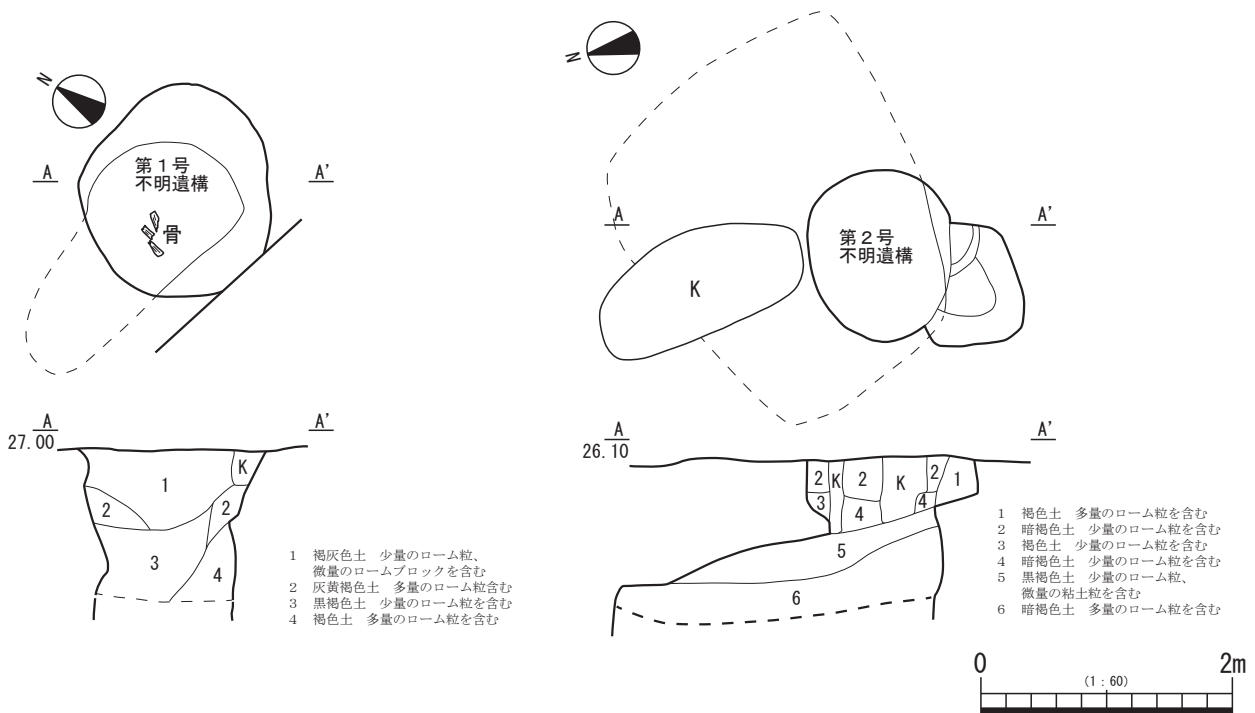
位置 西区の西側、南壁に少しかかって検出された。**規模** 平面形は、径約1.7mの不整形円形を呈する。開口部から深さ60～90cm付近で多少くびれる。底部にむけ、西側に大きく張り出し、楕円形を呈するようである。深さは約1.2mまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 崩落による自然堆積と人為的な埋め戻しと思われる。**出土遺物** 骨片。縄文土器片。**所見** 中世か。

第2号不明遺構 (旧S E - 9) (第39図)

位置 中央区の中央に位置する。**規模** 平面形は、長径約190cm、短径約85cmで、円形2つが重なったような形を呈している。開口部から深さ45cm付近でくびれ、底面に向かい北側に大きく偏って掘り込まれるようである。深さは約120cmまで確認したが、それ以下は未完掘である。確認できた最底面は、約2m×約2.7mの隅丸方形を呈している。**主軸方向** 不明。**覆土** 自然堆積か。**出土遺物** 古瀬戸灰釉深皿類1点(第52図9)。**所見** 地下式坑の可能性が考えられる。出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。

第3号不明遺構 (旧S E - 10) (第35図)

位置 中央区の東側、標高25.6m付近に位置する。第5号井戸と重複しており、本遺構の方が古い。**規模** 平面形は、直径約1mの円形を呈する。開口部から深さ40cm付近で北側に大きく張り出す。深さは約90cmまで確認したが、それ以下は未完掘である。**主軸方向** 不明。**覆土** 多量のローム粒を含むが、詳細は不明である。**出土遺物** 土師質土器片2点。**所見** 地下式坑の可能性が考えられる。出土遺物から本遺構の時期は中世と考えられる。



第39図 第1,2号不明遺構

第3節 出土遺物

1 縄文土器

神立遺跡（第2次）で出土した縄文土器は膨大であり、おおむね縄文時代中期後半に帰属する。本報告で図示できたのはそのうちのごく一部であるが、型式学的特徴と一括出土状況から3段階に区分し、段階ごとにその特徴を記載する。

阿玉台Ⅲ式段階（第40～42図）

隆帯に沿って幅広の角押文や爪形文が施される阿玉台Ⅲ式と、それに平行する勝坂式（藤内式）の影響を受けた土器をこの段階に含めた。良好な一括資料としてはSK-65がある。

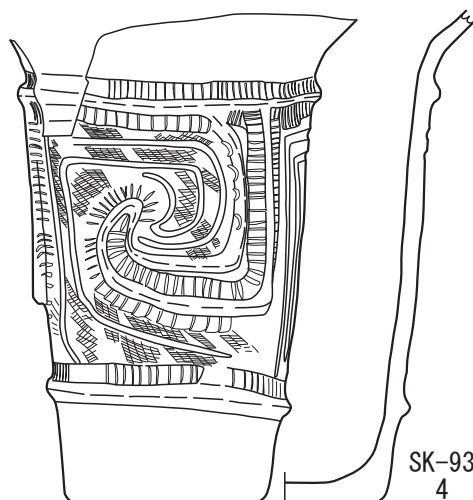
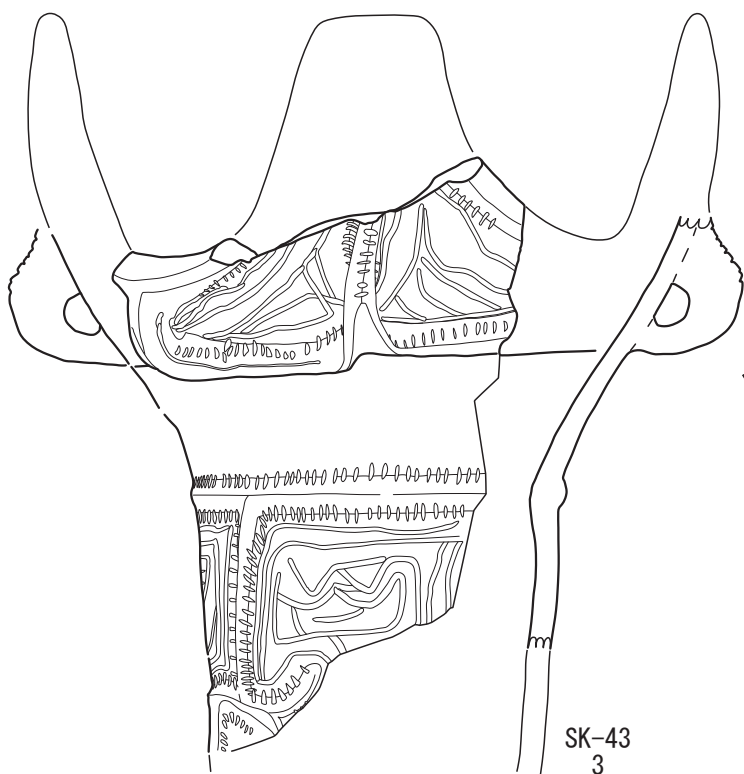
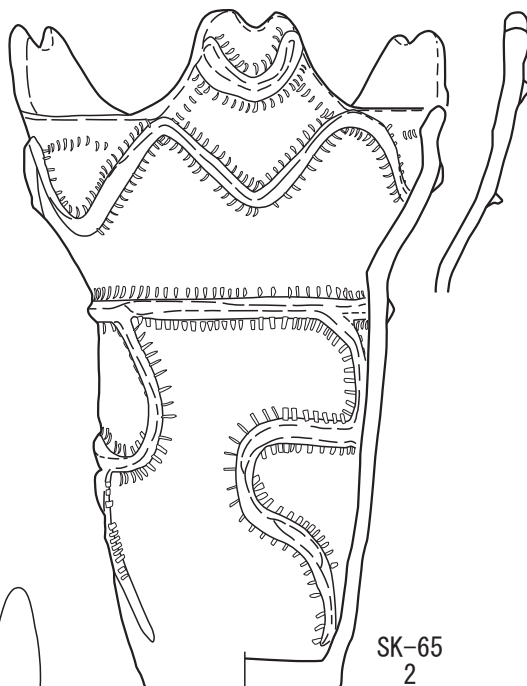
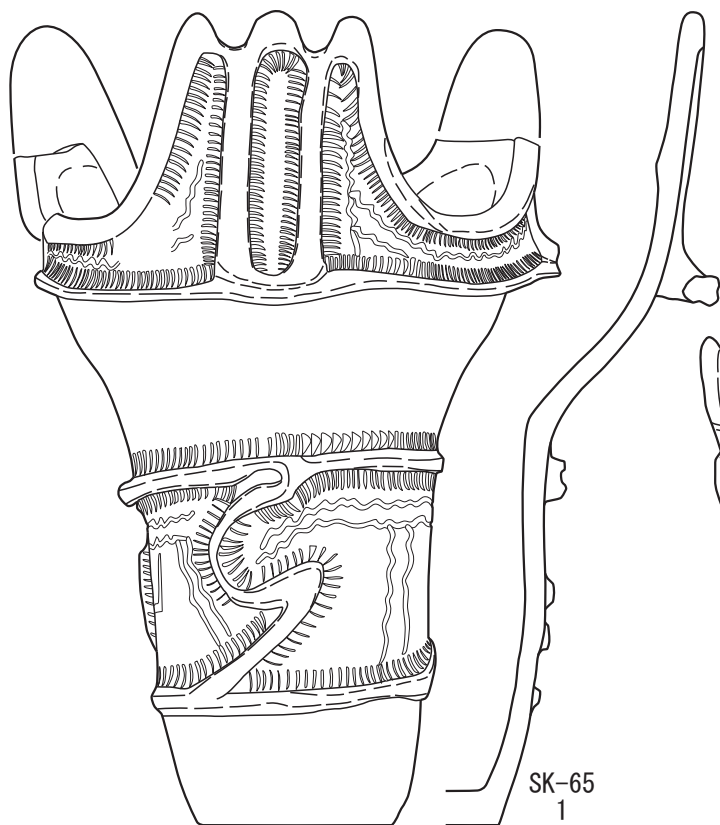
1～3は3単位の波状口縁をもち、胴部に隆帯によるS字文などが施される典型的な阿玉台Ⅲ式の深鉢である。4は口縁部を欠くが、胴部に角ばった渦巻の隆帯が施され、地文に無節Rの縄文が施される。5は平縁で地文に櫛描文が施される深鉢。口縁部文様帯に楕円形の区画と円文が施されており、藤内式の影響を受けたものであろうか。6は口縁部に、指頭押圧の見られる2段の隆帯が施される土器で、地文は櫛描文である。7、8は阿玉台式を通して認められるY字状隆帯が施される土器である。7は地文が櫛描文で、隆帯に沿った爪形文がみられる。8は地文が縦位の無節Rで、胴部に隆帯による渦巻文が施される。9は勝坂式の影響を受けた樽形の器形で、沈線による渦巻文の間に爪形文が充填される。口縁部には勝坂式によくみられる、穴が片方にひとつ、もう片方にふたつ開けられた把手が付けられる。10は波状口縁をもつ平底の鉢で、隆帯による円文などが施される。11も同様に隆帯による渦巻文が施されるもので、勝坂式の影響を受けたものであろうか。12は地文櫛描文のみの深鉢。13、14は無文の深鉢で、器形からこの段階と考えた。

阿玉台Ⅳ式～加曽利E1式（古）段階（第43～47図）

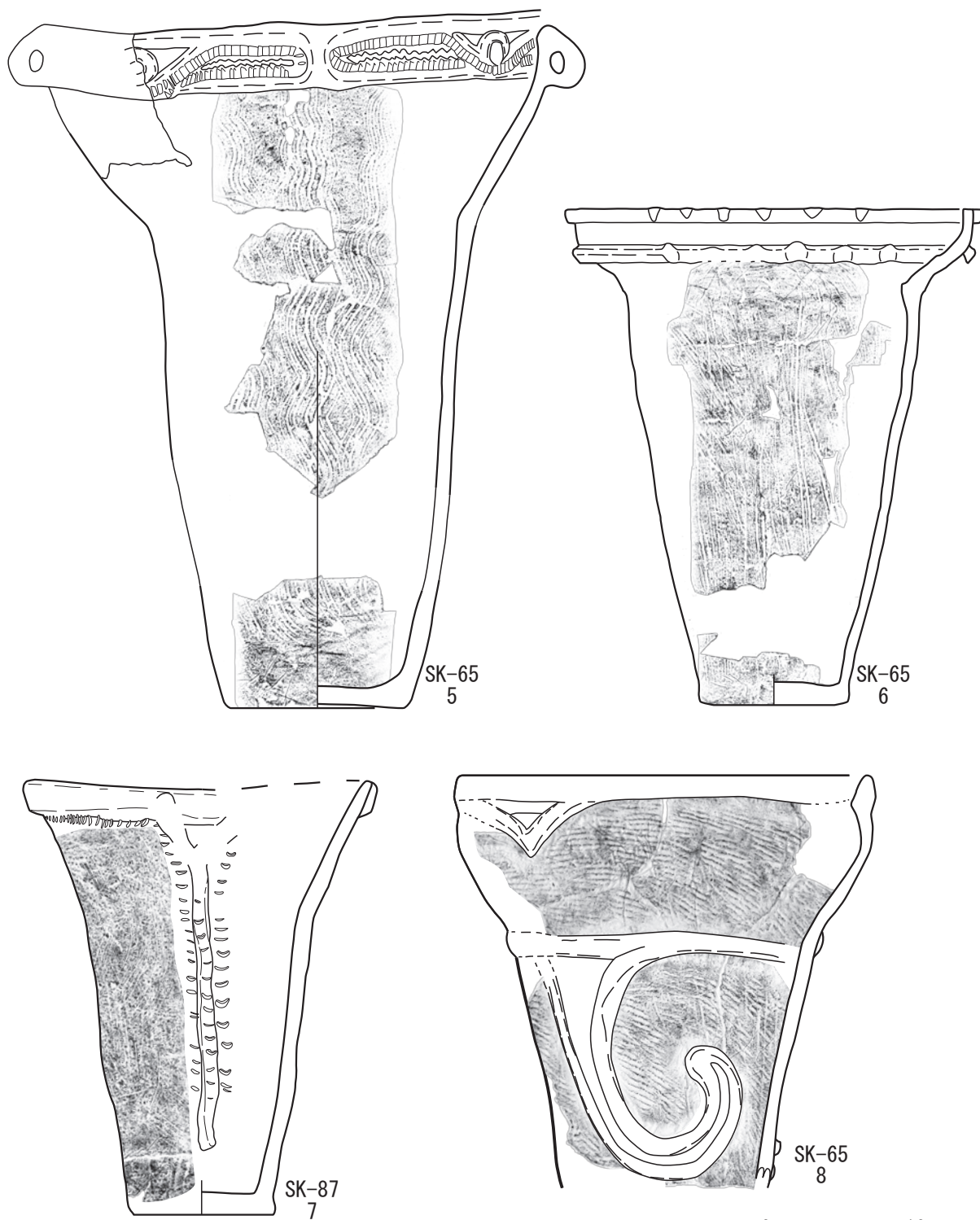
隆帯に沿った角押文がみられなくなり、縄文が多用される阿玉台Ⅳ式から、キャリパー形の器形で隆帯によるクランク文が施される加曽利E1式古段階までを一括した。また、これに平行する勝坂式（井戸尻式）、大木8a式の影響を受けた土器もここに含めた。型式学的には細分が可能であろうが、SK-98で井戸尻式と加曽利E1式（古）が一括して出土していることからまとめて取り扱う。主な一括資料としてはSK-25、SK-98、SK-96などがある。

15～17は阿玉台Ⅳ式と考えられる土器である。15はY字状隆帯の施される深鉢で、器形と地文縄文からこの段階と考えた。16は胴部中央に水平に隆帯がめぐり、そこから4本の直線、1本の蛇行線の計5単位の隆帯が垂下する。地文は縦位の無節Lである。17は口縁部にS字状隆帯が施される。18～20は縄文のみが施される深鉢で、SK-96の出土事例からこの段階に含めたが、他の時期の可能性も残る。21は無文で口縁部がやや肥厚し、三単位の小波状を呈する。

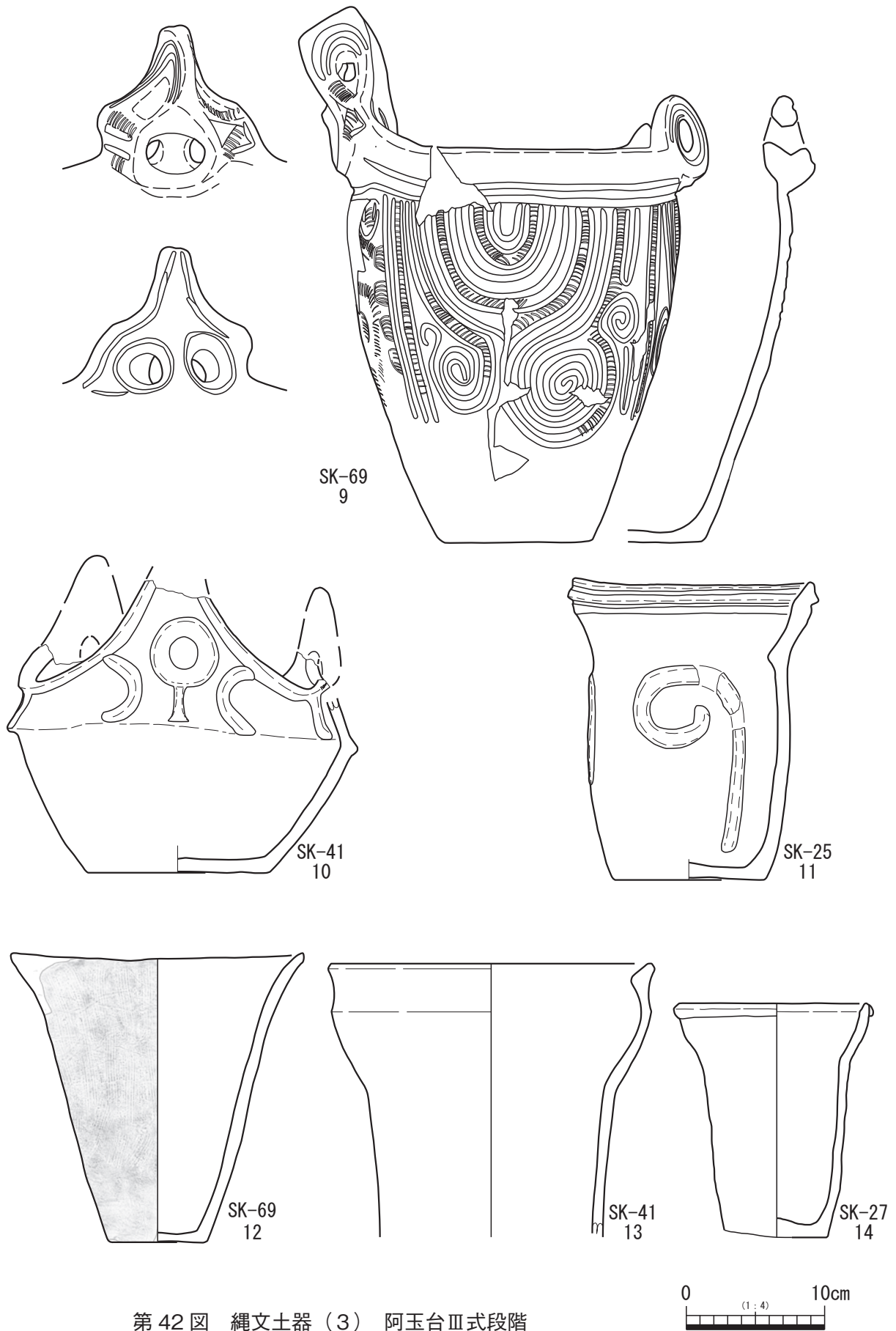
22～26は刻みのある隆帯による渦巻文や沈線による三叉文、屈折底などがみられる井戸尻式併行の土器である。胎土は他の土器と変わらず雲母を多量に含んでいることから、在地で製作されたものと考えられる。22は4単位の把手がつけられ、刻みをもつ隆帯で円形やU字状の区画を施し、その中に三叉文や角押文を充填している。23は胴部に横S字状の隆帯と三叉文、その下に楕円形区画文が施される。24は口縁部文様帯の残りが悪いが、22や25と同様の深鉢であろう。25はおそらく4単位の把手がつけられ、複雑な区画文を縦位の沈線で充填する。胴部には楕円形区画文が施される。26は2



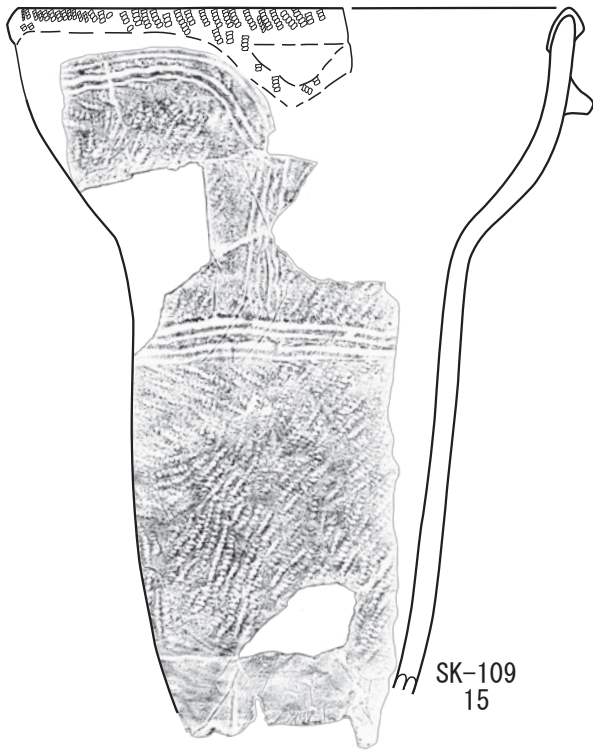
第40図 縄文土器(1) 阿玉台Ⅲ式段階



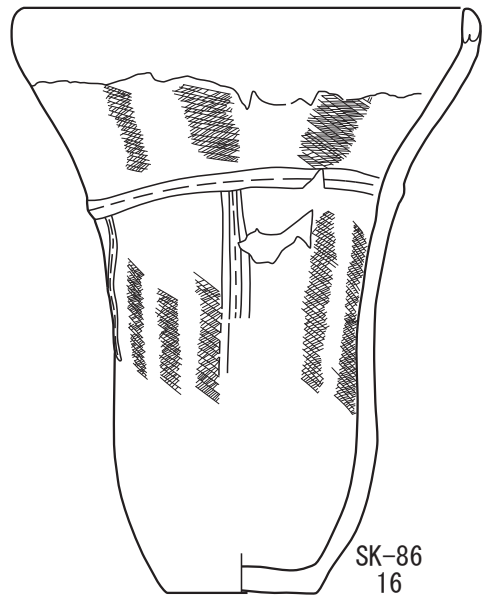
第 41 図 縄文土器 (2) 阿玉台Ⅲ式段階



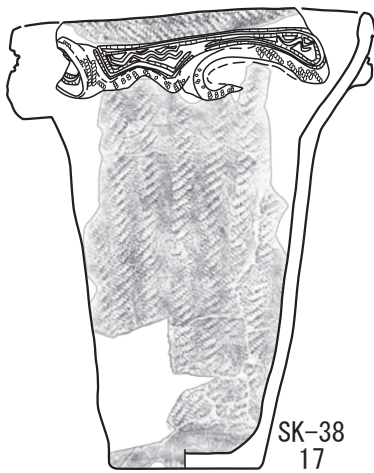
第 42 図 縄文土器 (3) 阿玉台Ⅲ式段階



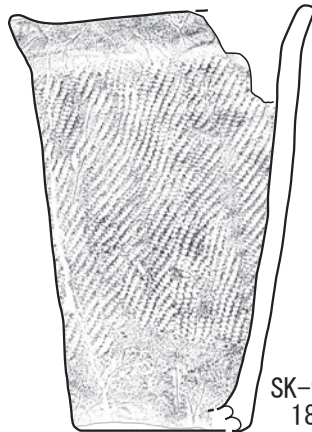
SK-109
15



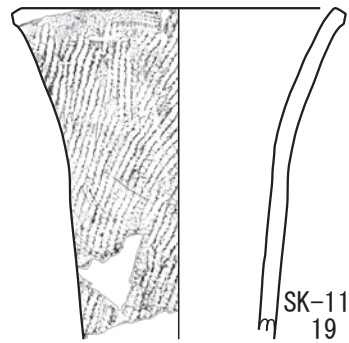
SK-86
16



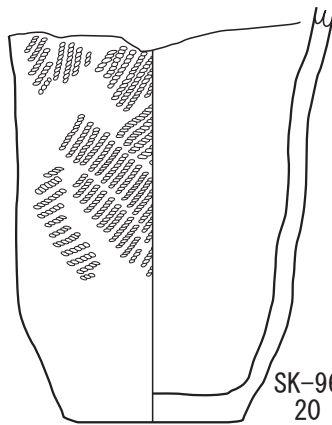
SK-38
17



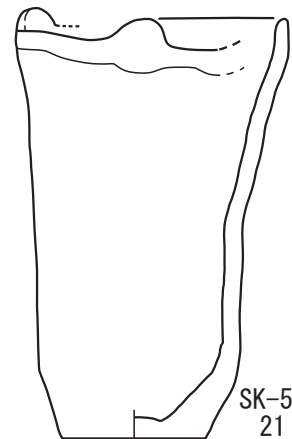
SK-96
18



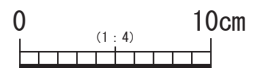
SK-110
19



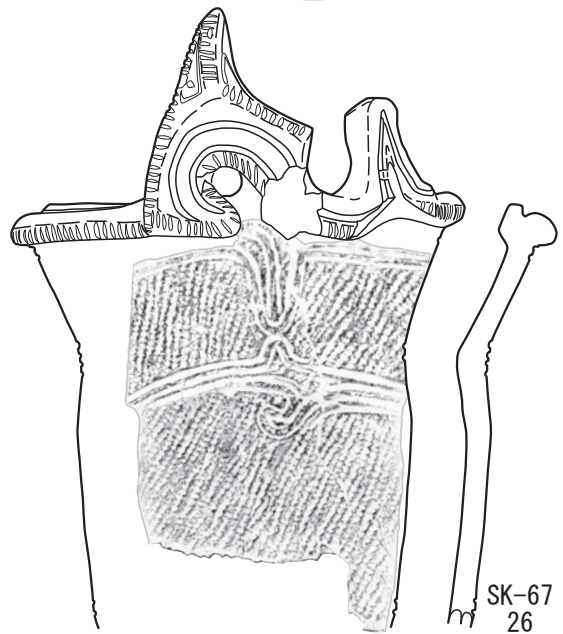
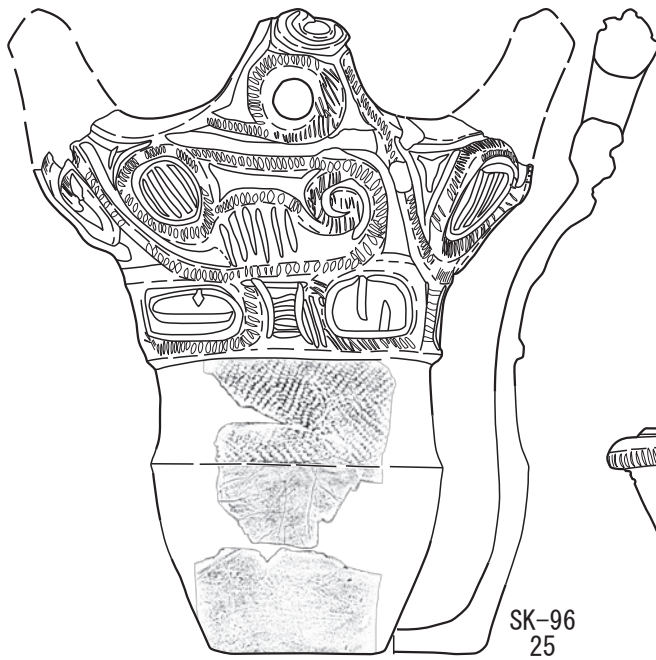
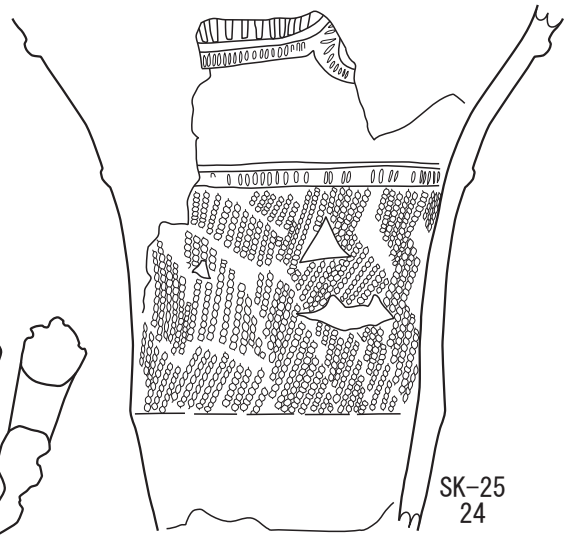
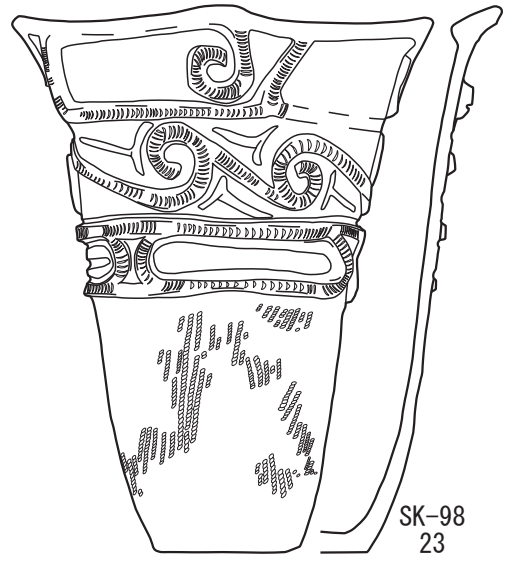
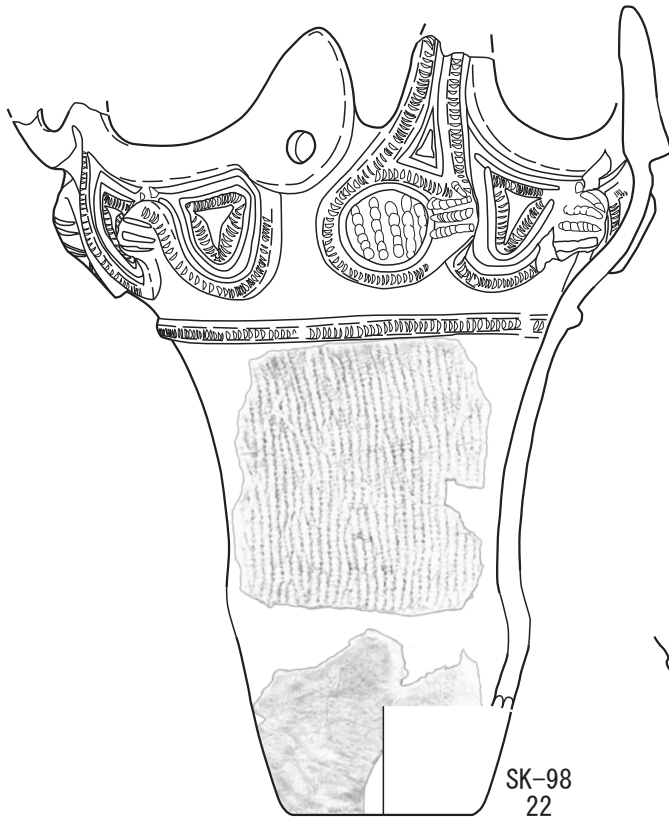
SK-96
20



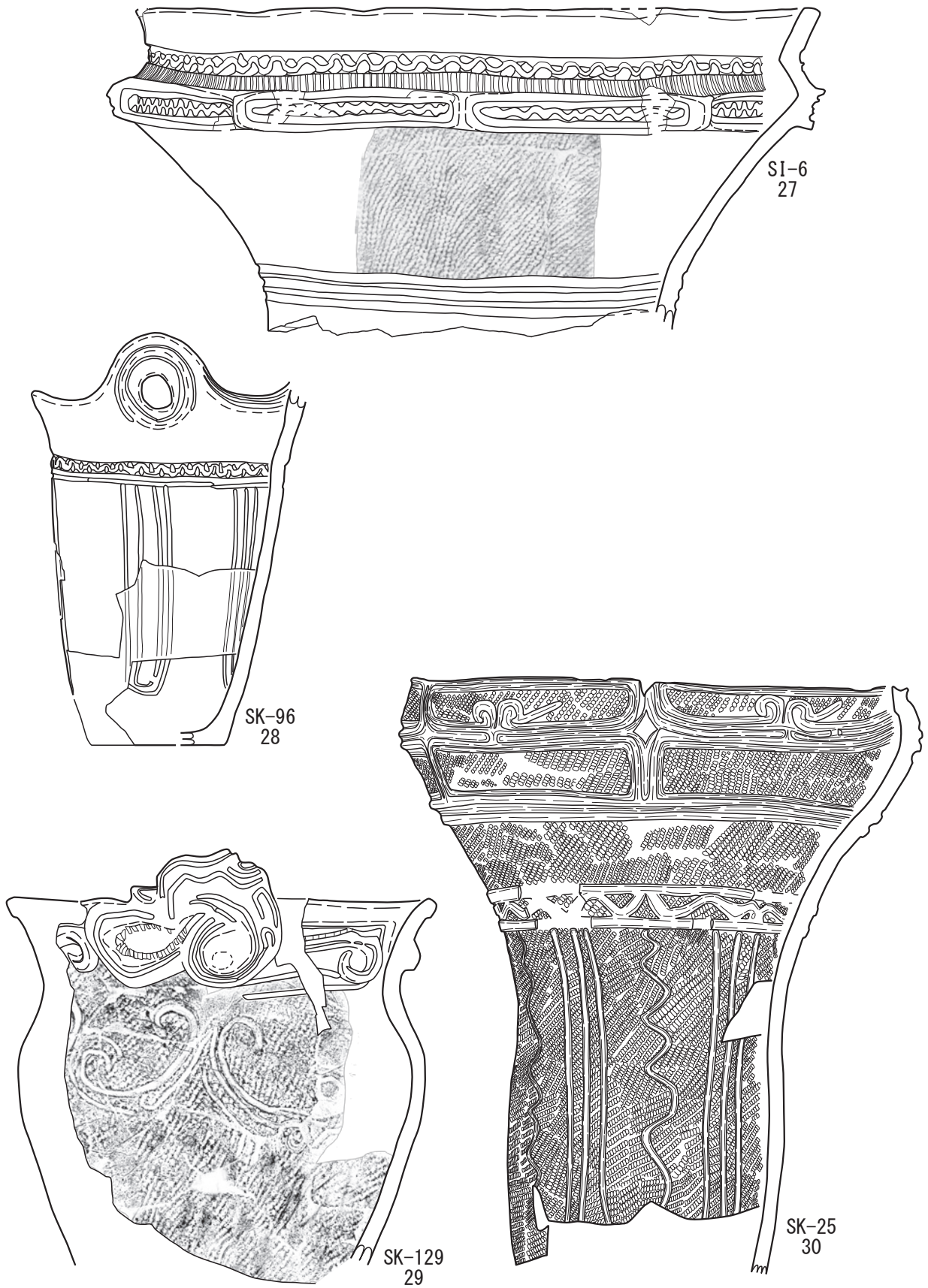
SK-53
21



第 43 図 縄文土器 (4) 阿玉台Ⅳ式～加曾利 E1 式古段階

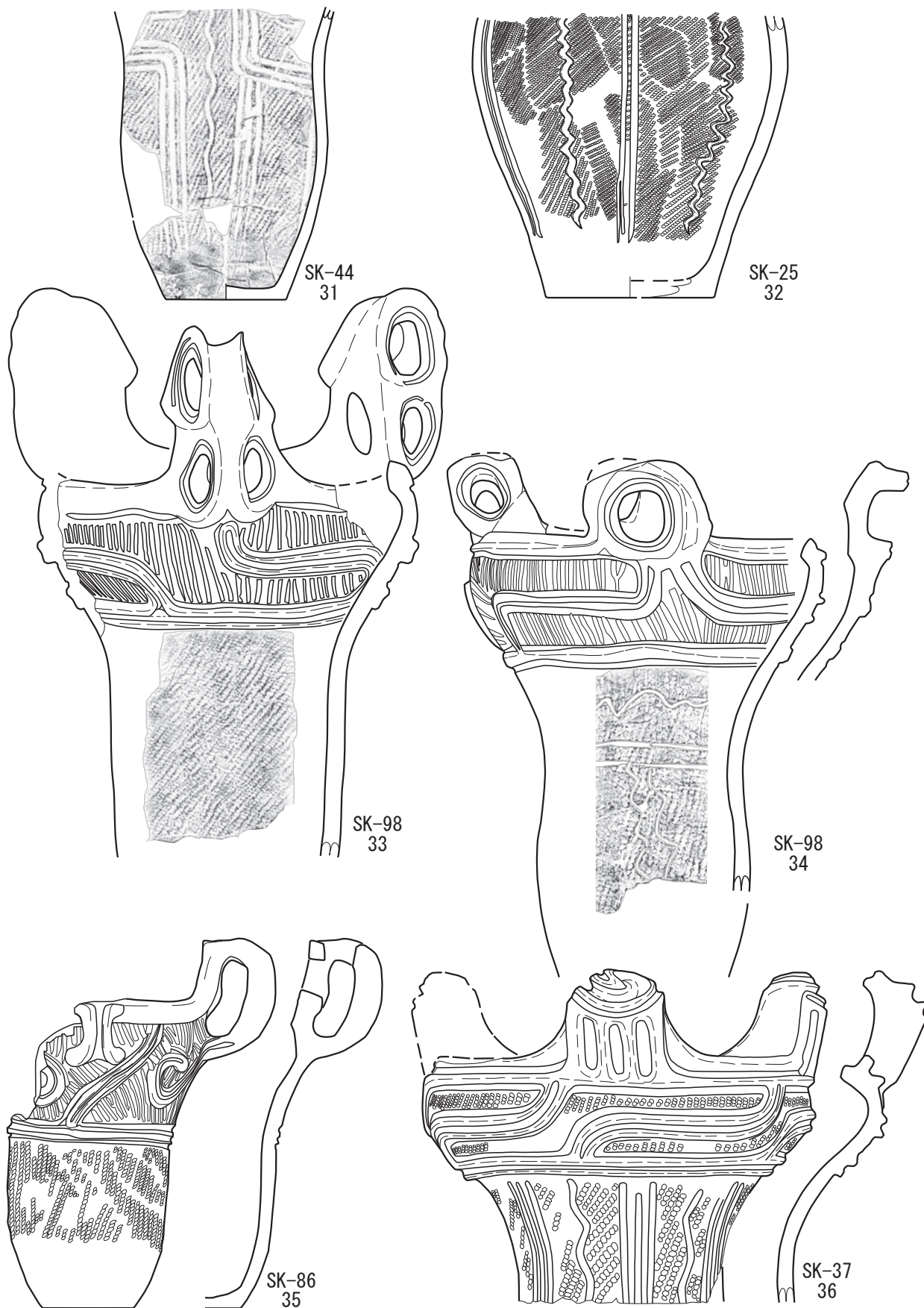


第 44 図 縄文土器 (5) 阿玉台Ⅳ式～加曾利 E1 式古段階

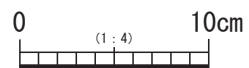


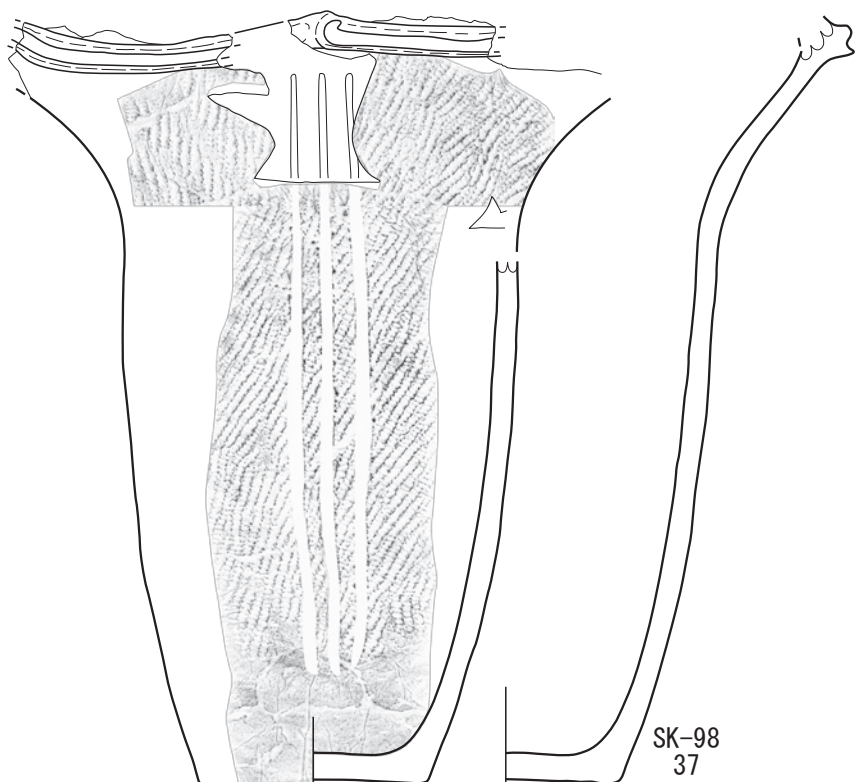
第 45 図 縄文土器 (6) 阿玉台Ⅳ式～加曾利 E1 式古段階

0 10cm
(1 : 4)

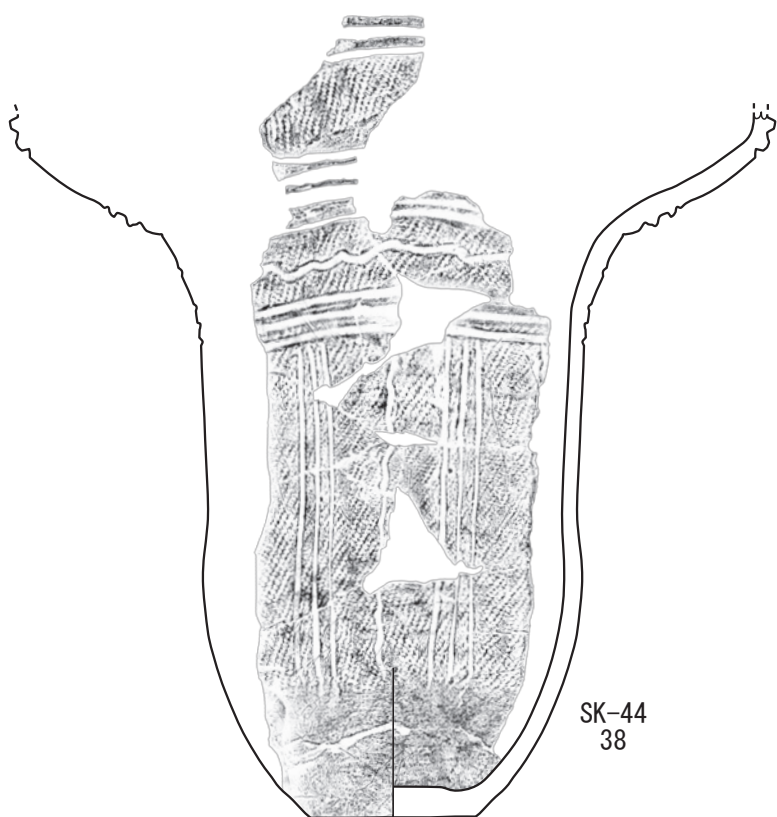


第 46 図 縄文土器 (7) 阿玉台 IV 式 ~ 加曾利 E1 式 古段階



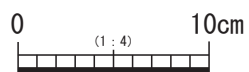


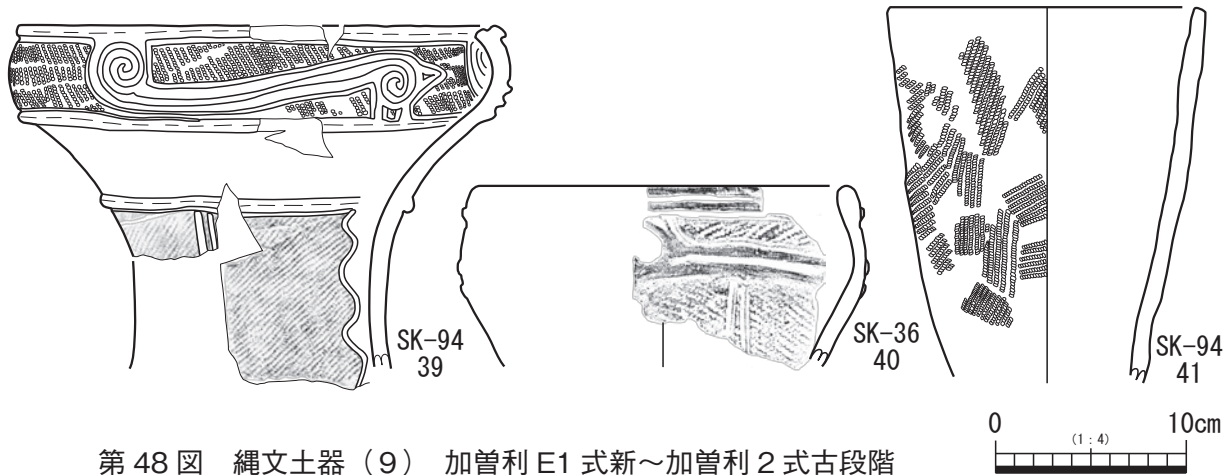
SK-98
37



SK-44
38

第 47 図 縄文土器 (8) 阿玉台 IV 式 ~ 加曾利 E1 式 古段階





第48図 縄文土器(9) 加曽利E1式新～加曽利E2式古段階

単位の把手が施される平縁の深鉢で、口縁部把手の隆帯の流れを引き継ぐように胴部の沈線が施されている。27、28は交互刺突文の施される中峠式。27は第6号竪穴建物の埋甕で、大型の深鉢の口縁部である。口縁部文様帯は上位から無文帯、交互刺突文、縦位の沈線、楕円形区画に波状の沈線となる。28は孔のある波状口縁をもち、胴部に交互刺突文、垂下する沈線が施される。29は口縁部に隆帯によって不整な渦巻きや横S字文が施され、胴部には唐草様の沈線が施される。大木8a式と考えられるが、胎土には雲母が認められ在地で製作されたものであろう。30はキャリパー形の器形で、口縁部文様帯には隆帯による十字文、「B」の字を横にして終点をハネたような文様が施される。胴部には隆帯による波線が貼り付けられ、沈線によって3本の直線と1本の波線が垂下する。胎土には雲母が含まれており、大木8a式～8b式と加曽利E1式の折衷といった様相である。31、32は胴～底部破片で、垂下する沈線から阿玉台IV～加曽利E1式であろう。

33～38は加曽利E1式の古段階である。33、34はともに3単位の把手、隆帯によるクランク文と、その隙間を充填する縦位の沈線が施される。35は横S字状の口縁部文様が施される小ぶりの土器で、把手は2または4単位と思われる。36は3単位の大振り把手が付けられ、口縁部にはクランク文が認められる。37、38は口縁部を欠くが、隆帯による施文と胴部の沈線の構成から加曽利E1式古段階の範疇であろう。

加曽利E1新～E2式古段階(第48図)

キャリパー形深鉢の口縁部文様帯が狭くなり、モチーフも渦巻きや円となる段階である。胴部に明確な磨消縄文が認められる土器は少ない。39は横位に連結する渦巻き文が施され、大木8b式に見られる剣先状の文様もみられる。頸部は無文帯となる。40は渦巻文あるいは円文が施される。41は地文縄文のみの土器であるが、39と共伴することからこの段階とした。

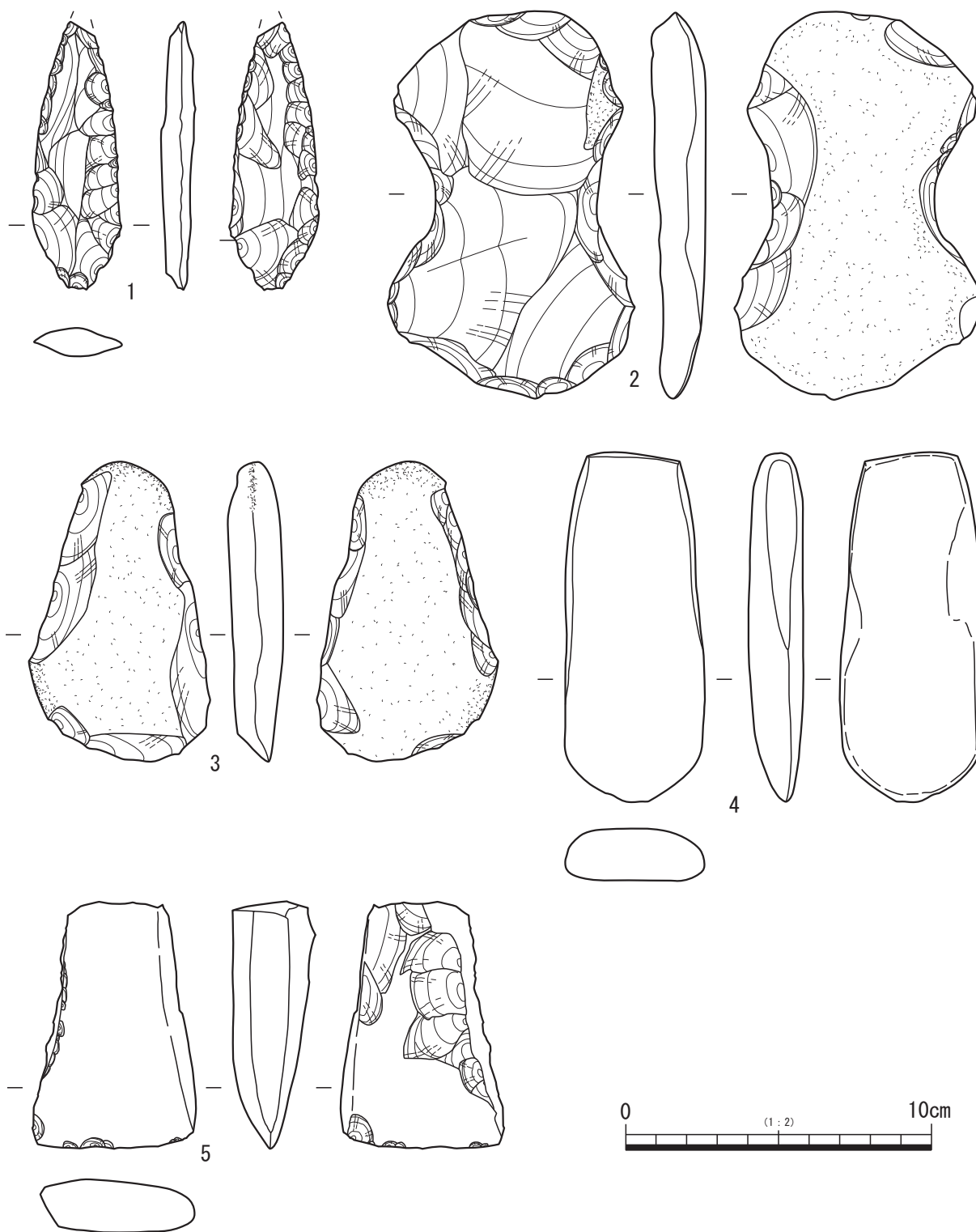
2 石製品

神立遺跡からは旧石器時代～中世にかけての石器、石造物が出土している。ここでは縄文時代までの石製遺物について記載する。

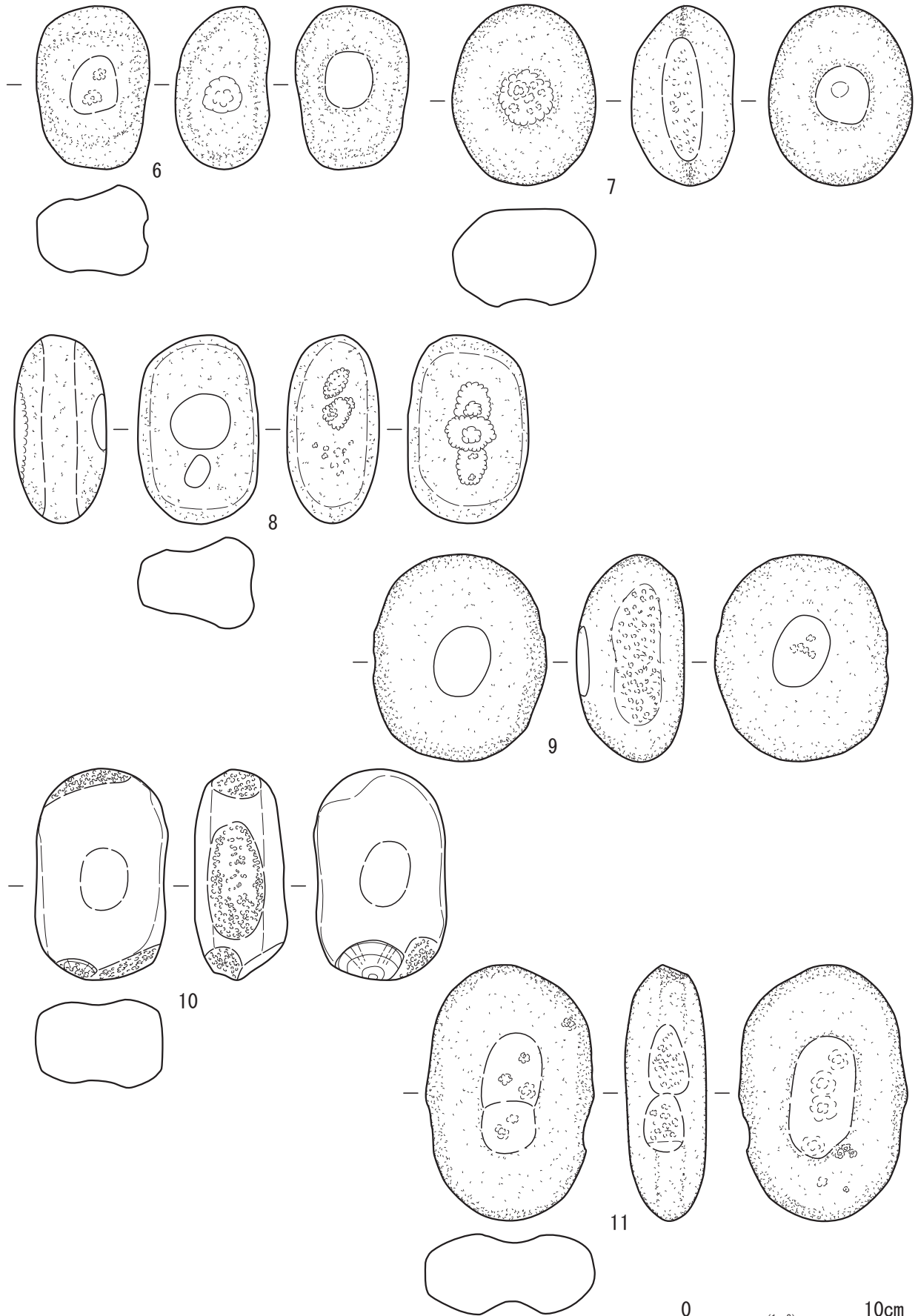
1はガラス質黒色安山岩製の木葉形尖頭器で、旧石器時代のものである。2～14は縄文時代の遺物である。2は撥型を呈する打製石斧。3は打製石斧または磨製石斧の未成品。4は緑泥片岩製の磨製石斧で、搬入品であろう。5は破損した磨製石斧をリタッチしたもので、実測図左側面を敲打により整えている途中で廃棄されたと思われる。6は安山岩製の敲石で、表裏面、右側面を敲打面として使用している。7～12は磨石・敲石で、10のみ花崗岩製で、その他は安山岩製である。7、9～12はいずれも表裏面と側面を敲打面として使用し、表裏の平坦面は磨面として使用されている。8は6同様に断面が台形を呈する磨石・敲石で、表裏面、右側面を敲打面として使用し、表裏の平坦面は磨面としても利用されている。13、14は同一個体ではないが、ともに大型の石棒である。敲打ののち、丁寧な磨きによって整形されている。13は断面楕円形を呈し、制作時の敲打のほかに、石皿などと同様の凹みが認められる。14は断面真円形を呈し、使用痕は見られなかった。このほか、図示していないが黒曜石製の剥片や、安山岩製の石皿破片などが出土している。

第4表 石製品観察表

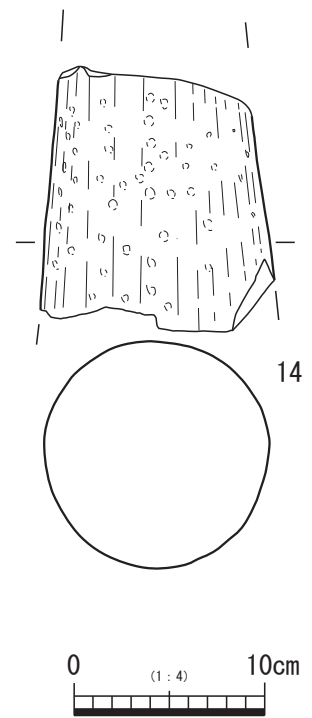
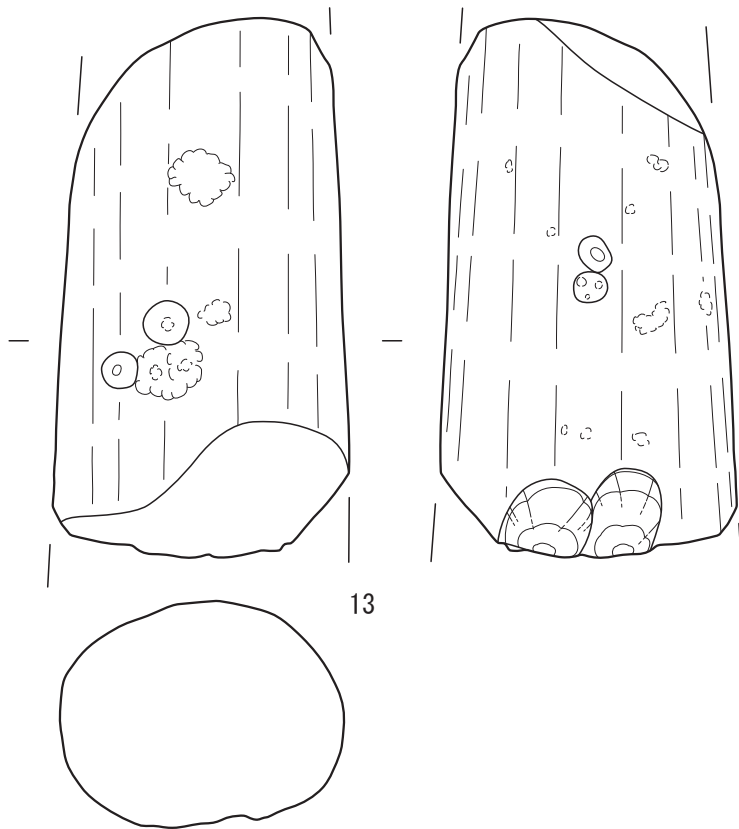
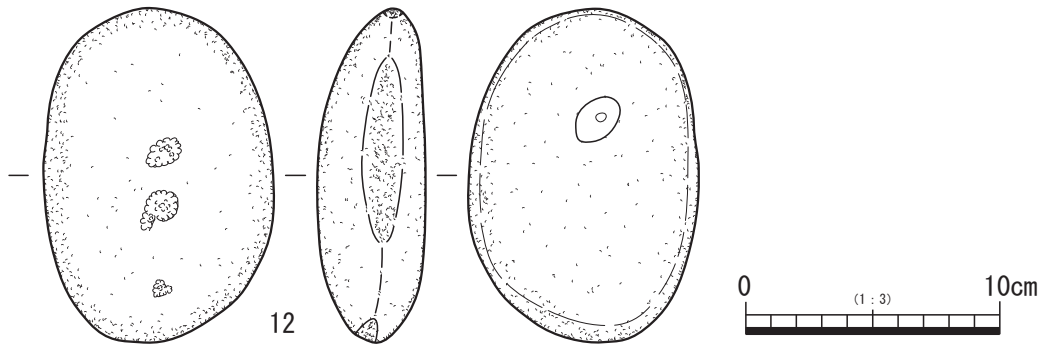
No.	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	出土遺構	石材
1	石槍	87	29	9	28.6	第1号不明遺構 (旧 SE-6)	ガラス質黒色安山岩
2	打製石斧	126	79	17	207.4	SX-10	安山岩
3	打製石斧	96	58	19	130.7	SP-54	雲母片岩
4	磨製石斧	114	44	16	169.5	SK-40	緑泥片岩
5	磨製石斧	81	51	27	141.5	SK-93	安山岩
6	敲石	88	60	50	340.5	SK-94	安山岩
7	磨石・敲石	96	75	53	532.0	SK-64	安山岩
8	磨石・敲石	101	63	49	419.9	第3号不明遺構 (旧 SE-10)	安山岩
9	磨石・敲石	111	93	53	767.3	SK-109	安山岩
10	磨石・敲石	111	68	46	582.0	SK-33	花崗岩
11	磨石・敲石	135	88	43	714.7	SK-77	安山岩
12	磨石・敲石	134	90	43	757.9	SK-94	安山岩
13	石棒	277	154	123	7600	SK-96	安山岩
14	石棒	142	123	122	2680	SD-2	安山岩



第 49 図 石製品 (1)



第 50 図 石製品 (2)



第51図 石製品(3)

2 中世遺物 (第 52 図、第 5・6 表)

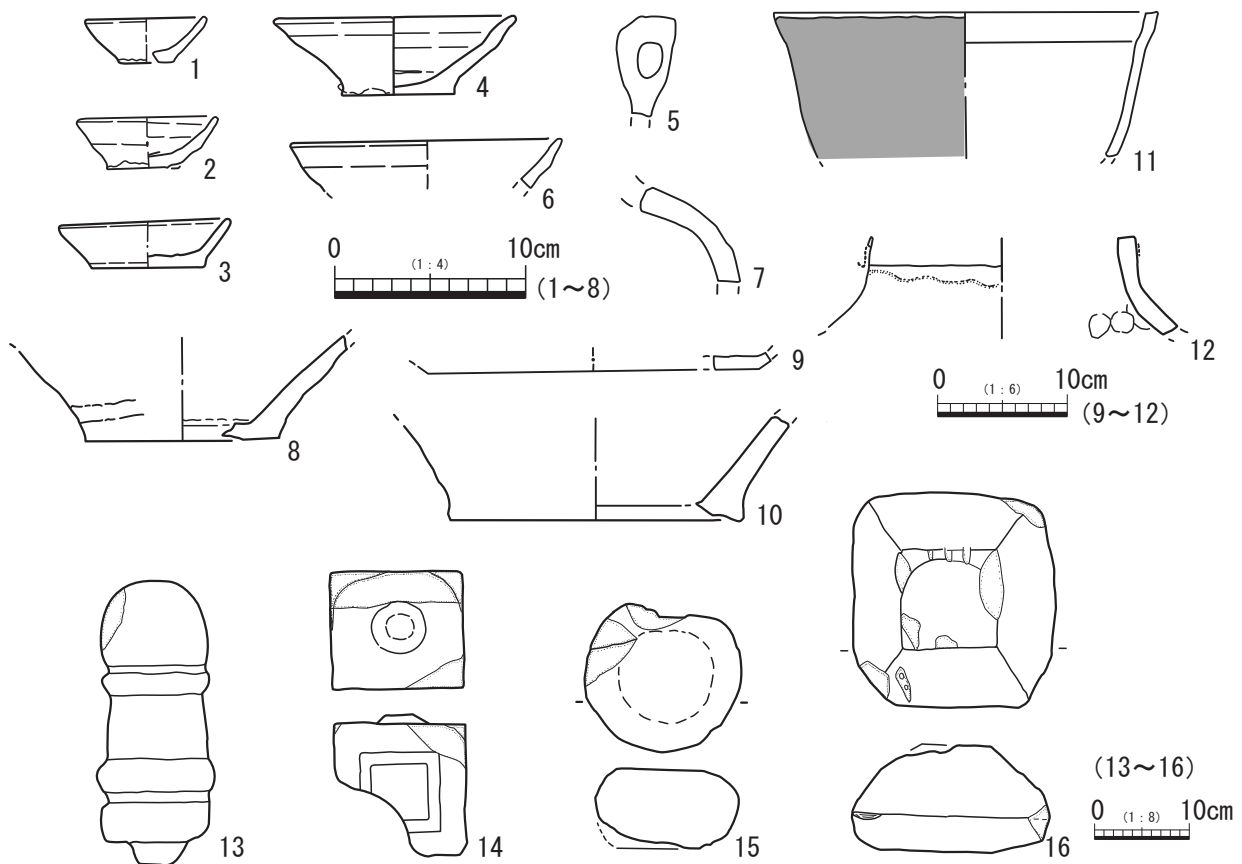
ここでは神立遺跡の中世の出土遺物を報告する。図版には報告に耐え得る残存状況の出土資料をできるだけ網羅して報告対象としたが、第 1 次調査の状況と比較すると出土遺物の数は非常に少ないといえる。

中世遺物が出土した遺構の傾向については、土器・陶磁器は地下式坑の覆土からほとんどを占める。同様に石塔類は、地下式坑以外にも土坑や溝などの事例が含まれる。

出土遺物の年代については、良好な残存状況の資料が少ないため、明確にし得ない。大まかな傾向では、在地産の土器に器高の深い内耳鍋がみられるがすり鉢が無い点、国産陶器に古瀬戸後期製品と常滑の鉢が含まれる点は第 1 次調査での出土遺物の傾向と等しい。第 1 次調査の年代は 15 世紀前半から中葉とされたが、かわらけは形状がやや薄手で、丸底を含まない点が 1 次と異なる傾向と判じられる。

石塔では、宝篋印塔の塔身が二重圏線である点が古式を示す反面、五輪塔水輪が全体に潰れる点は退化傾向にある。宝篋印塔相輪部の九輪の刻みが無い点は珍しいが、年代が後出する要素と判じられる。

上記を踏まえると、今次調査の中世遺物に関しては 15 世紀中葉を中心にしながら 16 世紀代にかけて幅のある遺物群であると考えられる。



第 52 図 中世遺物

第5表 中世遺物（土器・陶磁器）観察表

No.	器種 器形	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法上の特徴	出土位置・残存率・ 備考
1	土師質土器 皿（ロクロ）	A: 6.2 B: 3.0 C: 2.3	長石・石英・ 雲母を中量含 む	良好	浅黄橙色	底部外面に右回転糸切痕。体部内 外面に横ナデ。内底面は一方向の ナデ。	東側北西区表土 25%
2	土師質土器 小皿（ロク ロ）	A: 7.4 B: 3.8 C: 2.6	赤色粒子・雲 母微量	良好	浅黄橙色から橙色	底部外面に右回転糸切痕。体部内 外面に横ナデ。内底面は一方向の ナデ。内底面にヘラ状工具による2 本の平行線。	SP-1 完形
3	土師質土器 皿（ロクロ）	A: 9.0 B: 5.6 C: 2.5	石英を中量含 む	不良	黒褐色（全体的に 被熱により黒く変 色）	底部外面に右回転糸切痕。切り離 し後ナデ成形。体部は斜め上方に 短く立ち上がる。体部内外面に横 ナデ。内底面は一方向のナデ。	SX-7 95%
4	土師質土器 皿（ロクロ）	A: 12.4 B: 5.8 C: 4.0	長石・石英・ 黒色粒子多 量。赤色粒子・ 白色粘土・雲 母微量	普通	橙色	底部外面に右回転糸切痕。体部内 外面に横ナデ。口縁部やや外反。 内底面の調整は摩耗により不明瞭。	SX-8 90%
5	土師質土器 内耳鍋	C: (5.2)	長石・石英・ 赤色粒子・雲 母多量	普通	外面：黒色 内面：橙色	耳のある口縁部片。体部外面は全 体的に煤が付着。外面口縁部付近 は横ナデ。口縁端部上面を面取り。	SX-5 上層 5%以下
6	古瀬戸灰釉 平碗	A: [14.0] C: (2.6)	良土	堅緻	釉：にぶい黄色 胎芯：浅黄色	口縁部片。内外面ともに施釉。体 部外面にロクロ目。	SK-147 B 区上層 5%以下 古瀬戸中期～後期
7	常滑甕	C: (4.7)	長石・石英・ 赤褐色粒子多 量	堅緻	外面：褐色 釉：灰オリーブ色 胎芯：褐灰色 内面：にぶい褐色	肩部片。外面上部に施釉。内面は 横ナデ。	SX-9 A 区上層 5%以下
8	常滑鉢Ⅱ類	B: [15.3] C: (7.9)	長石・石英 多量	普通	外面：褐色 胎芯：灰色 内面：灰黄褐色	体部下端から底部にかけての破片。 底部外面無調整。体部外面一部に 指ナデ。内面はヘラナデ。内底面 は摩耗。	SX-9 B 区上層 10%
9	古瀬戸灰釉 深皿類	B: [25.6] C: 1.2	良土	堅緻	釉：灰オリーブ色、 胎芯・外面：灰黄色	底部片。底部外面は回転ヘラ削り。 内面に施釉、外面は無釉。	第2号不明遺構 B 区上層 5%以下 古瀬戸中期～後Ⅰ期
10	常滑鉢Ⅱ類	B: [15.0] C: (5.3)	長石・石英 多量	普通	外面：褐色 胎芯：灰色内面： 灰黄褐色	体部下端から底部にかけての破片。 底部外面は回転ヘラ削り。内面は ヘラナデ。	SX-9 A 区上層 5%以下
11	土師質土器 内耳鍋	A: [29.6] C: (11.0)	雲母多量 長石・石英 少量	普通	外面：黒色 内面：褐色	口縁部から体部にかけての破片。 体部外面は全体的に煤が付着。口 縁端部上端はやや凹む。体部内面 上部に稜をもつ。体部内外面とも に横ナデ。	SX-7 上層 10%
12	常滑甕	C: (7.7)	長石・石英 多量 雲母微量	堅緻	外面：褐色、 釉：淡黄色、 胎芯：黄灰色、内面： にぶい赤褐色	頸部から肩部にかけての破片。内 外面に横ナデ。内面に指頭痕。	SX-9 A 区上層 5%以下

第6表 中世遺物（石製品）観察表

No.	種別	法量 (cm)	石材	色調	器形・技法上の特徴	出土位置・残存率・ 備考
13	石造宝篋印 塔相輪部	縦: (39.9) 横: 16.7	花崗岩	にぶい 黄橙色	表面はやや風化。下端にはホゾが突出。九輪の刻みが 無い。	SD-2 90%
14	石造宝篋印 塔塔身部	縦: 19.9 横: 18.5 高: 16.5	花崗岩	灰黄色	表面は風化が激しい。上面にホゾが突出。側面に格狭 間。一部隅部欠損。	SX-5 60%
15	石造五輪塔 水輪	縦: (18.0) 横: 22.0 高: 11.0	花崗岩	灰白色	表面はやや風化。断面は扁平な長円形を呈す。	SX-6 90%
16	石造五輪塔 火輪	縦: 31.1 横: 28.5 高: 15.0	花崗岩	にぶい 黄橙色	表面はやや風化。軒端は厚く、上反しない。	SK-28 90%

第4章 まとめ

神立遺跡第2次調査は、第1次調査区の西側に位置し、遺跡範囲中央の広い範囲を占める。第2次調査では、縄文時代の竪穴建物5軒、土坑114基、屋外炉3基、ピット134基、中世の土坑19基、ピット3基、地下式坑6基、井戸跡9基、溝3条、不明遺構3基が発見された。井戸跡および溝の検出は初めてである。

時代ごとの遺構分布をみると、縄文時代の遺構は東-2区、西区東側に集中しており、中世の遺構は中央区に集中している。中央窪地にあたる中央区東側、東-2区の一部はほとんどが中世の遺構であり、縄文は少ない。これは、縄文時代には中央窪地を取り巻くような環状集落を呈していたことが再確認されたとともに、中央窪地には主に中世の痕跡が強く残ることが明らかとなった。窪地は試掘確認調査からローム層が検出されず、何らかの要因によってローム層が堆積しなかったか、浸食あるいは掘削されたことがわかっている。以下、各時代の調査成果について触れる。

縄文時代

神立遺跡のこれまでの試掘確認調査や道路拡幅の立会、第1次調査で出土した縄文土器は、いずれも縄文時代中期で五領ヶ台式から加曽利E2式に及ぶ。道路拡幅の工事立会では、阿玉台Ⅲ・Ⅳ式から加曽利E1式の土坑5基が検出されている（上高津貝塚ふるさと歴史の広場編2007）。第1次調査では、加曽利E2式を中心とする竪穴建物や土坑が検出された（上高津貝塚ふるさと歴史の広場編2018）。また、どちらの調査においても、土坑から小規模な貝層が検出されている。ハマグリを主体として、サルボウやシオフキ、オキシジミ、アサリなどが出土している。神立遺跡にほど近い坪内貝塚における試掘確認調査においても、ハマグリを主体とした貝ピットが検出されているが、今回の神立遺跡第2次調査では貝層の検出はなかった。土浦市内の縄文時代中期においてはまとまった貝層が見つかる事例が少ないものの、境川の支谷においては貝類採集に適した場が少なからず存在したと考えられる。

今回の調査では、縄文時代中期後半阿玉台Ⅲ式～加曽利E1式を中心とする遺構が検出された。土坑はほとんどがこの時期と考えられ、見つかった土坑114基のうち、明瞭にフラスコ状を呈した土坑は33基であった。竪穴建物5軒のうち、3軒は縄文時代中期後半と考えられるが、第5・7号竪穴建物については阿玉台Ⅰ～Ⅱ式の中期前半にさかのぼることがわかった。和台遺跡からもこの時期の土器が出土しているが、市内では事例が少ない。第6号竪穴建物から出土した埋甕は、口径が約48cmにもおよぶ大型の土器で、胴部上半で割られている。住居の柱を抜き取ったあとすぐそばに正位置で埋納されたものと考えられる。同時期の峰崎遺跡からも見つまっているように、土器を使用した墓と考えられるが、土器内はローム粒が多量に確認されたほか出土遺物はなかった。

今回の調査によって、遺跡範囲全体に集落が展開しており、中央部は土坑が密集していることが確認された。神立遺跡は縄文時代中期を通して、中央窪地を取り巻くような環状集落を呈していたと考えられる。

中世

検出された遺構は、土坑 19 基、ピット 3 基、地下式坑 6 基、井戸跡 9 基、溝 3 条、不明遺構 3 基である。遺物のほとんどが地下式坑出土である。第 1 次調査と比較すると、遺構・遺物ともに非常に少ない。第 1 次調査の年代は 15 世紀前半から中葉とされたが、今回の調査では、遺物の年代幅が広く、15 世紀中葉を中心に、16 世紀代におよぶものと考えられる。第 3 号溝については、道路遺構として再利用されたと考えられ、現道とも並行している。遺跡北側にはアタゴ所在塚群があり、南側には観音寺が立地する。これらを結ぶ古道と考えられる。

また、今回の調査において、神立遺跡内で初めて確認された井戸跡であるが、深さ約 85～200cm まで確認されたものの、いずれも完掘には至っておらず、底面までの深さは不明である。井戸側や掘り方など明瞭な構造は認められなかった。出土遺物も大変少ないが、中世と考えられる。市内手野町の井戸山遺跡では、「まいまいず井戸」・「漏斗状井戸」に類似した形態・構造をもつ 16 世紀後半～17 世紀の井戸跡が見つまっている。井戸山遺跡では、窪地掘り方の最深部ではなく、端に井戸側が構築されているように、神立遺跡においても中央窪地の中心部ではなく、ゆるやかに傾斜し始める標高 26m 以下にまとまって検出されている。窪地を横断するようなトレンチ調査などはなされていないため、中央窪地自体が人為的なものか判断できないが、今回の調査から井戸の形成と中央窪地との間には何らかの関係があると考えられる。今後注視していきたい。

最後になりますが、神立遺跡第 2 次調査にあたり、多大なるご指導、ご協力をいただいた関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。

引用文献

上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2007 「神立遺跡」『土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報』第 12 号—2005（平成 17）年度 43-53 頁

上高津貝塚ふるさと歴史の広場編 2018 『神立遺跡』土浦市教育委員会

土浦市教育委員会・土浦市遺跡調査会 1991 『井戸山遺跡確認調査報告書』

比毛君男 2009 「土浦市域の中世土器様相」『土浦市立博物館紀要』第 19 号 1-20 頁

写真図版



東-1区全景 (北から)



東-2区全景 (東から)

PL. 2



中央区全景（南から）



西区全景（南から）



第5号竖穴建物



第6号竖穴建物



第7号竖穴建物



第8号竖穴建物



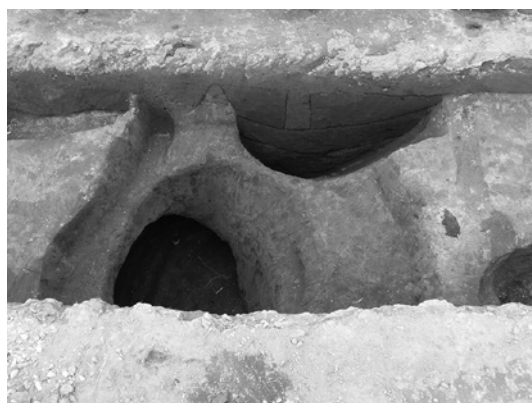
第9号竖穴建物



第20号土坑



第21号土坑



第22号土坑、第1・3号井戸

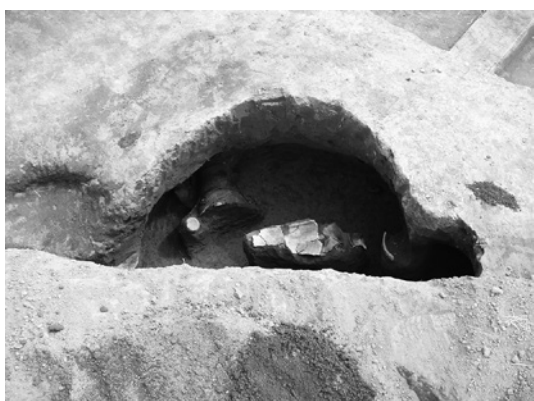
PL. 4



第23号土坑



第24号土坑



第25号土坑



第26号土坑



第27,28号土坑



第30,31号土坑



第32,38号土坑



第33号土坑



第34号土坑



第35号土坑



第36号土坑



第37号土坑



第39号土坑



第40,42号土坑



第41号土坑

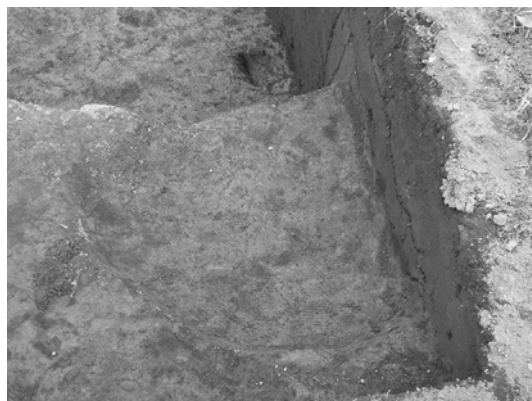


第43号土坑

PL. 6



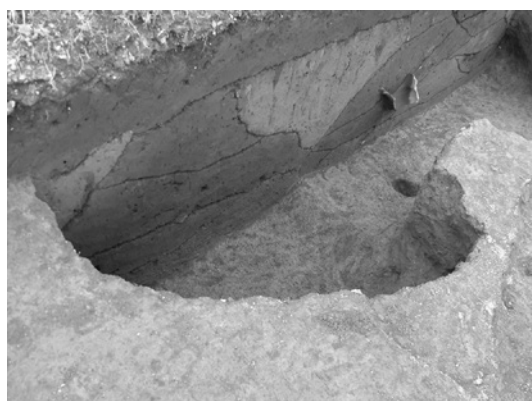
第44号土坑



第45号土坑



第46号土坑



第47号土坑



第48,49,50号土坑



第51号土坑



第52号土坑



第53,56号土坑



第54号土坑



第55,59,61,62号土坑



第57号土坑



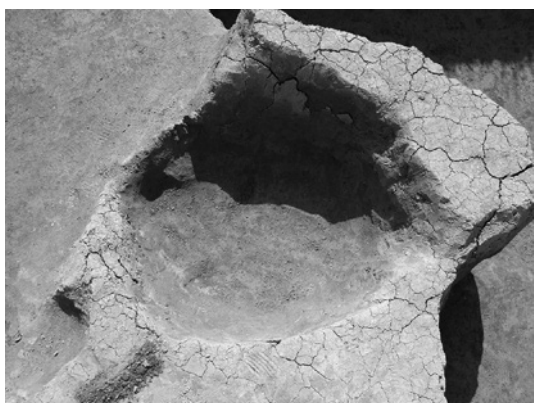
第58号土坑



第60,64号土坑



第65号土坑



第66号土坑



第67号土坑

PL. 8



第68号土坑



第69号土坑



第70,72号土坑、第2号ピット



第71号土坑



第73号土坑



第74,75号土坑、第3号ピット



第76,77号土坑、第4号ピット



第78号土坑、第131号ピット



第79号土坑



第80号土坑



第81号土坑、第7,8号ピット



第82号土坑



第83号土坑、第12号ピット



第84号土坑



第85号土坑



第86号土坑

PL.10



第87号土坑



第88,92号土坑



第89,90号土坑



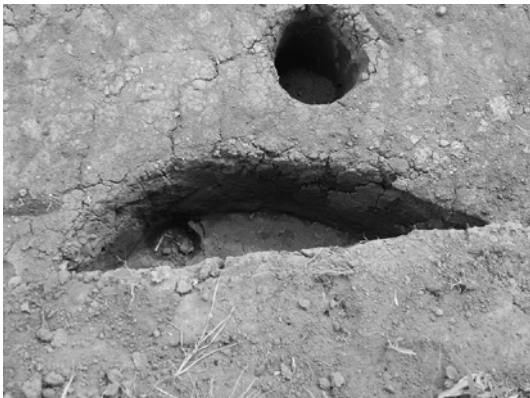
第91号土坑



第93号土坑



第94号土坑、第20,21,33,34号ピット



第95号土坑、第44号ピット



第95号土坑、ピット群3北側



第96号土坑



第97号土坑、ピット群3北東側



第98号土坑、周辺ピット



第99号土坑、第3号屋外炉、第60号ピット



第100号土坑、ピット群1



第101,104,105,106号土坑、周辺ピット



第102,107,114号土坑、周辺ピット



第103,116号土坑、周辺ピット

PL.12



第108,109,115,118号土坑、周辺ピット



第110号土坑、周辺ピット



第111,112号土坑、周辺ピット



第113,121,123,127,130号土坑、周辺ピット



第117号土坑、周辺ピット



第119,120,122号土坑



第124,125,126,128号土坑、第121号ピット



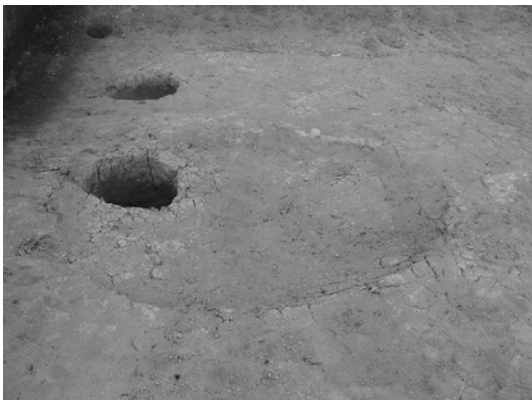
第129,132,139号土坑、周辺ピット



第131号土坑、第7号井戸



第133号土坑



第134号土坑、周辺ピット



第135,140号土坑



第136号土坑



第137,138号土坑



第141,151,152号土坑



第142号土坑

PL.14



第144号土坑



第145,146号土坑



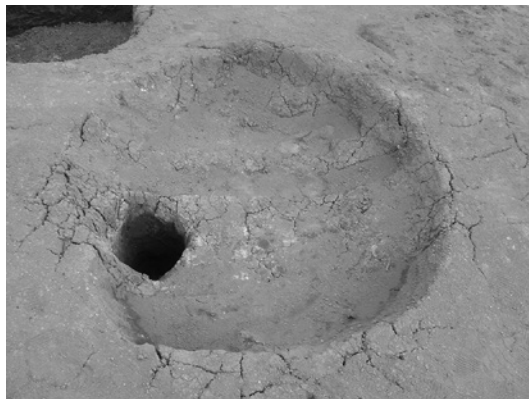
第147号土坑



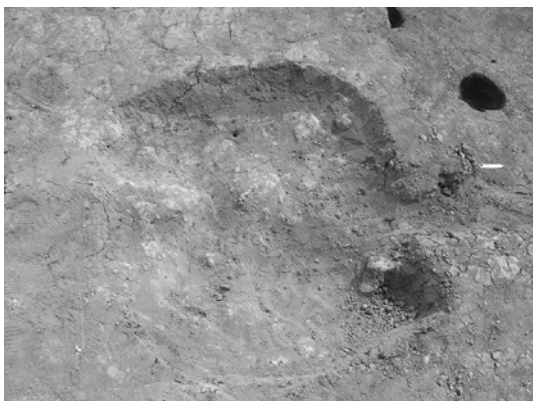
第148号土坑



第149号土坑



第150号土坑



第1号屋外炉



第2号屋外炉、ピット群2北側



第1号ピット



第5号ピット



第6号ピット



第13,41,132号ピット



ピット群3西側



第37,45号ピット



ピット群2南側



第5号地下式坑、第29号土坑

PL.16



第6号地下式坑



第7号地下式坑



第8号地下式坑、第143号土坑



第9号地下式坑



第10号地下式坑



第2号井戸



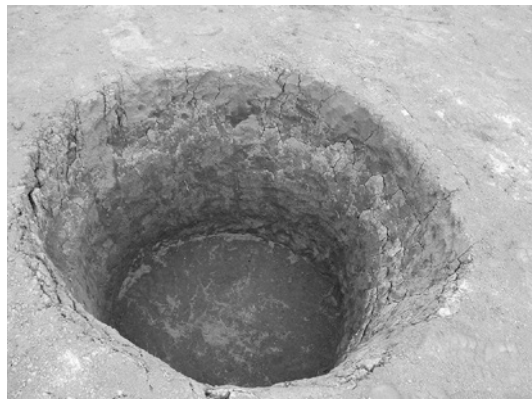
第4号井戸



第5号井戸、第3号不明遺構



第8号井戸



第11号井戸



第12号井戸



第1号溝



第2号溝、第63号土坑



第3号溝



第1号不明遺構



第2号不明遺構

PL.18



縄文土器 (1)



PL.20



縄文土器 (3)



PL.22



中世遺物

報告書抄録

ふりがな	かんだついせき（だいにじちょうさ）							
書名	神立遺跡（第2次調査）							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
編著者名	一木 絵理							
著者名	一木 絵理・亀井 翼・浅野 孝利							
編集機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場							
所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津 1843 TEL 029-826-7111							
発行機関	土浦市教育委員会							
所在地	〒300-0036 茨城県土浦市大和町 9 番 2 号 TEL 029-826-1111（代表）							
発行年月日	西暦 2022 年（令和 4 年）3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺構番号	北緯	東経			
かん だつ い せき 神立遺跡	土浦市神立町 字稲荷前 1273 番 1 外	203	185	36° 6' 46.3"	140° 14' 4.4"	平成30年 4月2日～ 8月17日	約1511.44㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
神立遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物 5 軒 土坑 114 基 屋外炉 3 基 ピット 134 基		縄文土器、打製石 斧、磨製石斧、磨石、 敲石、石棒		縄文時代中期後半のフ ラスコ状土坑が多数検 出された。	
		中世	土坑19基 ピット3基 地下式坑6基 井戸跡9基 溝3条 不明遺構3基		土師質土器、陶器 （古瀬戸、常滑）、 石造宝篋印塔、石 造五輪塔		15世紀中葉～16世紀の 遺物が出土した。井戸 跡が検出された。	

茨城県土浦市

神立遺跡（第2次調査）

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷日 令和4年3月31日

発行日 令和4年3月31日

編集 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843
TEL 029-826-7111

発行 土浦市教育委員会
〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号
TEL 029-826-1111（代表）

印刷 株式会社 横山印刷